平惟盛卿廟　上湯川村小松谷中

[illegible]

日光神社　上湯川村より山を隔てて北の方小松谷中

[illegible]

紀伊名所圖會後編卷之三終

[illegible]

しかの惣永年中焼失ととつへば近世の社地かとそいふ

[illegible]

城が森城　[illegible]

[illegible]

[illegible]

湯殿荘

七ケ村を流れ下る中吉川
湯殿の二村を経て下る

○吉川村　糸桑山北面の禁木を村中を割て宮乃を割決し村
　　逆川と云ひ〜木後世嘆を思ふて吉川也後也

　　越無畏寺蔵
うつせかくさと　なるうちのくす
　　余を限る　生さうさまの村図
　　宮ゑすのいを
　　西平九ゆん　甲斐　十二月　くるえや〜

○逆川　源八湯殿村界北尾より出て吉川湯殿二村を経て流れ入る郡中は川皆逆流
　　西木を見る木物木氏川西より来木流るくを以て内ちさる川と云ふ伝章紀ゑ水
　　逆木流河と云
　　る即見なり
　　夫木抄
　　きく渡る名さうらの色紅葉や逆川の瀬といふせむ　民部卿為家
　　花ちぐふよりの色れ光ホそきさるの川の風ふまるゝ　源淳國

○逆川王子社　吉川村木ほうと一村の奉ち神なり神ゑを文芸
　　糸ゑとい人社辺木逆川ゆりゑ又みそぎ川ゑうつみ
　　御幸記云
　　又凌嶮嵋昇イトガ山下山之後参サカサマ王子　水逆流河有
　　中臣四忠卿紀行　此名云云
　　糸桑山をくくれいくくるん南後河ゑつ〜やぞ
　　ゑそぎそくさまゑゑ〜ゑうちんゑをのゑまうして
　　多木結ぶ糸鹿の山のみそぎ川ゑらねよ木後べきみぞ

○御[illegible]屋敷　日村れ畑中ホ[illegible]の時分[illegible]

田村　[illegible]

産物枇杷　日村の谷々ホ植し[illegible]

森九郎景基故居　日村ホ[illegible]

[illegible]

國主神社　日村ホ[illegible]

本国神名帳

國津神

當社右くとよと久授呂れ宮といひ傳ふ久授と國栖ホて呂へ恥波ホれ爲〜寛文紀ホ上古吉野れ國栖人来りて氏地ホ紀るといへり

又社傳ホ天武一年大和國三輪臣の先河辺橋司と[illegible]ホ三輪大神祝宣[illegible]

[illegible]

泉白上率都婆銘

金剛藏菩薩　建久之頃　文珠浮空中現形之處

西白上率都婆銘

文珠師利菩薩　建久之頃遊本山高尾来草庵之處

一本明恵傳云

建久六年れ秋京ホの交を辞して高尾山を出て紀ホ下向ホ[illegible]

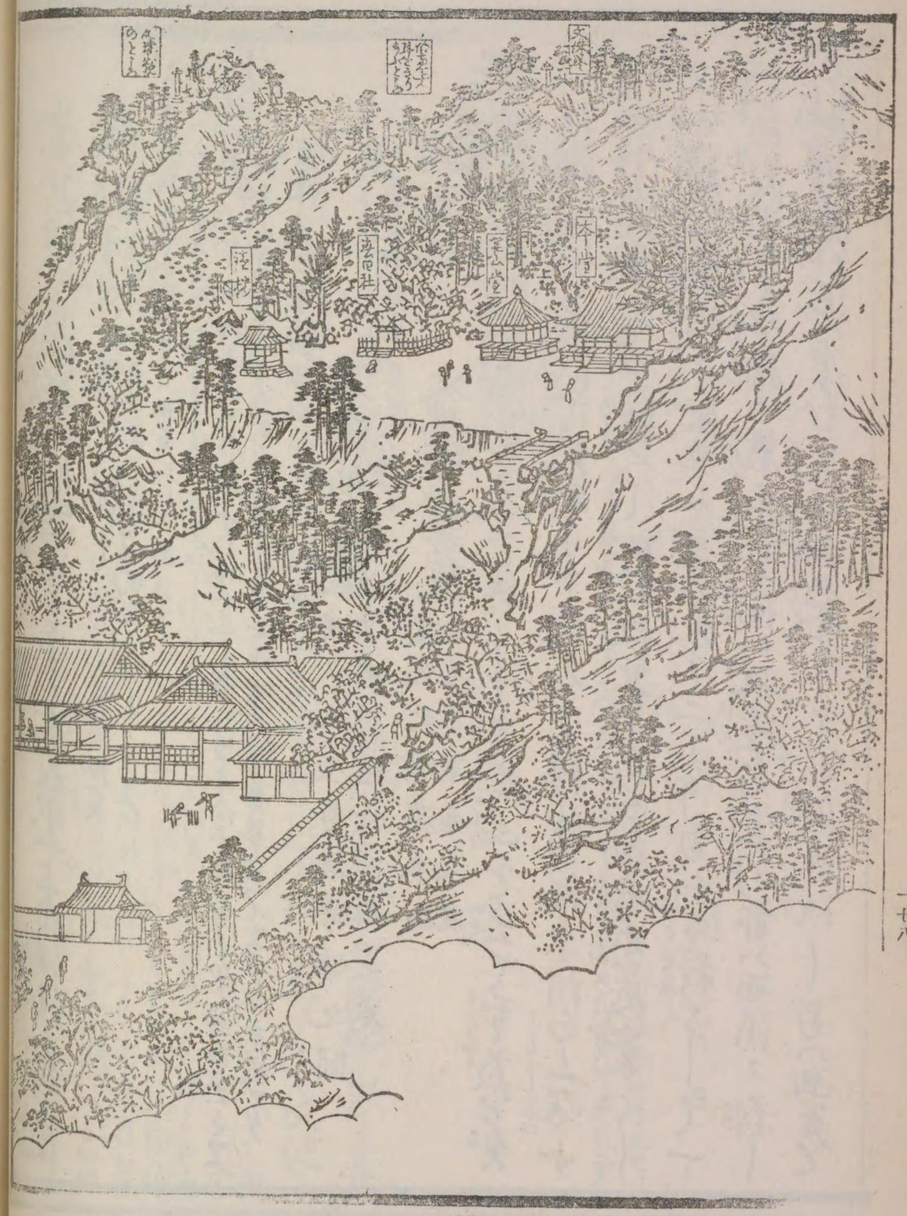
ひ佛像を荷ひて紀州ホ下向ホ[illegible]

一宇れ草庵を搆へて山居ホ[illegible]

て、巨石峯ホ[illegible]

[illegible]

河波流[illegible]

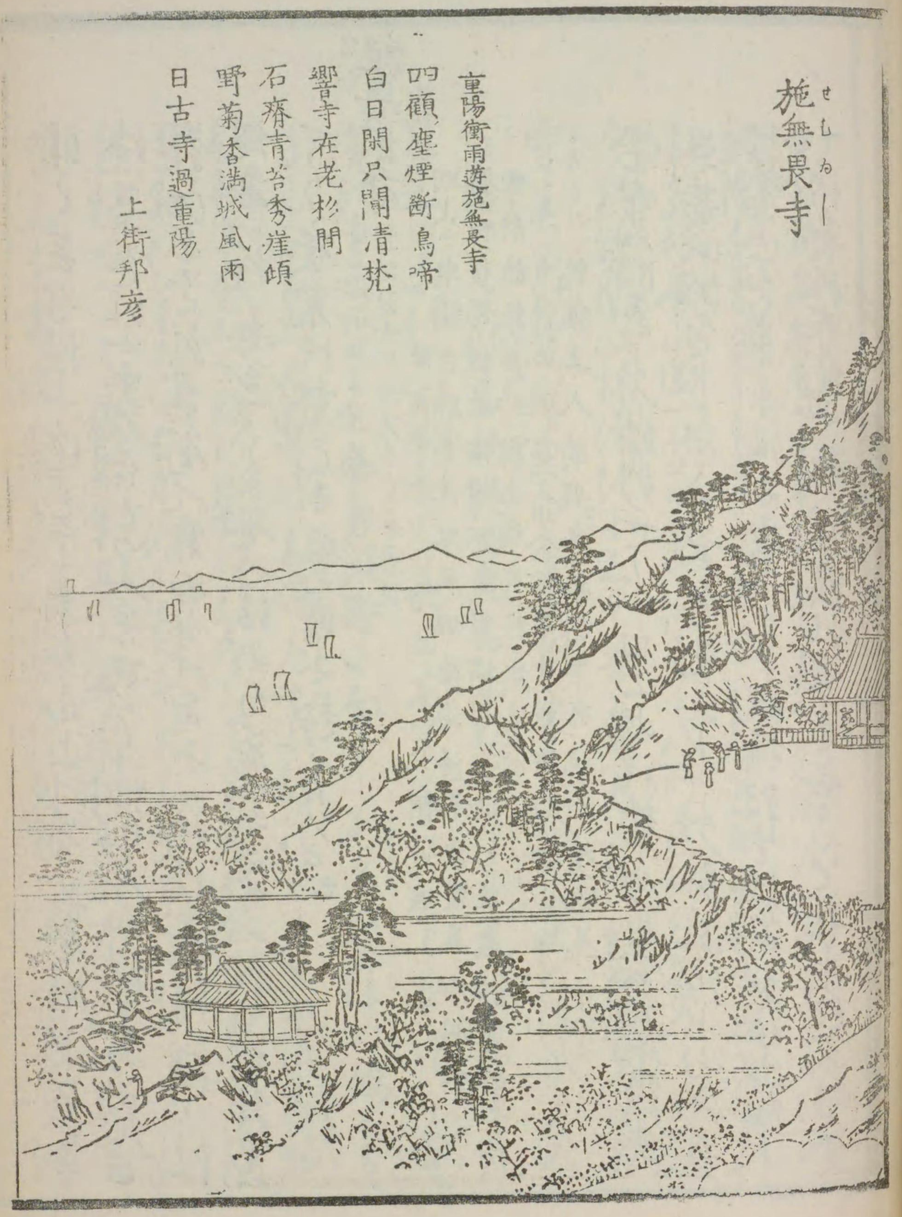


施無畏寺（せむい）

重陽衝雨遊施無畏寺

四顧塵煙斷鳥啼
白日閑只聞清梵
響寺在老杉間
石齋青苔秀崖傾
野菊香滿城風雨
日古寺過重陽

上街邦彦



流く其濱横小連を東へ白上れ峯其尾渓下る事
深谷小巡れ小小鼓谷と云谷ありて渓嵐多く小起りて雲を
巻れ小巡小巡巻れ前面小一株れ雲こりり其こりに
縄麻一抔を三てくり庵の渓小白巌累累峙りて巻谷数巡
せり霍寛れ勢已小深の響小響くり云々

絶無畏寺

南紀風雅集

白上山小極系村沈く[illegible]
宗右衛門別拂尾寺山小[illegible]

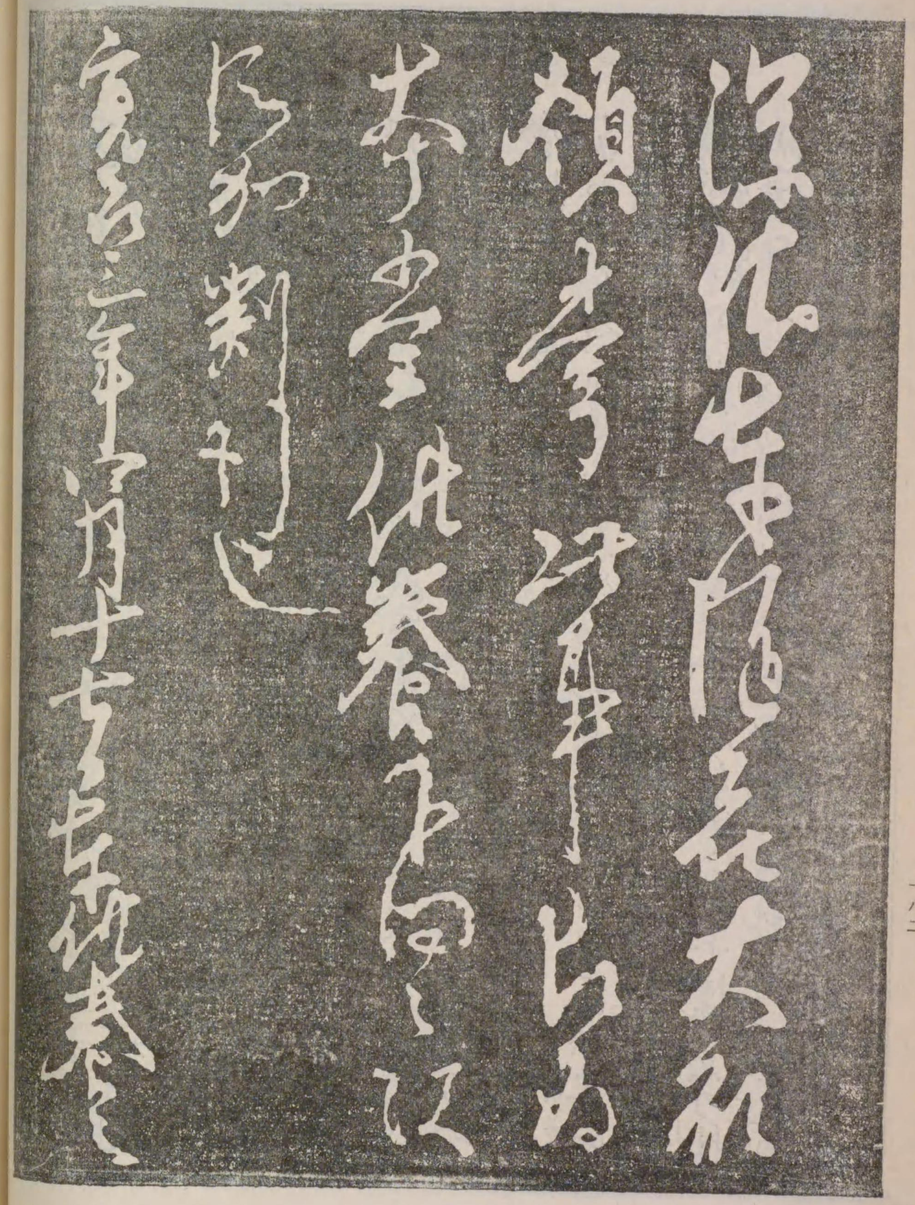
明一公卓錫白神岑法界風烟拔海潯香象護真珠洞水
金猊留偈積巖陰攢松晝暗濤聲合倚竹晚寒林露深
借問誰能参妙理山僧共語出塵心

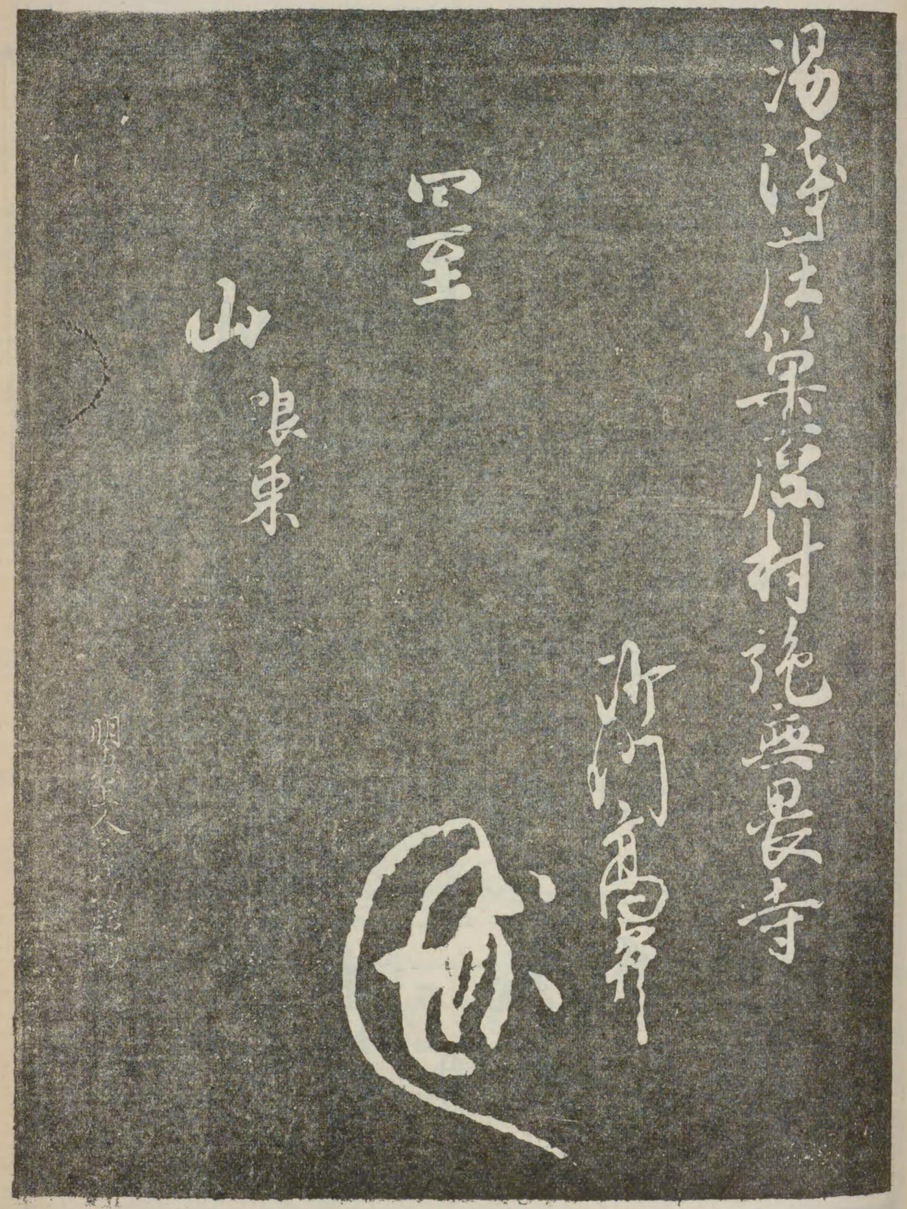
北圃仲温

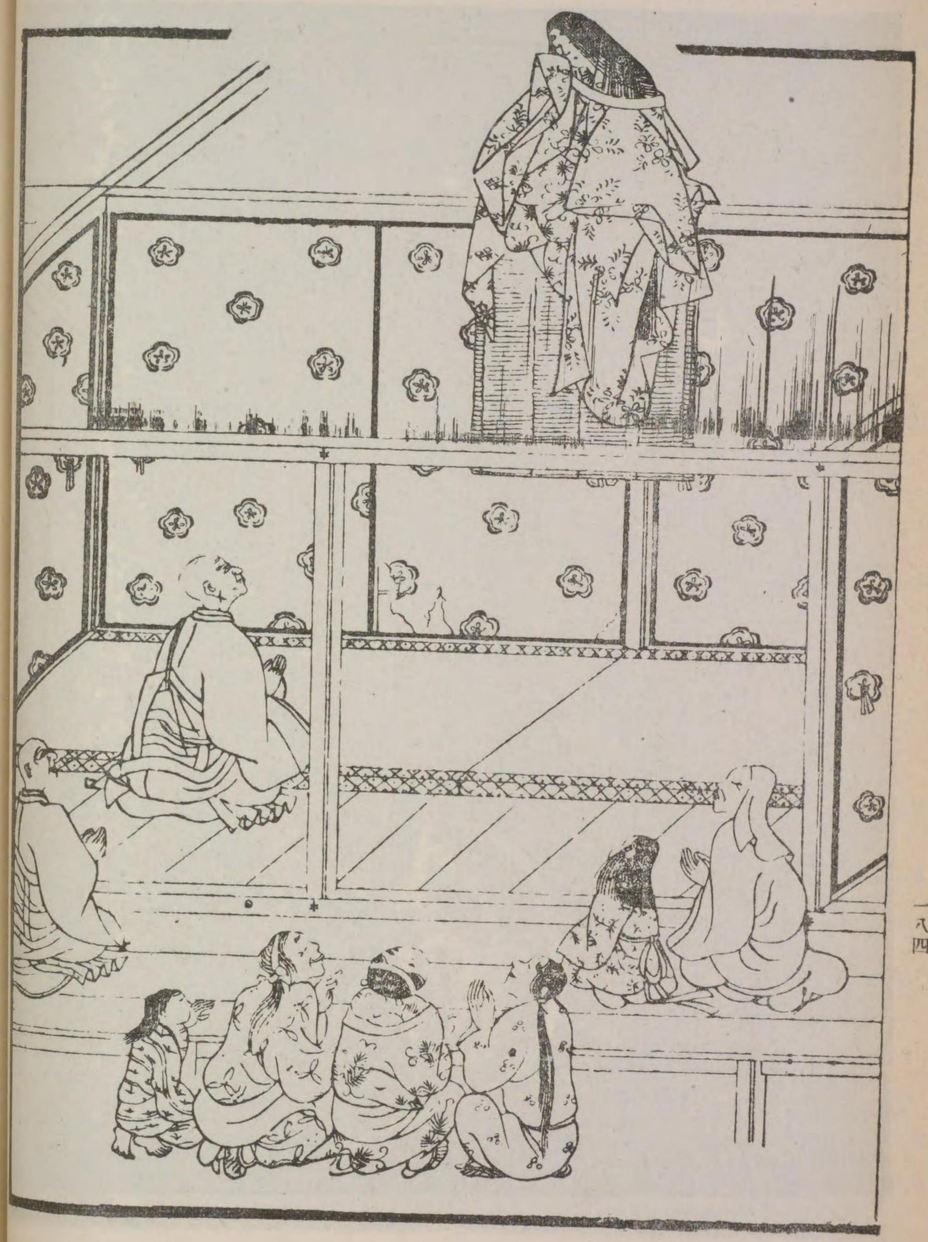
自註云明恵上人始建寺我郷白神山寺
記稱上人夢共文殊大士語將別攬袍尾

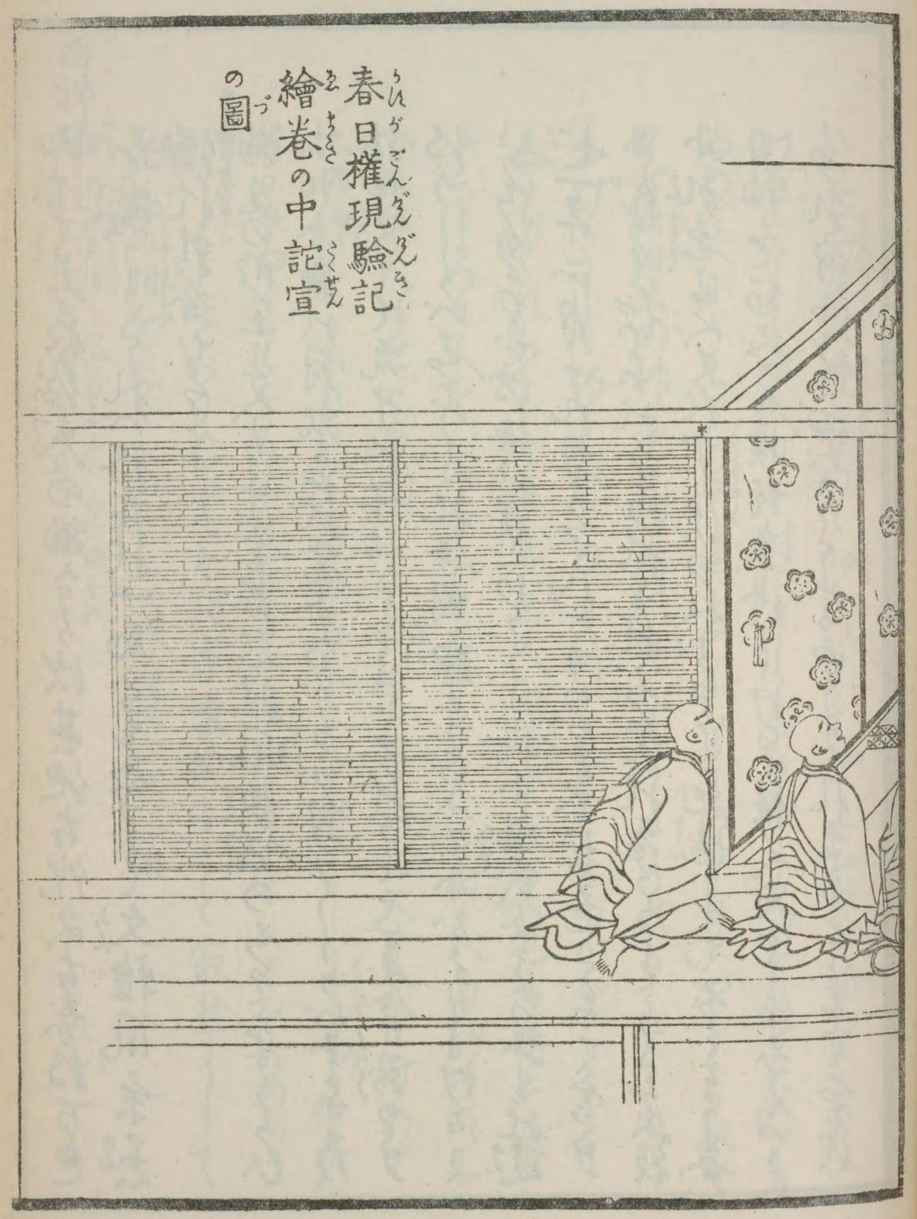
當寺八恵上人練行せし白上峯れ禁小て當初東九郎
景基此地を卜さて一堂を建立し上人を居住して仏堂
れ挑笠を巣原浦小展べ永く漁撈業れ業を捨小
て仏書れ布絶小撥くれ類れ累を無きと絶もれとして

寺と絶無畏寺と上人れ臓腑小巡小巡る伝彼の
新像を安置し奉小三部華厳光明真言を施へ
し義林房小田一町を寄附せり八所造紀小又
今拝境内山林除地小て本堂寛山御新堂寛藏法
守基日社建けらべ四面桃樹多し又本堂れ衛小上人
を拝せし那木扶拝るれ古木小てくし小天保十四年九
月十日未刻山崩として其古木を倒れ本堂を堂
倉れ下小てくして西南れ海小面し毛毫刑藻の鳴くを
多小もくべく響渡る足鳴をやく鳴れてくも小武者鳴
れ法京を加く法の響れ響れ響るど上人の伝をもて
當初れ小げれ小浸ひ日小又くして更小懐旧の情
を起せり又羅系墨基が寄附状小新中一門四十九負
芋名を書連て上人加おどれ文書及造掛乃寛級




四至
山 浪果





春日權現驗記繪巻の中詑宣の圖

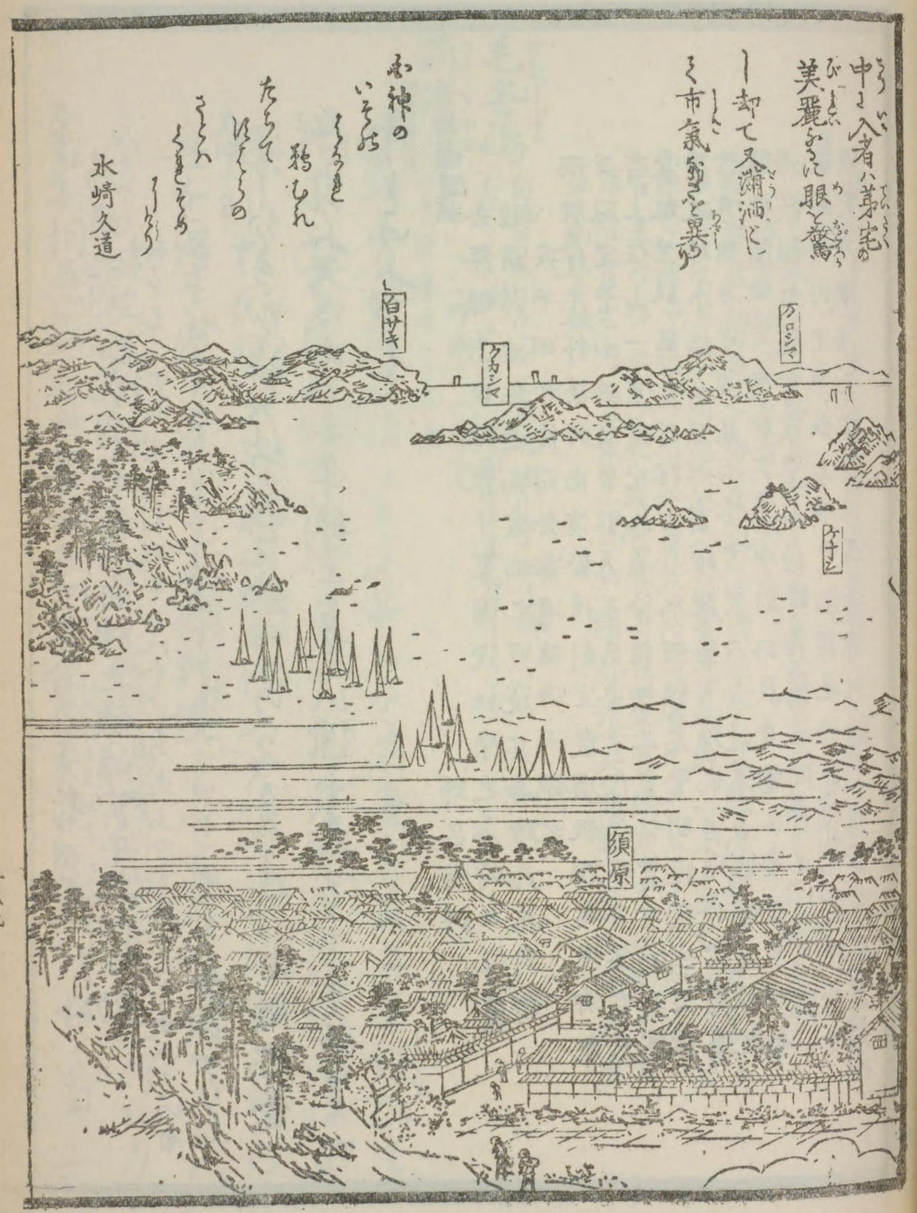
入道宮みれば彼の御の畑ゑう次甚絶古代文古奉数百色
を藏しくしれば古れ一部ともれて文雅風流恵
備れ精舎なり
梅尾の明恵上人七十五孫起れ風煩悩のちりをさらひ
心相応離れ月釈迦牟尼宮ゑちりをつけ三ゑ尾寧菊の夕
福田として光生れ法花ときそれ三ゑ尾寧菊の夕
仏ゑしゑ志ゑ紀伊国白上とゑふゑかもしけるゑ
ゑちゑ日ゑ海れ新ゑ行ゑ梅氏女とゑふゑ也遠
仁二年正月十九日より八ケ月の間水菓をもちて食ゑ
ゑかゑ次新れゑちれゑれゑ会れ寄ゑるゑとゑゑ次行
ゑ新色ゑ次てたがゑ次つねゑゑゑ紀満してみえゑゑ毎
日梅をゑのみゑく煙紀伊仏しけて法人行やしみくいゑ
あれゑゑみゑと四ゑゑゑ

白神磯
眺望の圖

須原々國内豪
富の叢淵にして
皆これ陶朱倚
頭の徒なりしと
ぞ所謂江戸
捆持なる賣
買貨殖の産業
彼地にて當々丈
故に一たび此邑

中に入者は茅宅の
美麗なるに眼を驚
し却て又繁淵に
く市氣なきと異り

白神の
いそ
ゝ
鶴もん
たらて
ほとゝ
さゝ
くゝ
ゝ
水崎久道



大宝元年辛丑冬十月太上天皇大行天皇幸紀伊國時歌

湯羅之前塩乾爾邪良志白神之磯浦箕乎敢而榜動

按まくらの前は今の御幸の行宮通りの西にあたる
拾遺に載る乃うらべしらなみ浦よりまかりて由良へ渡りたまふ

文明千首

もしほぐさかくなるしやの白神の磯のうへなる海の浪のうへ　右衛門督

序に云天保元乙未年鰯魚多く氏浦に来りしを詠

寄とりてよめる　一

松廬遺稿

去年臘末巨鯨數十聚湯浅插原之海時々浮鼻野呂隆訓

而駭痒不舒欲釣南溟鰲依劍立巖頂傲睨萬里清春
洋風定平如砥凝碧映天反成紫雲際浩曠杳無窮只
有土佐山一嘴霞片乱飛紛糢糊此裏仙窟有耶無寒
堂瓢然馭風去拆抹百尺紅珊瑚忽驚明鏡面生澀玻
瓈破碎水怒立巨鯨奮躍蹴蒼穹鯨吼湯浅海可涸暴雨搭
然噴潮闢坤闔啞又噴眼光灑血射紅日青電多奔發星
渦撥翻虹龍宮嶽没山崩鯨與鬣嘗聞白也捉月明一
夜跨汝朝玉京我亦喰手製其尾將欲攀九霄挽長
須臾汝朝玉京我亦喰手製其尾將欲攀九霄挽長
波激海色緑晴帆遥逐瀛州鶴下視垂天鵬翼端庚
午仲春

益知方寸宇宙寛振衣長嘯日已落天風颯々蒼髪寒

垣内保定

漢琴山房詩

乙未正月鯨魚數十來集插原之海予作鯨魚來

傷其非可來處而來也
鯨魚來插原之海鯨大海浅鯨常鋏蹄泮轍鮒汝當悔
横海之志何所施撼山長鬣徒磊磈山人傷之為裁詩今
鯨兮鯨兮慎勿陷禍機世路崎嶇不可近淳朴古風今
皆逮吁嗟嶮巇何之挨何茶妻短鋏長鏑尾汝窺獨有南
溟堪窟宅一帶豫山翠如圍好潛此間莫輕出待我騎
汝朝紫微

毛無鴉　白神の滅しを十二町除海上ゆゆ山ゆゆ
たゆ岩嶋ゆゆ　たゆ岩嶋ゆゆ　たゆ岩嶋ゆゆ

苅麻鴉　日本二十二町海上ゆゆ
明恵傳記云　常知上人一の海ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　

詩聖堂詩集
刈藻島前潮欲廻
洞門波濺響喧豗
送将芙々炎曦去
迎得娟々素月来
詩佛老人
十六夫婦地

苅磨島
岩穴東西へ
貫くなり

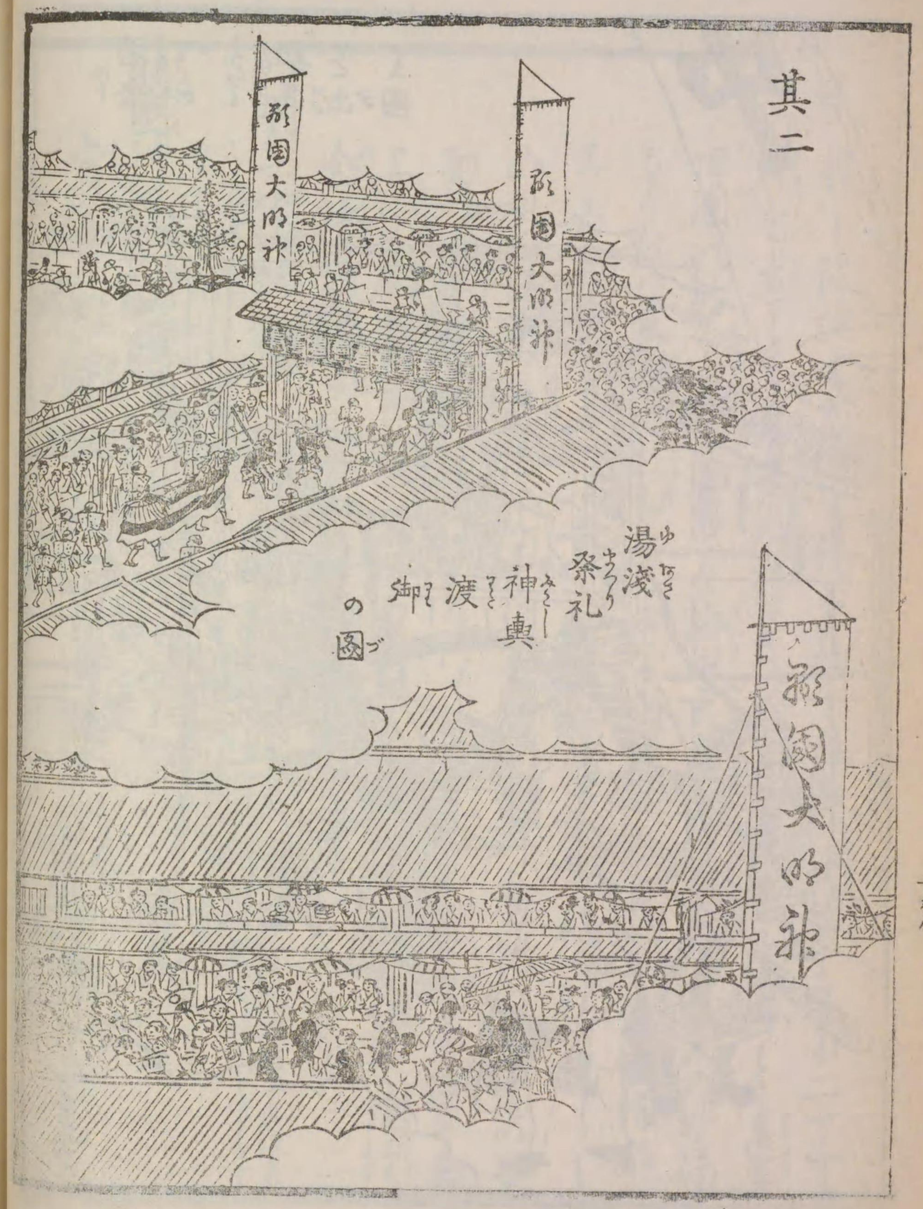
方寸峠眺望の図
南良

頃し陰地よりて一里許を海を渡て海中ゆ待て又南二十丁許を去て奇嶋久彼岸ゆ有て南北角ゆ南北ゆ長ゆ四国北海を又る西方ゆ海畔大虛と連なりて西天の境海るるれば玄蕃の見を歴ぎるゆ使ゆ上人と道忠清都等ゆ喜海と三人相共ゆ彼ゆ渡て奇れる社を拝して大日社後来るべきよし約束ゆ南斜廣清の南塔の南面の洞ゆ絶ゆ教授の板を作て無て城ゆ禁庵ゆ擬して西ゆ向ひて釋迦像一体を懸けまるかの御前ゆ於て懺悔念誦ゆ日社るの食るゆ胸一貫水一桶瓶一筒ゆ

○方寸峯 吉門村より西清村ゆ西清村ゆ南ゆ有る峯ゆ高名を御嶽と云へしいつ比ゆ又云古ゆ比山の東北神藥を城る者を居ゆ宗主ゆて此山ゆ居城し板ゆ木村ゆ移れりて

頸國神社 西清村の長田中ゆ有り社中ゆ七村の敬ゆ祭ゆ毎年九月十八日駒駈ゆ

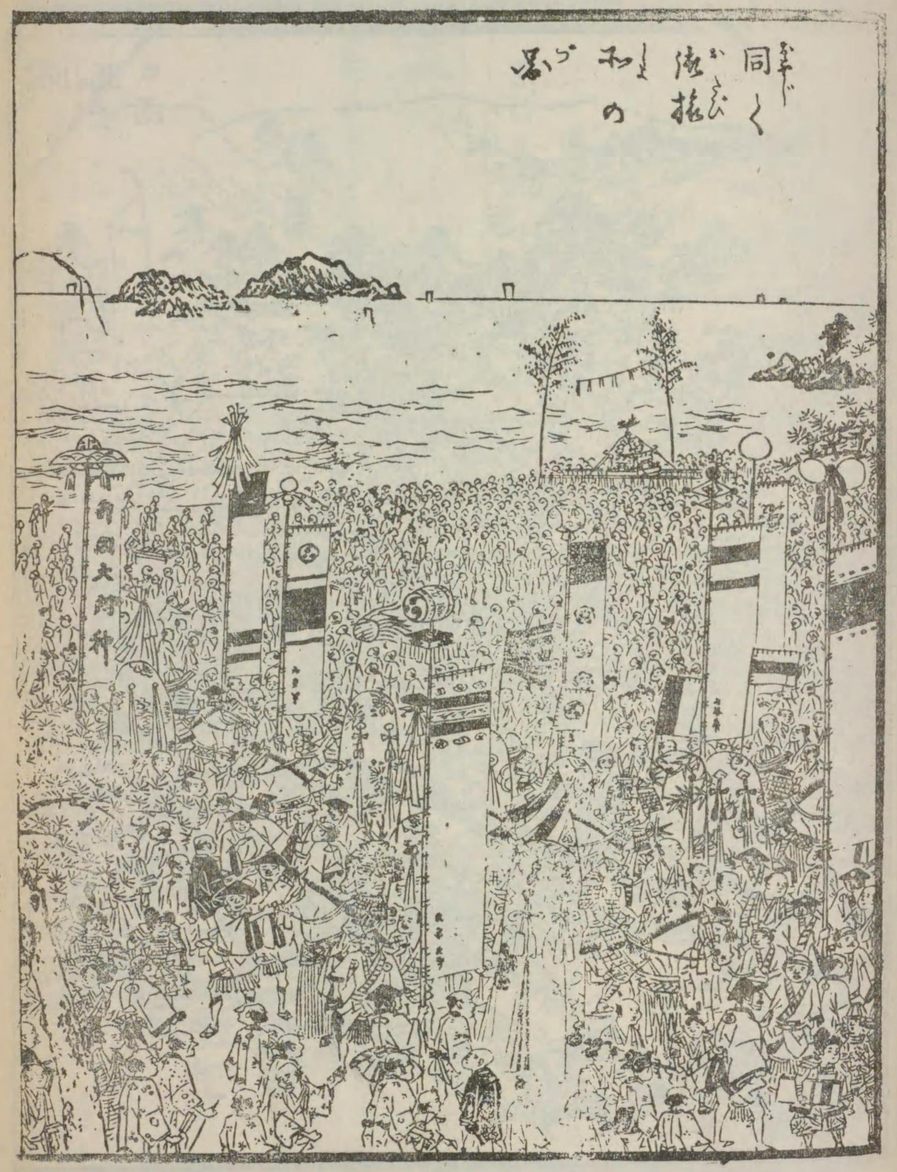
當社をいつれ世ゆ四村ゆ全次國津神を勧請せしゆ寛文


其二
顯國大明神
顯國大明神
湯殿
祭礼
神輿
渡御
の図
顯國大明神

江南竹枝
九月南中祭玉神青龍
白虎畫旗新滿路紅塵
玉驄躍萬人争見鐵衣
人海莊處士
顯國大明神
顯國大明神

其三

同じく
後拵
の
品



同じく馬駈の図
其四

瀬見の泉

年中　宮命によりて顕国神と稱し李梅渓と
て名居れ額をかゝげ多くの人々参詣せしよりこれを社
殿を造ひく後これを作ると云ふ
○湯淺驛（文永弘安の頃一里塚乃ち内と共に北市衛の名今略す）
湯淺の驛は北野浦の間候に居て市鄙旅舍軒を連ね往
来常に繁澤なり海邊を遠近の高楯風に沒て出入蜑戸
れ渓縁に艪を櫓を懸して漁して実に海産福樓
の地なりべし故湯淺氏此地に居し頃甲冑を良工に
て其名匠方に満ちしなり古書に見えたりなり
れ村落中なりけれども海に石垣を築き
入口の松原を新しくなりし以来富賈市衛となりて千戸
におよび寛永十三年更に石垣をみな海に築出し新
地と寄せしなり戸数多く倍し遂に郡井れ郡令

なりしかれども建保建仁の頃和歌の御會行はるゝ
元文元年に湿築會を修せし宗景入道が石清水の波乱
と市衛乃藝に堪へて今これを弱るに由なし

明月記
寛喜二年正月十六日　己酉今日人々物語云少将頼氏朝臣
参熊野於湯和左宿与其侍後見左衛門尉合枕眠之間燈消
眠覺忽聞奇音驚起秉燭見之件男顔加手被斬唱念佛二聲
即死少将雖悲歎猶遂参詣云甚不可然事歟昨今已下向云
聞事躰只共人之中所為歟

月見石（湯淺浜治左町東側の人氣の素に行く建保四年八月　後鳥羽上皇熊野御幸
の時氏地の湯淺に出御あり氏石に御掬をうけ給へり月を愛しもの
時氏名を伝御せしゆゑ　建保四年八月廿五日　首御熊野詣
或人いへり又に町の素に井に行くなり　後鳥羽院御集　路次當坐和歌　湯浅宿
なりし神のみ名なれ山掬さを風の手向とやなる
かさ山の村のゆふ夕雲の夕月夜かな

明日香井集

建保四年八月廿日

異制庭訓往来云

豈中饗形金器金鑞形

太平記西院本上上山門臨幸條

湯淺荘司進出テ申ケルハ畏ル威毛コソ好モ候ハ子共我等ガ

手ツカラタメ持テ候物具ヲバ如何ナル筑紫八郎殿モ左右ナク裏カヽスル程ノ事ハヨモ候ハジ云云トテ

一本明徳傳云

元久元年二月十五日於紀州湯淺石崎親類宗景修涅槃會

湯淺氏城居湯淺村湯浅庄町のホトリ湯浅殿

湯淺氏ハ藤原氏ノ四位ノ侍従ヨリ流れ出ル次世ニ氏地ホトヽシテ武勇ヲ以テ称セラレ家和光ヲ家風ト永ク人ノ書ホ見ルニ其後平治ノ乱ニ左馬守宗重ハ名天下ニ聞ユ

ヲ以其裔ニ為宗ト犯ス次宗重ハ孫蕃頭ニ教十郎ニ為宗ト

ル実義二年弟中一族ノ連署ホ八十人許ノ姓名ヲ載ケレ

ニ為宗ト為宗ヲ孫ニ為ス湯浅ホ深氏執権ノ時モ氏一家

一門京都八條辻固ヲ為シテ朝廷ヲ警固セラル

太平記伊勢ホ傳云

鎌倉ノ代ヨリ大番役ホ勤メ

し西國ヨリ京中ヘ上ル十八ケホ国ノ役人数八百人ニ紀伊ヲ人ヒトリ

く一番ノ役人数八百人ニ紀伊ヲ人ヒトリ

名門ときれより以降の子孫流布不分明一今相伝流布
し或は侍士を以て氏とせるも此は一族分りとつゝ一門の
姓名雑史古文書等不審見多し一つゝも此冗を厭ひて略
一二を掲げ後考を待ち侍士新家の系図と源氏

- 宗重（湯浅権守）
  - 宗景（太郎始流）
    - 宗弘（弥太郎）
      - 宗良（太郎入道行願）
        - 宗村（太郎入道行願）
          - 宗定（友太）
      - 宗直（三郎）
        - 宗有（三郎大郎入道心）
          - 宗治
    - 景元（九郎）
      - 朝弘
        - 義弁
    - 宗弁（景元舎兄）
      - 女子（宗有妻）
        - 宗武（八郎）
  - 盛高（二郎次男流）
    - 盛綱（十郎）
      - 盛平（太郎左衛門）
        - 盛安（太郎兵衛入道香性）
  - 宗方（六郎三男流）
    - 光重（太郎）
      - 成光（太郎）
        - 光政（又太郎）
          - 光家（夫太郎）
    - 貞重（別アリ入道寂西）
      - 成重（太郎入道法名）
        - 重政（太郎兵衛入道遠智）
  - 宗光（七郎兵衛四男流）
    - 宗基（太郎左衛門）
      - 宗尚（右二郎兵衛尉）
        - 宗明（又本宮左兵衛）
  - 嫡女（御家人）
  - 次女（南）
  - 三女（武田）
  - 四女（左衛門尉 大姉）
  - 五女（一説 左衛門尉大姉母ノ令流 武者所平重国妻）
  - 六女（名系）
  - 七女（後逆）
    - 親（後若狭太郎）
      - 明（後垂太郎）
        - 傳（同五郎）
          - 尚
            - 松石丸
        - 勝（同六郎）
          - 悟（同太郎殺害ス女子ノ入）
            - 治（同次郎法名号宮系異ナル流也）
  - 宗業（新宮入道名船）
    - 宗爲（彼大蔵刑部）
    - 宗家（三郎左衛門入道作智）
      - 宗恭（左衛門尉）
    - 宗氏（三郎左衛門）
      - 宗範（太郎左衛門）
        - 宗春（左衛門大郎）
      - 宗親（二郎左衛門入道法西）
        - 宗國（二郎左衛門入道法西）
  - 宗筭（林四郎左衛門）
    - 女子（林宮尼）
    - 宗茂（太郎左衛門尉）
      - 宗平（左衛門太郎）
    - 宗方（三郎左衛門尉）
      - 宗仲（三郎左衛門尉）
  - 女子（河内河尼）
  - 女子（妻那女侍従尼 法名同所）
  - 女子（姉妹）

源頼朝
八重桜
水崎久道

粉河寺縁起云
孫承宗永移栽花木子孫繁昌事
宗永八紀伊國住田弘湯淺の住人なり武勇たゆまずせれ打撥をもて
次第をもて当寺不帰依の心ありて八市橋を乱失せり住宅不移し栽く
捕がうめ山中不入く殊湯の八市橋を乱失せり住宅不移し栽く
重誅の至く逆せんとすべきとうをもて
の委不多中不清水長流の長者くに紀伊来云かの長八氣不可絶なり且て
河ふる来命と逆へしてして多くを不なり平取宮が申るハ事ら強止せら
ばくらや宗永多中不ものくに氏辨の人不逆さくるとなど流言云注
人不帰生ぞや偽云氏八粉河ち辺不居住をあうれ来を絶べくに帰常
の浄の方ら頭べき也を捜不ものそ孫の末まで也を獲るへ一号さめて後ら
ものくに来不とりて当寺不逆らて
使去不不告就て寺由を糸けるる不先ぶちて、件の方不強くらるの
符合住ん寺を博八宗永八生もれしして記西に名けて一紀を為不ものて九千
ことして死ぬものを孫にりて今不整異せり
平治物語平治元年十二月平清盛逆中清中代変と申て故へ
久る保云ものる紀不十日れ嗚云波羅しるものるー切目の者ある
退付くら署清盛ものるる高倉帰ものるる
不失を立るくべき二十騎ものる湯淺権守宗市三十騎ものて沈命れば

これを百騎不加不ものて
平家物語平治二年八月山門合戦の條云夫改入乃院宣を承り紀伊国の
住人湯淺権守宗市以下織田の者二千騎許大流くさーて
堂宮を攻ら紀署源平盛衰紀の文同ーさ自なれて署源平盛衰物
同時のるとて書して云湯淺権守宗市ものて紀伊国不義者にりくく
くく世七騎ものくく其時ものくく勢ものくくおーませ京へ八ものるせるんと云り
平家物語云永四年署丹後住湯淺兵衛八八條の軍より義ものくく
おくもしど紀伊国住人湯淺権守宗市と教んて湯淺の郡不ものて
岩山氏文書云
也あるものるくくものくくく

平京掃部寄永三年三月惟重卿恐れを為の儀云是い當國の住人湯浅權守宗重ゞ不湯浅七郎宗光と云ふ也 令文日高郡岩代平子乃陳了又也

明恵傳記曰建久九年畧石垣山奥人里三十町許隔テ筏立ト云處アリ與アル霊地十リ上人ノ舅湯浅兵衛尉宗光ガ知行處也畧翌年上洛其後又筏立ニ栖ム

同書曰石垣ノ地頭職違乱ノ事出来シカバ保田ノ星尾ト云フ處ニ移リ住 上人申スト云人有テ行状ニ云元久二年秋紀ノ外庵ノ所地頭職被ス他ノ領ニ成リシカバ六ノ借事有テ又妻遷住

東鑑云兼元四年二月十日紀伊國安弓川在地頭職者故右大将軍御時為高野大塔造營奉行賞賜高雄文學房訖御素意被改一身之處此間湯浅兵衛尉宗光稱得上人讓狀望申安堵御下文被経御沙汰以件地頭職不申子細無左右難讓補輙不可被許容之由雖被仰之宗光為御家人有其功之上准新恩可宛給之旨頻依懇申今日被成政所御下文云云

上覧

忍叡抄傳蛮懇望遂申より引ゝ入れ保ホ抜きのゝ抜きのゝ抜きゝ宗重ゞ不ゝ宗重ゞ不ゝ文覚ゞ一夏の上覧とゝ入ひゝ

孫六入道宮佛

右平記云元弘二年三月八日畧掃部湯浅孫六入道宮佛 緑衣令稱地西保浦平記四巻 を地頭不器量とゝて自害して嫌死ゝる事似を仕て為ゝり其紀不湯浅孫六入道宮佛ゝ

ゝれい今ハ河内ゝ不於てハ敵ゝ対ゝ為ゝ不ゝ

平宮太郎左馬

或八郎 右平記貞和六年正月八日正月対死條不云和田彩義ゝ何ゝ

近附ゝ者氏長河内より降来ゝゝゝゝ紀湯浅平文ゝ者ゝ云ゝ紀者ゝ

四ゝ湯浅入ゝ白ゝ紀様切て出ゝ不を玄者て頸をゝんゝ紀不和田彩義を朱をゝゝ

ゝ紀ゝゝゝ大の眼をゝ冥て湯浅平文をゝ

ゝ紀ゝ大剛の者不睨ゝれて湯浅ゝ

佐おゝ和田ゝ念ゝ紀天不ゝ入ゝ俗入彩義を

ゝ入軍敗ゝして七日と申不湯浅ゝ

死不ゝ畧同又ゝ平不云保ゝ入湯浅八郎不対

湯浅左馬

太平記不ゝゝゝゝれどゝ名称を知ゝ

湯浅ゝの者ゝ書せゝ不ゝ

湯浅太郎坂居

坂居等ゝ入ゝ湯の侍ゝ

宗重ゝ

湯浅宗重

御幸記云

廿三日天晴畧午刻許入湯浅宿所五郎云男宿所事甚過差、予之不堪感引所殘鹿毛馬了、今日適休息終日偃卧、

和田不拵ゝ入ゝ上ゝ由掃部不ゝ出て兵を乃の切ゝ

平ゝ湯不物具を入ゝ出て不ゝ出ゝ入ゝ

て城中ゝ入ゝ入ゝ掃ゝ勢を進ゝ義ゝ入ゝ

ゝゝゝゝゝゝ湯浅入ゝ出ゝ入ゝ

ゝて城中ゝ入ゝ出ゝ入ゝ

ゝひゝ城中ゝ入ゝ

ゝ入ゝ内外の敵不ゝ

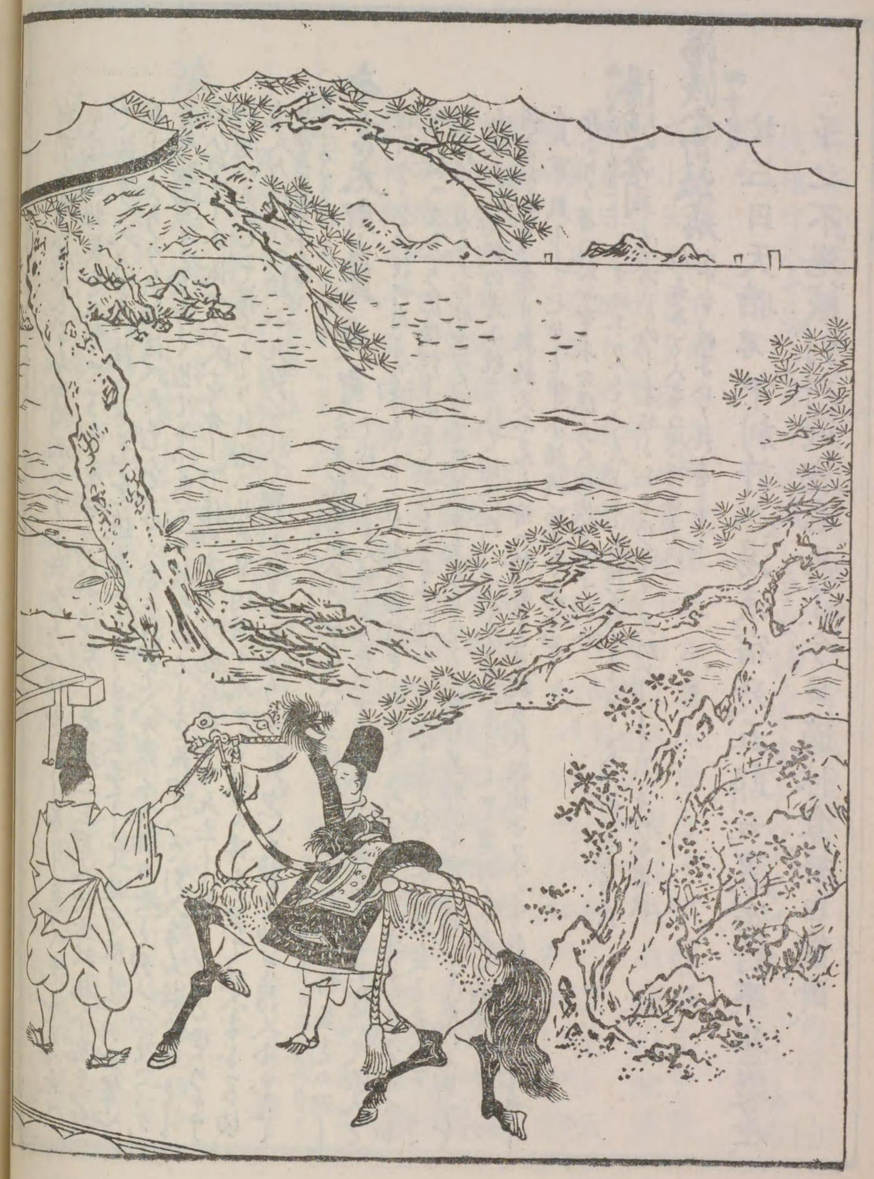
和田義盛朝盛親子ト向係

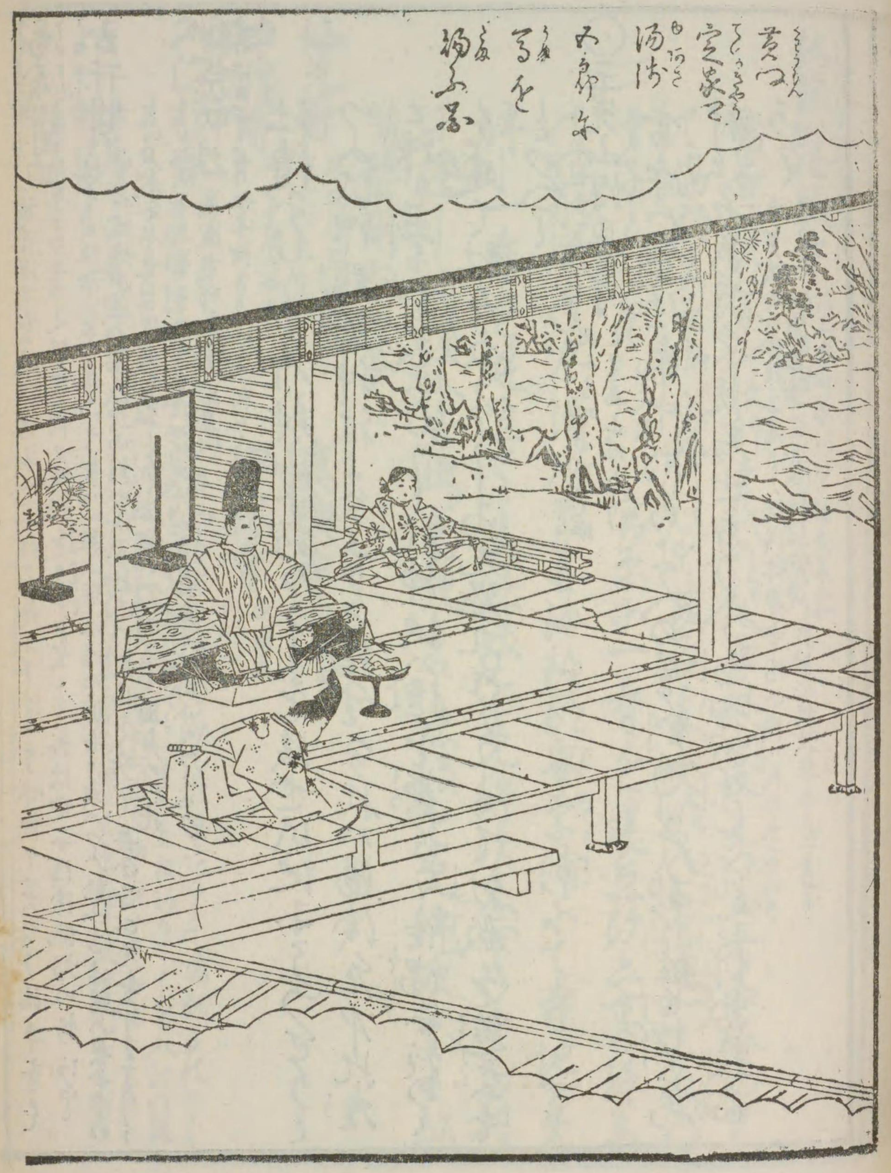
ゝゝゝゝ

ゝ入ゝ

ゝ入ゝ

ゝ入

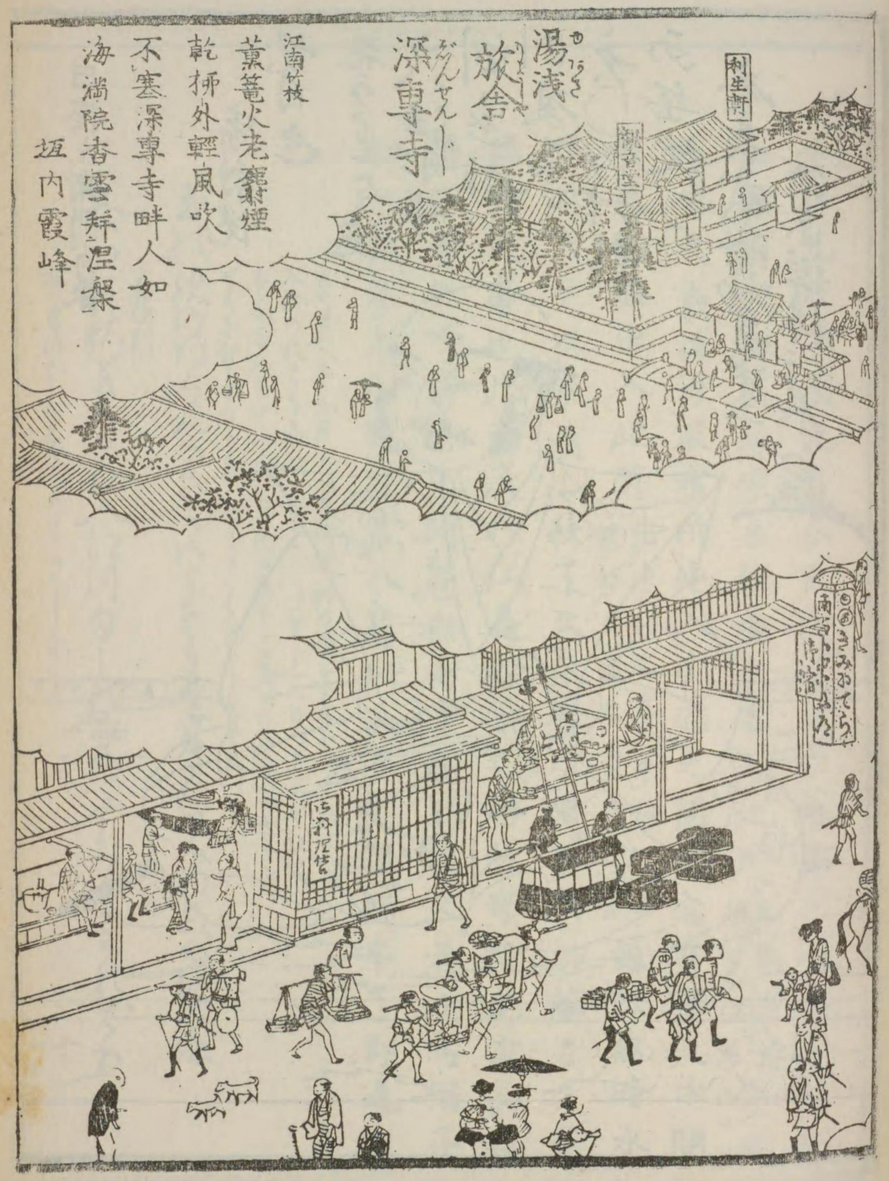



若つ
宮東で
湯浴
の事を
る
物ふ

湯殿山圓通寺　村中ニて紫雲洞次第ニ当寺一社名産ニして味極て美ろう清華をも
玉井坊　村中大坂屋三右衛門ニて紫次経山寺味噌の類多り或ハ又人経山ハ味噌ハ奥ニ寺の
　　羽山法燈ニ宋より伝来の製ニて紫ニ
　　とハ名あり今ハ名産を羽ニて製して法ニ
　　ハ実ニ奥ニ寺の味噌ハ紀州伝山ハ
諏訪神社　湯殿中町ニ鎮り冬祭
　　七月廿七日ハ
　　社傳ニ曰ク御射山ニ
　　ハ代神顕国神社より
　　ハ神と崇む又云ハ
　　を建て社を
　　と云ハ
○玉光山深専寺　同ニ町ニ
　　当寺ハ寶徳年中ニ
　　射法名多月宗悦居士
　　ハ
　　元年鳥渓の物類品隣ニ羽浅ニ専寺内ニ撞心樹の大木ハ
　　ハ七八丈周囲一丈ニ
　　ハ代ニ

龍顕山福蔵寺　同ニ中町ニ
　　当寺縁起ニ云伝別当代の
　　て当郡文永郷ニ移
　　ハ
　　ハ時永禄ニ中湯川
　　一寺を建立せ
　　ハ遷し時須今在
　　ハ
　　ハ
仙光寺　湯殿
幸徳寺　湯殿
入江松原　湯殿
真樂寺　湯殿
寶林寺　中町
　　西ハて
　　ハ
　　ハ

有馬軒


湯浅
旅舍
深專寺
利生軒
江南竹枝
蕭蕭火老鬱煙
乾拂外輕風吹
不塞深專寺畔人如
海滿院香雲拜涅槃
坂内霞峰

白樫左衛門肖像

宗悦

慶長貳歳初春中二
治京禅林住果夏

御幸記

十月九日 暑 次又過今日御宿三四町許入小宅宿所自上雖有例假屋此家主依儲雑事入此所 文儀が智音男云云 先是又依文義従男取宿所先入小宅之間件宅有憚之由聞付之仍騒出入此所 先達如此事不憚之由被禁父喪七十日許云云 雖然臨時水ヲカキテ以景義令抜了又依有所思取潮垢離カク是臨時之事也此湯浅入江邊松原之勝形奇特也家長送題二首詠吟窮屈之間甚無術秉燭以後又著立烏帽子如一夜参上小時被召入部内又依仰講師事了即退出

享保七年九月十一日湯浅村の清光右ホやぐれ十二日入江の松そう年成大くもりづ暑十三日つくめて此ホを出るんとせ一附ろ他のみそうまらふホいとあるとホ
せうふ所とれしふいるくろく此しをられば

又賜引

おれ孫のいのらんうきうりんうきそうかくみのわくれの法
又いつれ秋と変らむ入江川ゆくれ夜のくらくとられてん

右二首のこころをとりそえしーわ

木葉石（このはいし）

本草地木部に載せて上州太郎山より産す色白く化して石となるものなり中にいろいろこれを磨きまた本草のごとき模様交錯して怜悧刺繍の如し

なるものもあるなり世俗みな苔蘚の入れかくるに似雲

本草石 同村小の俗小ひろて石俗ひろく
私ひろく石面小歯茶の形なり

義覆国山満願寺 同小炭焼小ひろ
ひろ宗古記

傳へいふ 張白河院の勅願所小ちて完爲上人の開基なり
七堂伽藍三十六坊ありしが天正の頃ちなき山の僧本今無山
上人豊臣国小をひて本堂い山坂小硫砂へ本尊いちなき山、二王
ちなしなり那寺山へ引移せりしかして今源小堂舎ありるのみなり矣
院を別所山樂師院猪乗寺といふ願寺の張浄土宗とせれ今
拠ちなり小正慶二年法性寺本ちる左国弘家樂寺とちる山と
河豆川庄を寄ひ寄東小俗しるる河ひし ちなひ 古文書 所謂寂樂寺ちる
これちるのみりけらんち當寺より猪乗寺小樂ちるの邊小堂塔の名二
十洋四地のみなり小拠ちて今器次
白方山猪樂寺 同村小ちて海を宗西山流ちり
院猪乗寺ちて又諸頃ちるに拠頃ちしかしちて別和山宗派
流猪乗寺ちて又諸頃ちしかしちて国のちちに内秘寺

類聚一當国又義源入道[illegible]
古伝ハ什物ハ八幡宮の縁八幡宮一所拝ハ大つゝの宮[illegible]
白方宿所 今宿ヲ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
一本ニ忠清記 上人用侍山ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
兼元四年四月民部卿長房卿熊野詣下向之時於白方
宿所上人對面之次花厳金師子章注釋重有懇望之趣
久米湯王子社 別ハ村の西ニ古ハ[illegible]一町許東ハ[illegible]
破壊して築地のミ[illegible]ハ 官命ハ[illegible]
御幸記 十日自夜雨降遅明休朝陽漸晴晝天猶陰拂暁凌雨赴
道無程王子御坐云云 但依路遠向路頭樹拜云云クメセキ云云
菁山氏蔵文書 然聖道王子社等破壊事依[illegible]者頗可被[illegible]造也日時勘文[illegible]
之其内紀伊國湯浅荘久米崎王子社破壊云云然者為地頭[illegible]
仮如本丁寧可被造營之状依仰執達如件
嘉禎二年七月廿四日 武蔵守判
湯浅太郎殿 修理権大夫判
湯浅城址 [illegible]村の東ニ[illegible]ハ[illegible]
湯浅雑字家[illegible]ハ[illegible]

花営三代記云 永和元年九月廿五日紀伊國所猶籠之宮方没落之間翌日
守護人已下攻入在田郡湯浅等之間所々宮方城没落云云十
一月五日夜紀伊國大将細川兵部大輔使者到来去二日凶
徒打取之間合戰大将引籠移云云
残櫻記云 文安元年八月義有ニ云云の條管領畠山持国入道紀伊の国人等ハ
下知して八幡城を攻させられ然るハ[illegible]を失ひ
南方湯浅ハ[illegible]て細川出羽を[illegible]
て城[illegible]攻られ[illegible]城を棄て[illegible]
同ハ湯浅城ハ[illegible]
九月畠山ハ[illegible]
[illegible]を[illegible]て攻られ[illegible]
切て出られ[illegible]
[illegible]

靈巖寺
古跡

慶雲巖寺址　名倉村を去れること東一里餘の山中にあり紀伊国の実流と
人の書きたる説　文中に云ふ正月条にして耕雲上

穴地藏　山田より宮前へ越る途中にあり地及西海を
[illegible]

廣村　状況　廣田村を過ぎて十丁ばかり廣村あり海に流出て流村を
二村の間を過ぎて海に入る海口に自然多し

廣川　源流は木谷の奥より出て流村を過ぎて海に入る海口に自然多し

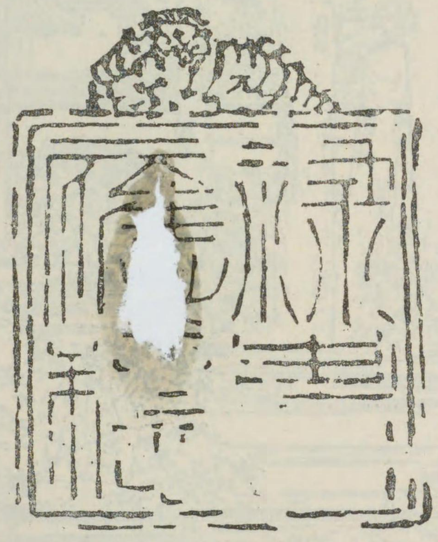
○廣橋　廣川に架せる橋なり村民の村義に行らば或書に
を載て河州飯盛を瑞として廣浦
[illegible]

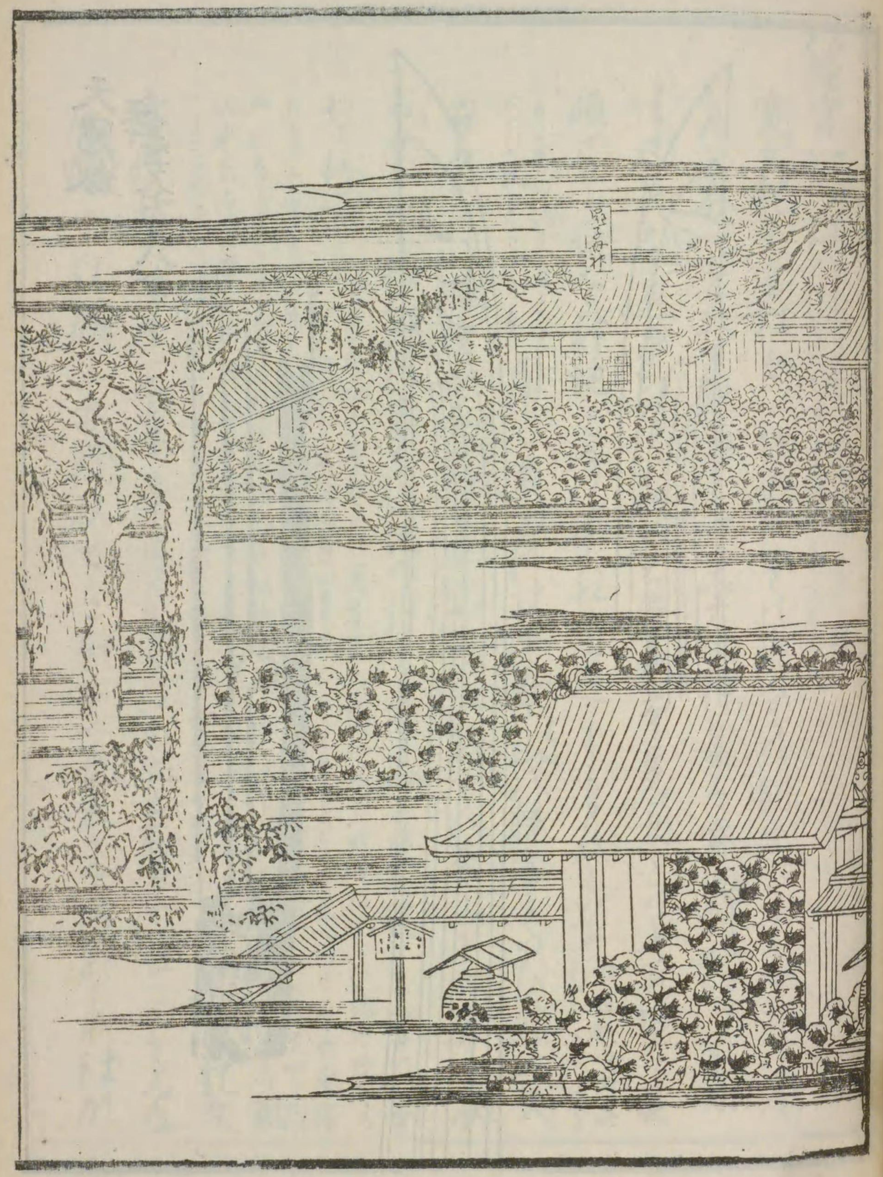
長立山菩提寺　廣村の北端に位す寺宗更に施汎なり書るに大王天々大藏卿
幸徐以為把後志の巳紀熊野に
[illegible]

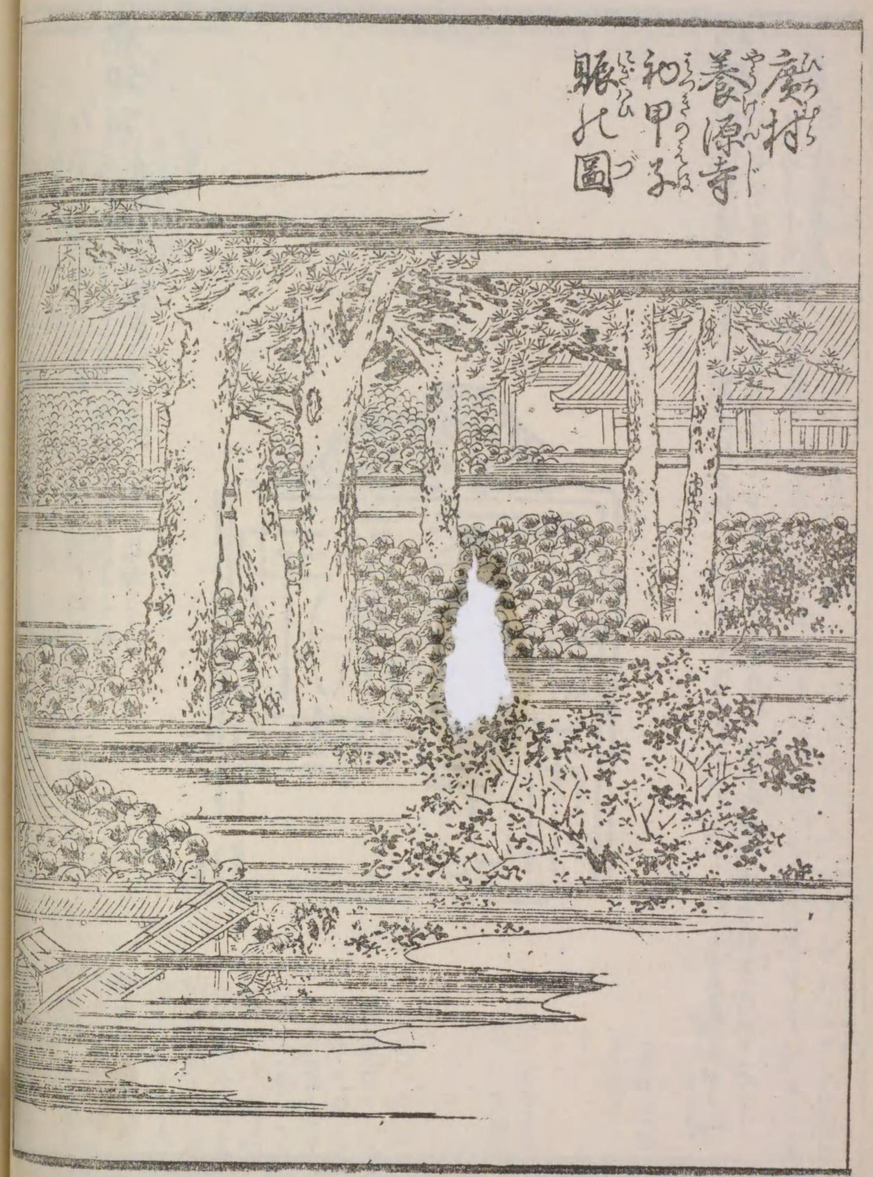
有徳大君所潛藩の日宗永正年氏係を御笑ひ
[illegible]

虎印判　日村横原源多郎の蔵せる由宗に傳
氏の文書数通にして此判を用ひ

天國劔　日村湯川良寛の蔵せる劔古級にして
[illegible]

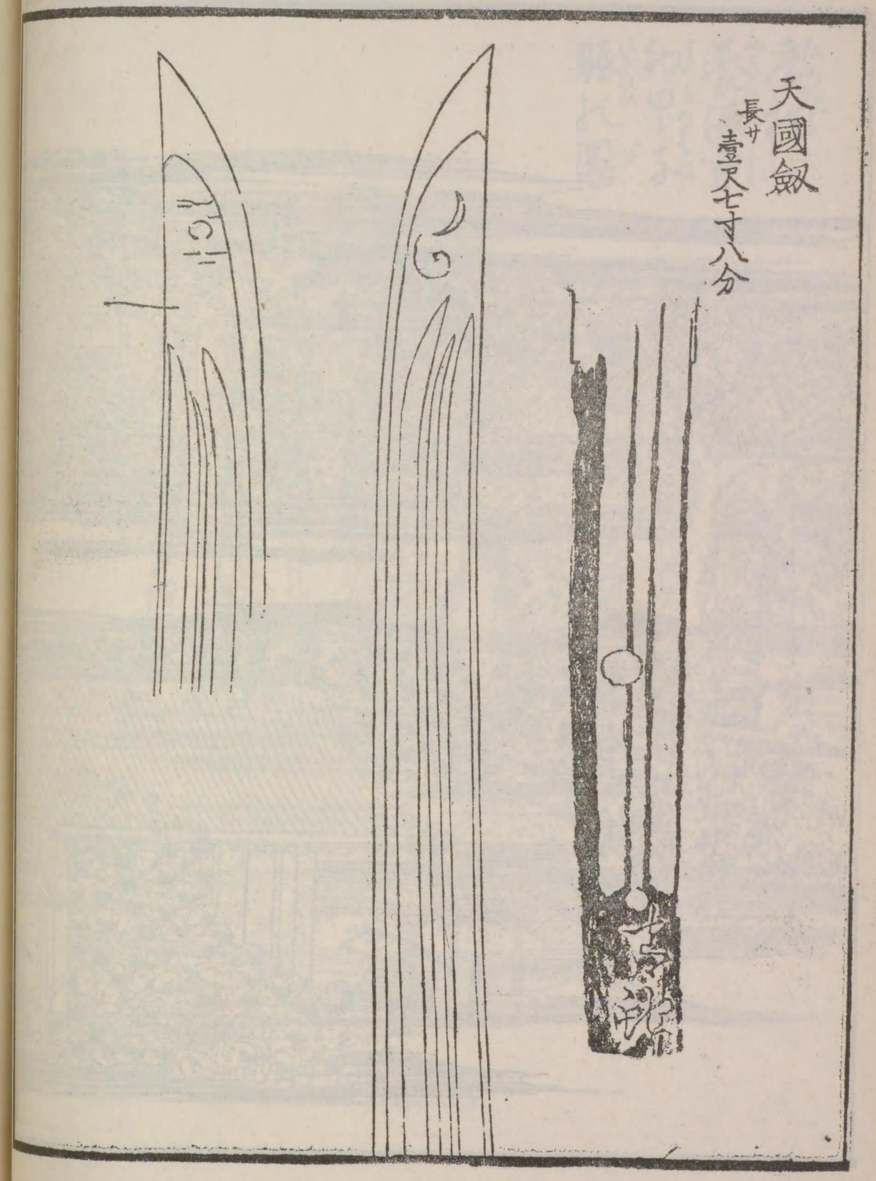





廣村養源寺和甲子賑札圖

天國劔

長サ 壹尺七寸八分



八幡宮 中略村不詳 元中七年村の名古称 今月今日八月十八日 江戸四年正月

寛文記不當社々　次に天皇れ御宇れ創建ふして古い廣

長二三分一を以て社領と次又云氏神篇々前田村 荘中の小字名 村名 の

造せれを慈永の頃氏地の古豪掃部兄弟と云者にり甚

頃せ〜地を神地とすて社を建〜きれとす 今社殿の側ふ 兄弟の社にる

そ者の地そ今を囲く前田れ社を本山八幡宮といひ伝ふ又

永享れ八幡宮と勅請せ〜ともつふ結〜本山ふ於るハ長

享ようれ勅請ゆく氏地の社々本山ようれ遷〜きれ子

けりぐ〜 慈永二十年癸巳二月 けりぐ〜其他慈二年永正十三年 抹札にて氏時好く氏地ふ住きる

元亀ふ八幡宮の抹札にて抹札の文ふ天文十年甲十二月 永禄

沖川多〜ふ天文の比ふ沖川氏氏地に住まるゆ乃

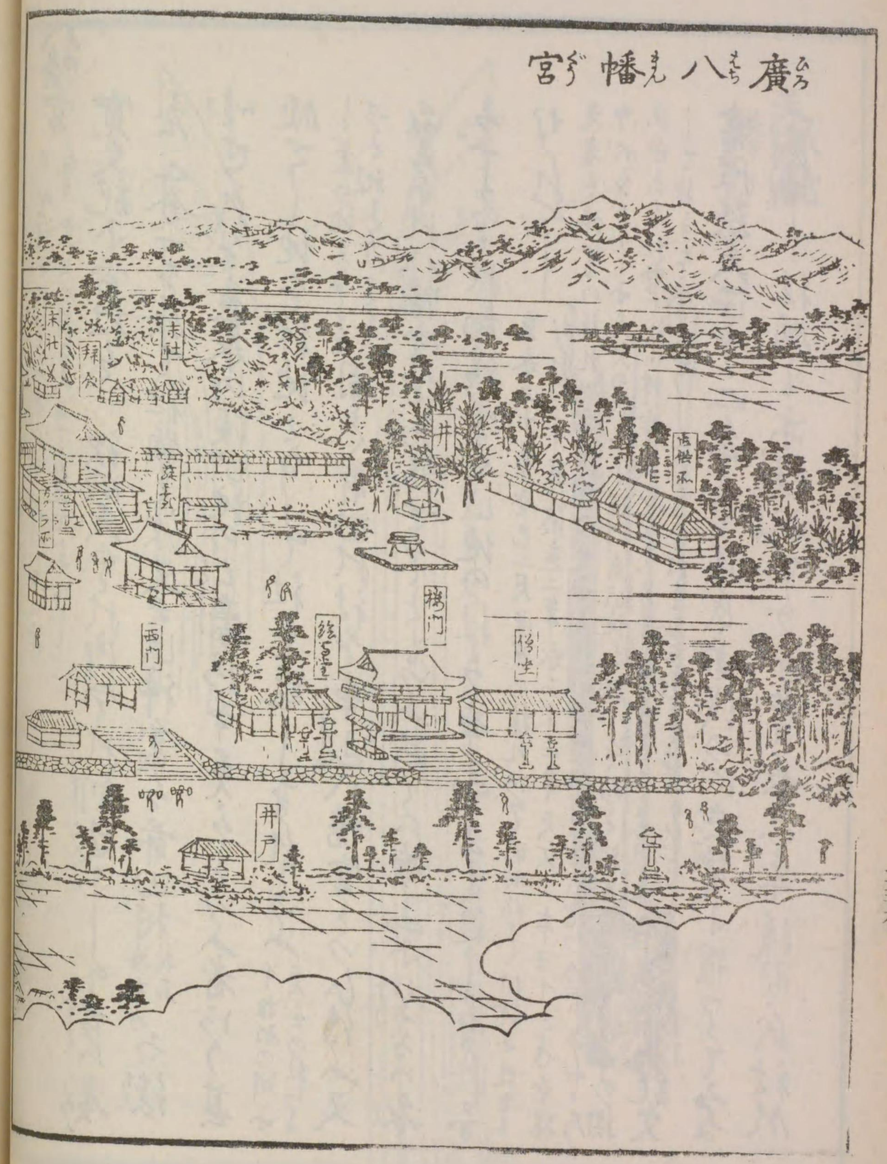
沈永氏を社務〜 件宮氏を公文〜 氏地を別して好く利富まるを知さその類

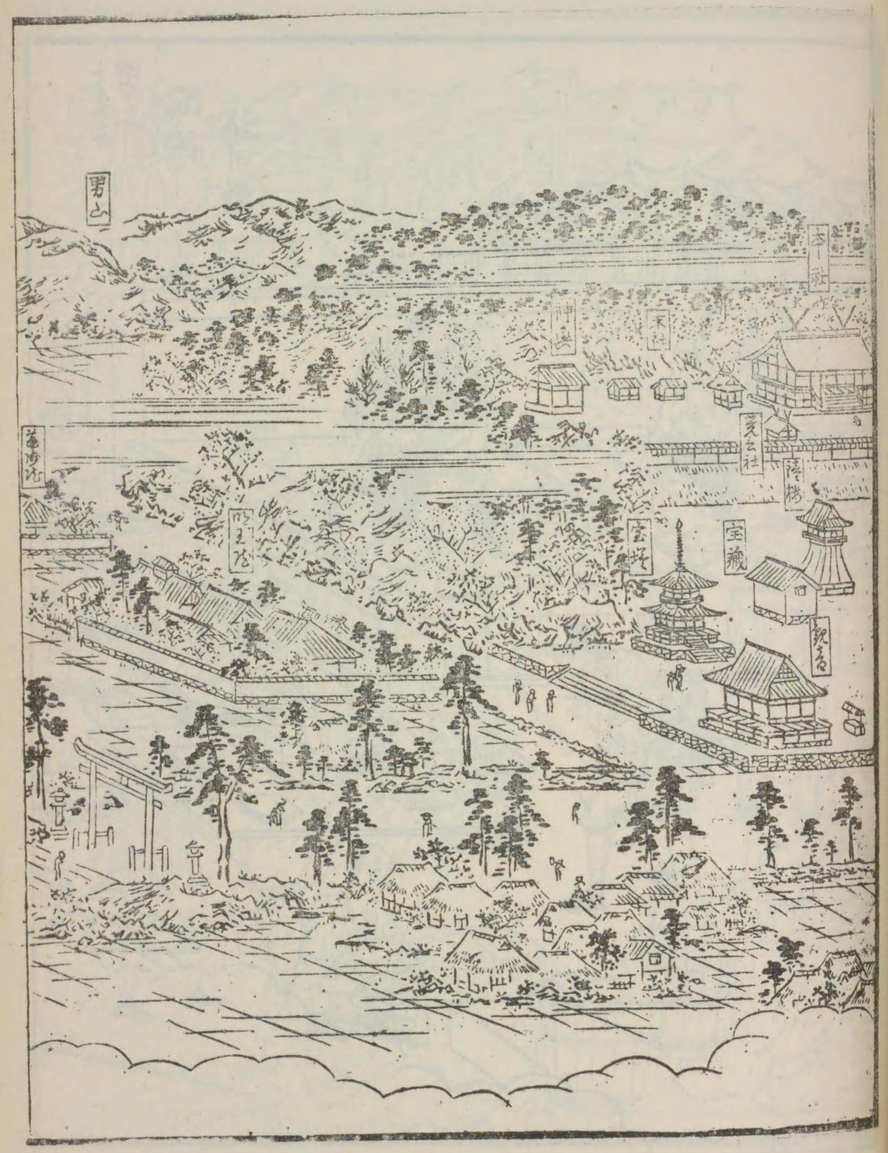
〜て神ふ先掌ら〜と云ふ今社殿

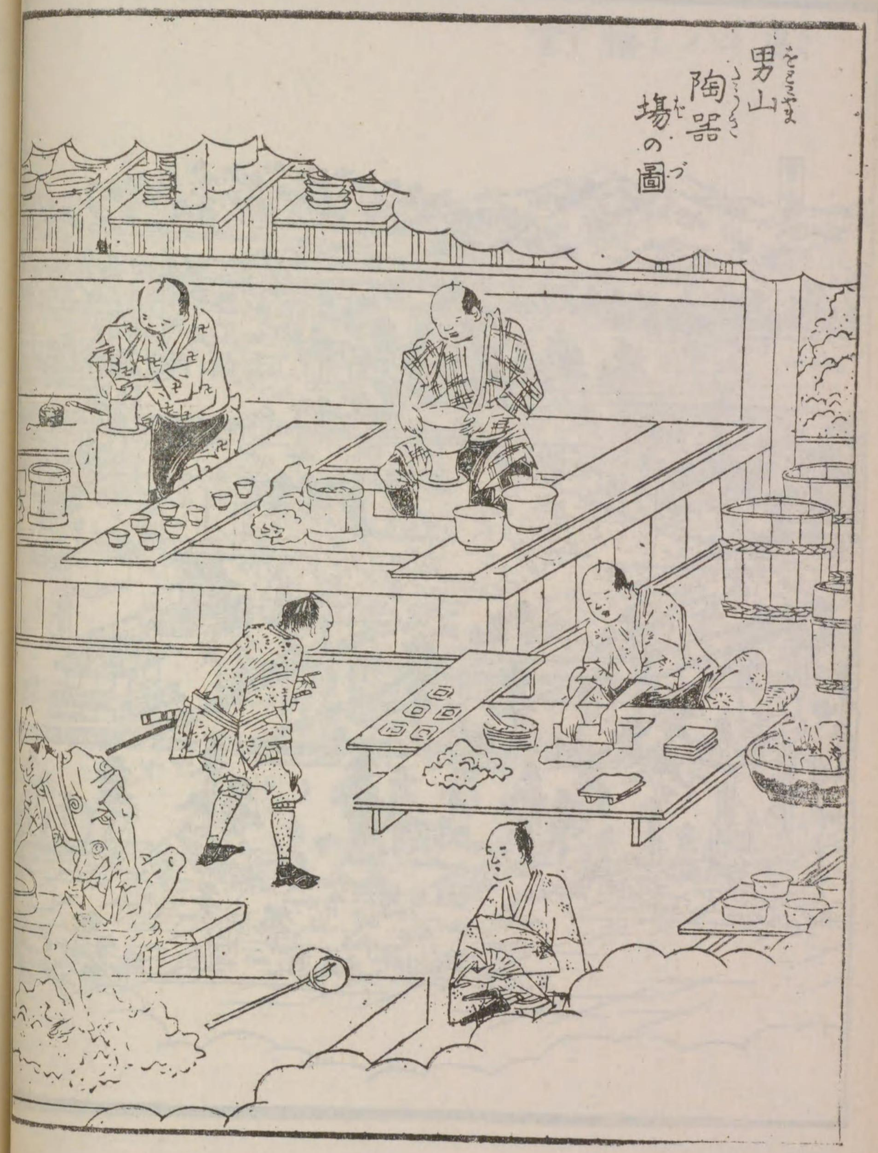
書れ記天正十二年当て居氏動伐の時会驚ふ罹つて焼

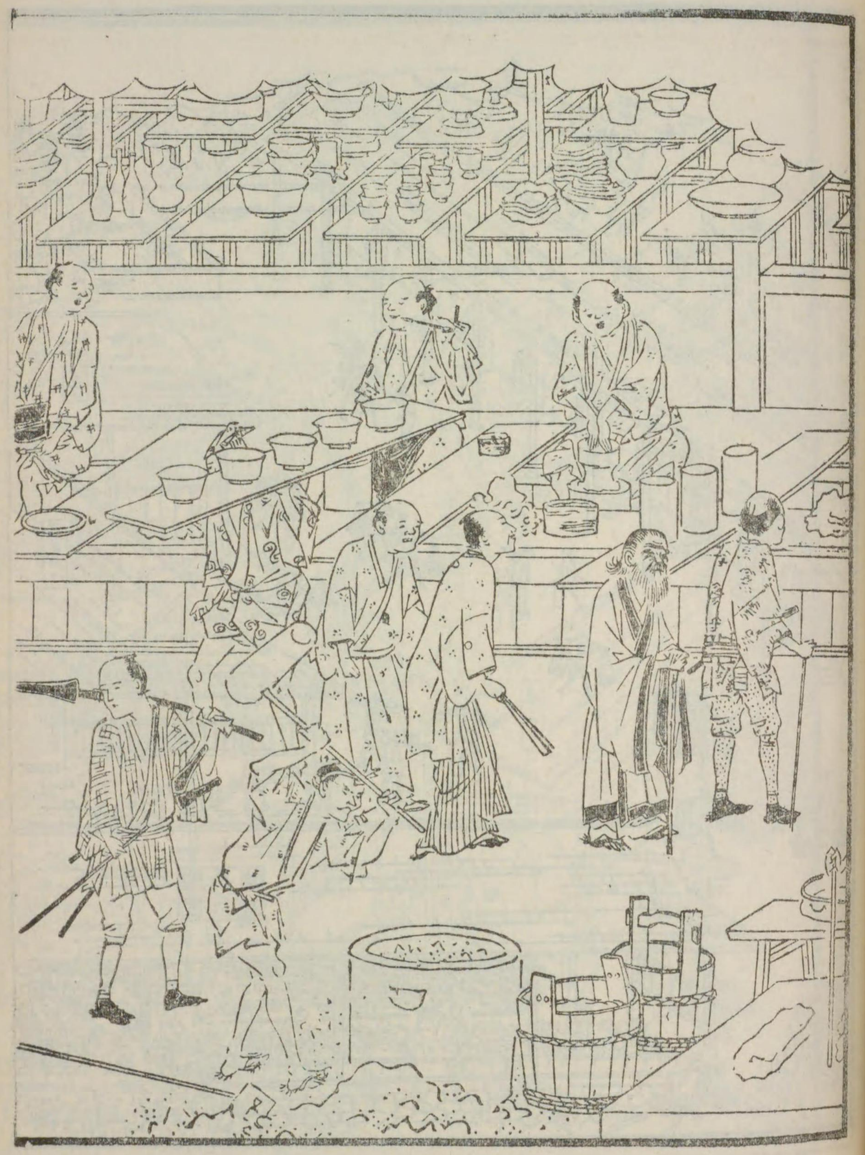
灰燼〜社領も亦没収せら子慶長六年淺野氏社

廣八幡宮

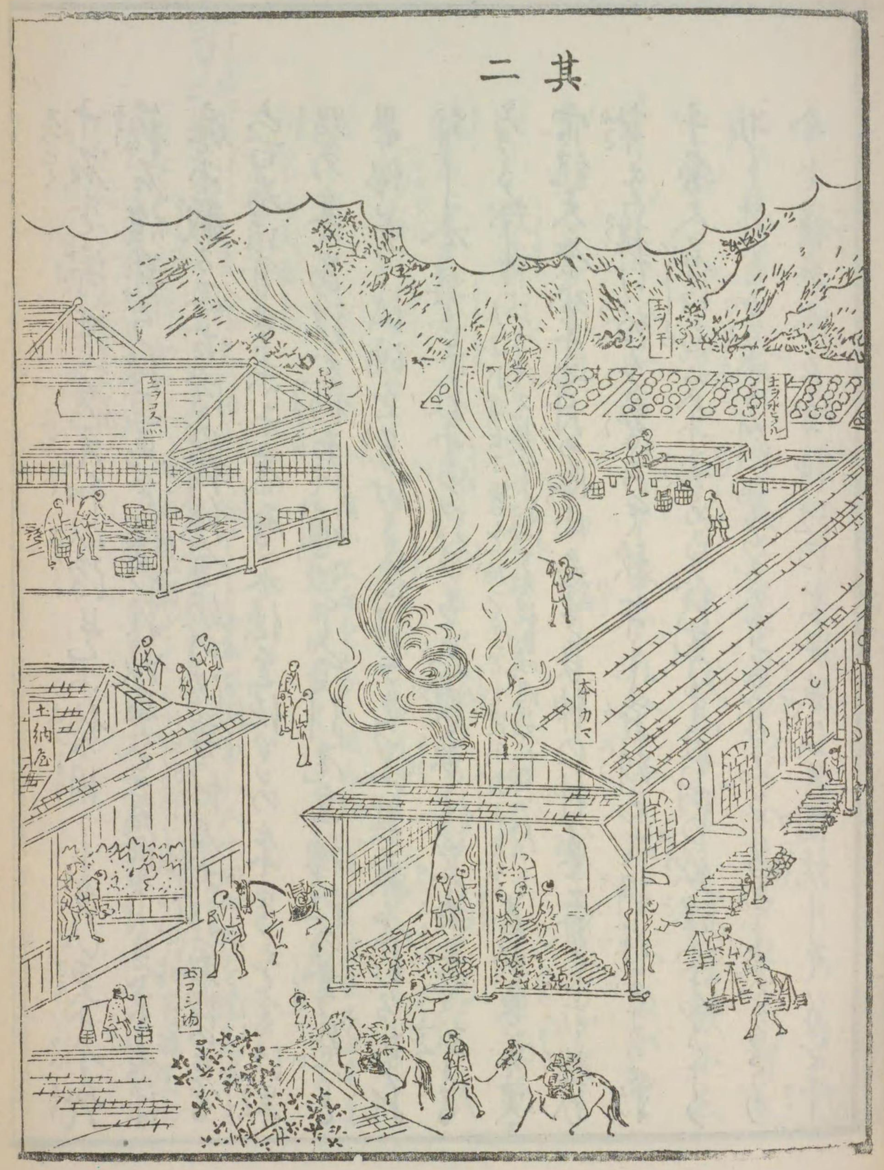


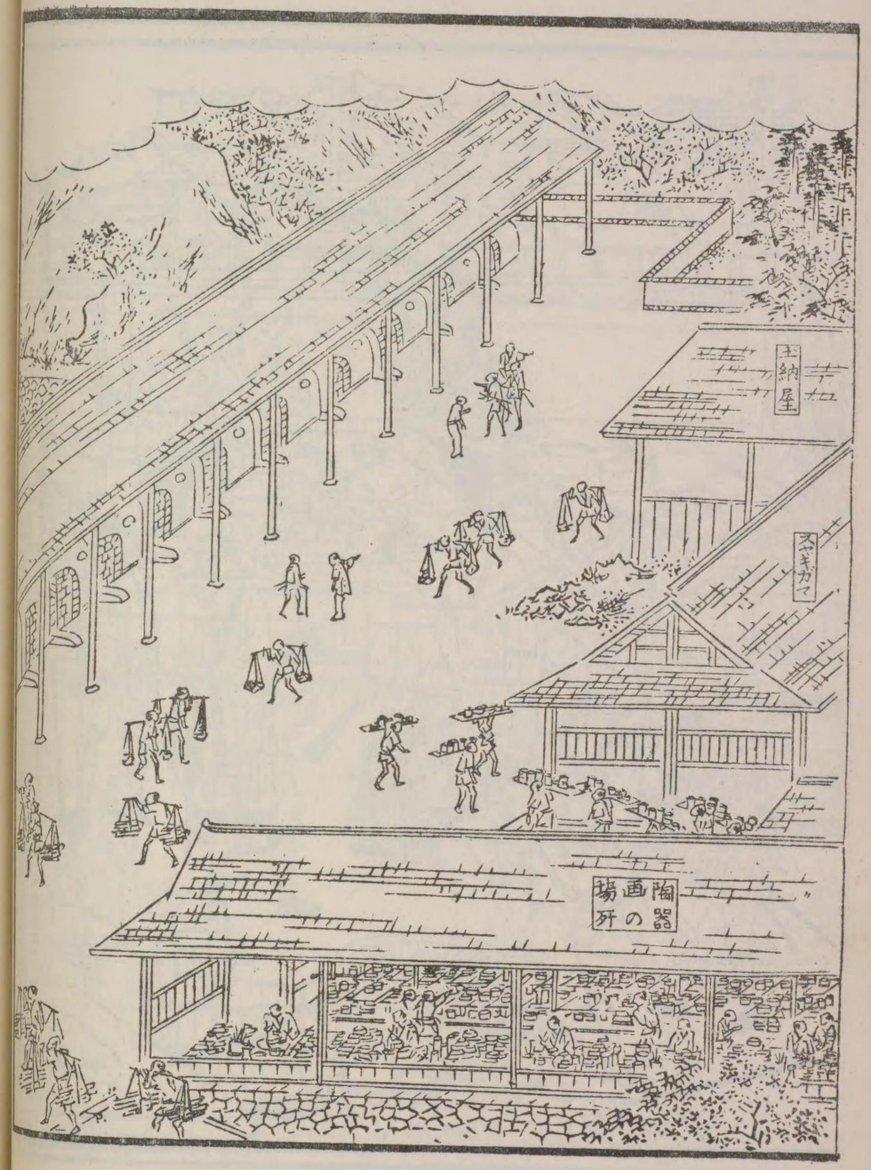



男山陶器場の圖



其二



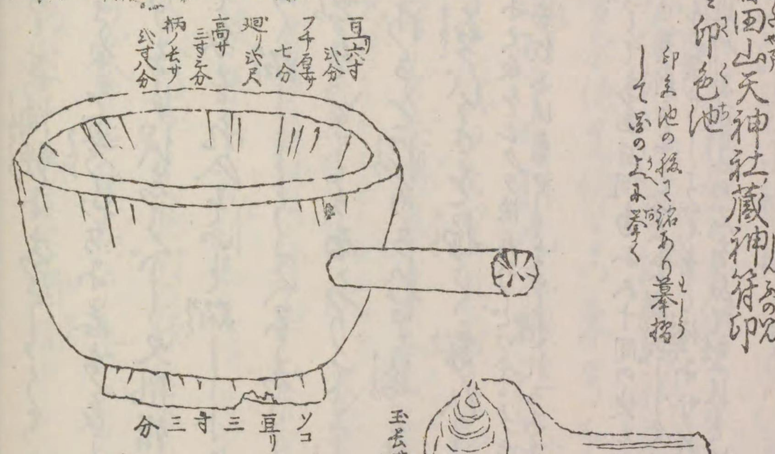


十石を寄せらる元和以後見不審閑しかれども今蛾
羅石燈籠弓汲画馬戸帳の類数品を寄附しかつまた神
庫に藏る所古宮の紺紙金泥の法華経及大般若経の古写
六百巻ありて年来に庫屋永徳至徳等の年号を書次第
巻の年号社に彩画れ通りて引尾立神社の雲霧と
異似なるし氏通を引けるシッパラと云ふ甚義を知るもれ
ばし今按ずるに氏に シッパラと志駄良と云ふ古言と就まる
るべし 未詳れ方言に宮を掘つるを小児に教ふるを志駄良と史
シッタラと云ふ志駄良の訛なるか
官記天慶八年七月の條に志多良神の神輿三基を荷擔ひ
都を掘げ鉾を持ちて歌舞して羅列まて掃清まる数
千の人石はあり文に記るる紀書しかれども甚附の歌詠に
拙と神を宮ふ川に流らず命子孫に
今九薩摩に平軍神社の祭に氏子園繞してよと下

ずて掘子をとり通りて甚通歌に
はりて見るを合ずして甚さ家を考ふるに志多良を即
を垂らして掌を掘つるを紀書しかれども又風信歌に
くるぶ家人の一を見れとも家を九八そいと昭しかれ
ずぬとて教られるはりて
日ど歌儀にして家れ
通とて家方に来らば
家行為れ詠はりとしを
知ずの大為と
男山陶器場 慶八帳文の境内に陶器場と
一月廿八日 官許 地内矢井実村の産利を本とし文政十年十
愛宕保滝利蔵の願に依り陶器を焼
上を窯として生を産の地
くし日ぐしの為と

敬白
天満宮
宮前寺進
應永十八年
寺意
十月一日
敬白

音国山天神社蔵神符印
并に印色池
印を池の様に彫あり墨摺
して墨のとおり書く



池堂山法蔵寺 日村より北へ法七丁 不西山流る

永享の頃此地小津宇浄道梅本坊と言ふ二人の古豪有りて惣持寺代官祖阿弥和尚本山の法
開山を形して尚弥小来るとしるべ二人の古豪京地及山林
寄付を書り附さとつの此寺
坊今は廃絶又京寺二十又る様
京千株あり此辺の大寺なり 附状写 応永十年天文十二年此寺
和の法も繁用せり保園寺不殷ぐれのもみぢとて祇の天
樹 応永元和の頃 国君仲道賢のようをひ侍すまでも
天神社 庄村の乾乙四山とつゝぶり巳ケ村の庄七坪あり又慶永十八年系寄附
立神 西庄の小浦小浦小浦の伸
なぐ伸 西庄と小浦との間の伸 応永多く巣をむさぼる

奥化石（西淀村鷺の山ホリウラ浦の化石多く採る）
鷺浦（西淀村の北方より二十八町ホリウラ浦と云ふ後ホリウラ北風の時入船此浦に泊す西と堂の浦とも此志摩国に紀世志堂の浦ホリウラ堂今淀村ホ
紀伊国鷺浦と云ふ人ホの石と文机の石
玉葉集
氣ヒロて波ホ恋ひし人ゆゑ飛てうつゝの鷺浦の石　高弁上人
○淀城址（大俗ヒロ城と云ふ名称城跡ホ
列ホ木ヒ木ヒ数村ヒ淀ヒ）
慈永二年留山基国紀伊当国を治し名草郡大野城と築き遊佐荘淀守入乃国氏部を守護代と次其後氏城を築て本城と次紀ホ石垣ヒ屋ヒ城ヒ宗城名草郡
長国紀伊ホ
長化婚男尚順入道山ホ慈年中より天文年中ヒ氏
城ホ名次天文三年湯川右兵衛尉を滅ヒし
南紀の淀ヒを
浦光明寺ホ寺ヒ

○雁頸山熊仁寺（名称村ホ寺ヒ名称ホ　後村上天皇の勅願寺ホて宋山を二光国源ホ師ヒ八ヒ
天外金峰紀の人ヒ宮ヒ志ヒ紀ホ宋ホ
国氏南伝の附会大ホ飛ヒて地宇ヒ
宋ホ焼宇も多ヒ
天石十三年二月
ヒ氏焼失ヒ後ヒ伝宗ヒ
○井関王子社（井関村北の入口ホ
御幸記
十日　畧　次参井関王子於此所雨漸休夜又明次参川ノセ王子
○井関驛（伝説より
一里
井関阻雨　數見知豫
南紀風雅集
離家纔數日便抱淡旬情山林秋容老村烟暮色横
吏事青山遠病中白髪驚雖非異郷客幾度計歸程
○井関川（井関川ヒ二村の堺ホて橋ヒ架ヒ
幸山八幡宮（川ヒ王子より東
○川瀬王子祠（川ヒ村の堺ホ橋ホ
川をソのめくもる
○馬留王子祠（日村の中ホ
伊勢の時氏変めくるを
紀ヒ国社を

藤の滝
女ノ滝

○津木坂　川俣村の境をなす高の分津木谷八二村あるべし八ヶ王木ともいふ

風俗もおのれ

上草瀧　中村小字草瀧　瀧を治して

孫瀧　同村小字孫瀧　名と伝へ小迫木小堂を建たて又乃木道小倉小さき隠あ

松廬遺稿

紫鐵如飛巖勢横瀑光觸石濕雲生只看百尺寒冰立中　野呂隆訓

有奔雷劈岳聲

日暮秋溪聲益雄急湍豚石捲回風板橋與水絶三尺人　同

過珠跳玉碎中

荒貫八幡宮　中村字荒貫村の産土神なり社殿小弘治年中の鎧口あり八月の祭礼に流鏑馬四手踊あり神宝小兎鈴柳ふるの古面あり素戔嗚尊

反京都長大家吉家紀氏

岩剣土　志別村小字志別村は本谷の矣小字人小十丁許の名小若土して人物を多出せる鎧神社三柳明神を祀るとなり社殿小高社三柳明神を祀るとなり或説小

親音堂　同村の西山に小字流れ

鹿瀬新田　瀧瀬原司の一と称ひ今の瀧瀬と称す氏小其

○瀧瀬山　瀧瀬原の西に流れ

御幸記

十日暑　次又攀昇シ、ノセノ山崔嵬嶮岨巖石異耶日

庵主

ながれをもとめてやすらふ瀧の名をたのみてやすらん　増基法師

此歌実木抄小紀伝郷実この合よりとなり

南海集

宿鹿背山下　祇園源瑜

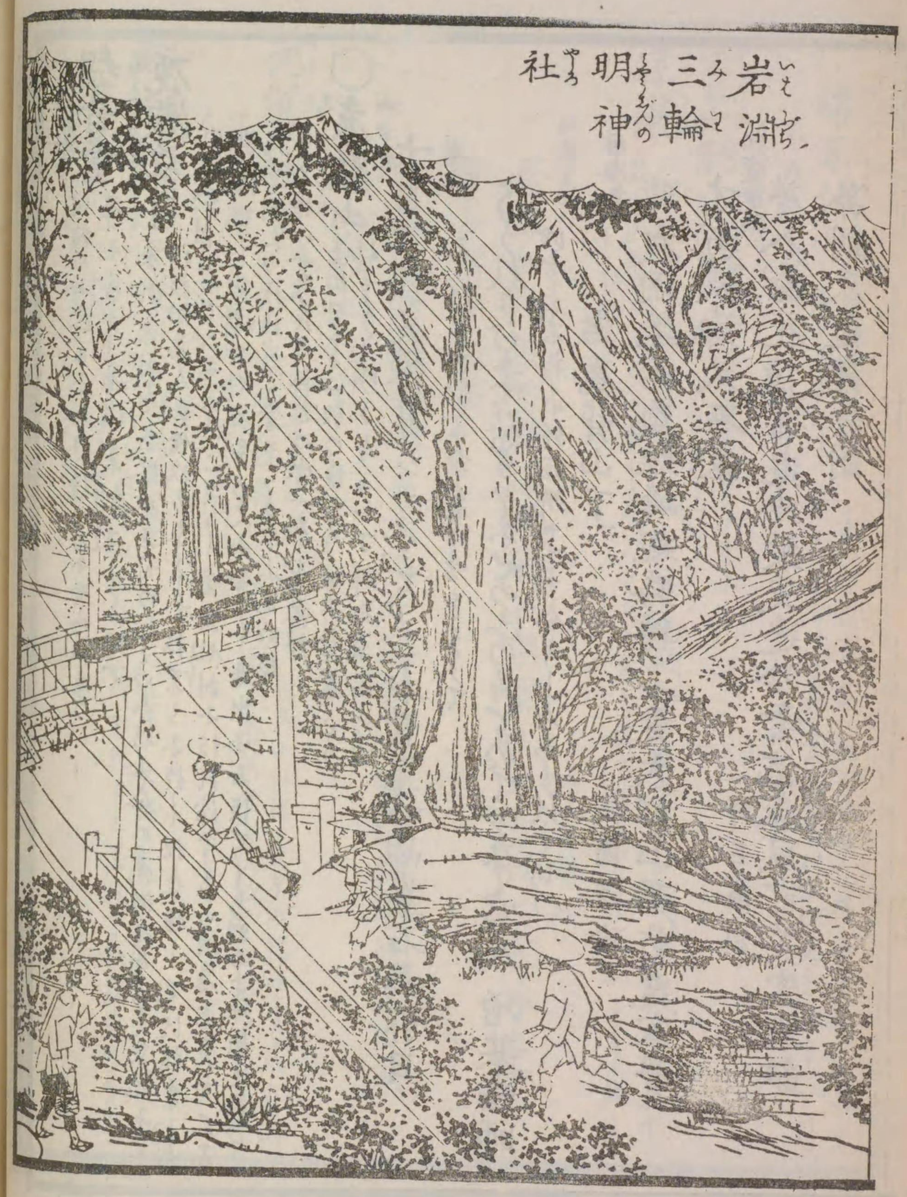
昨夜雨蓬沿海煙峰廻路轉上青天江山不許還家夢

才過波濤又石泉

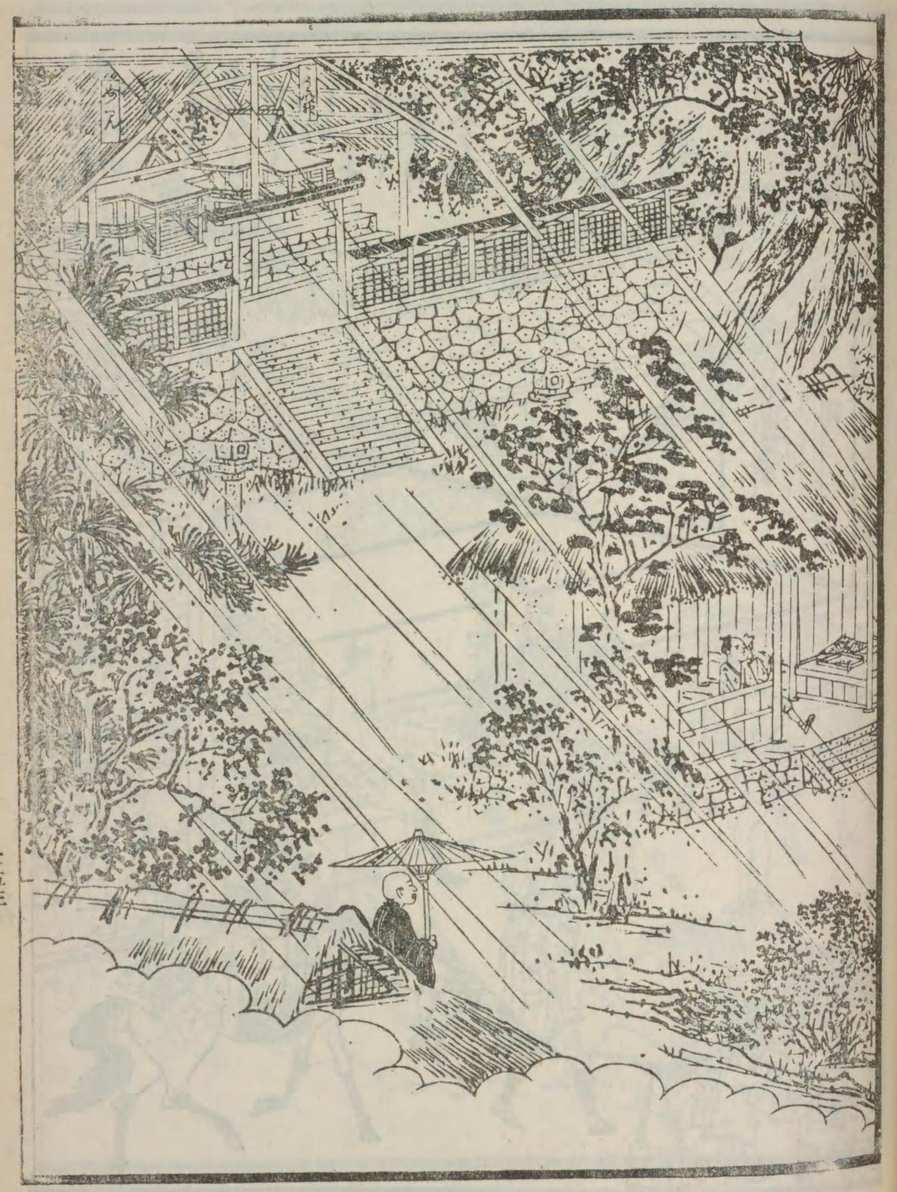
松廬遺稿

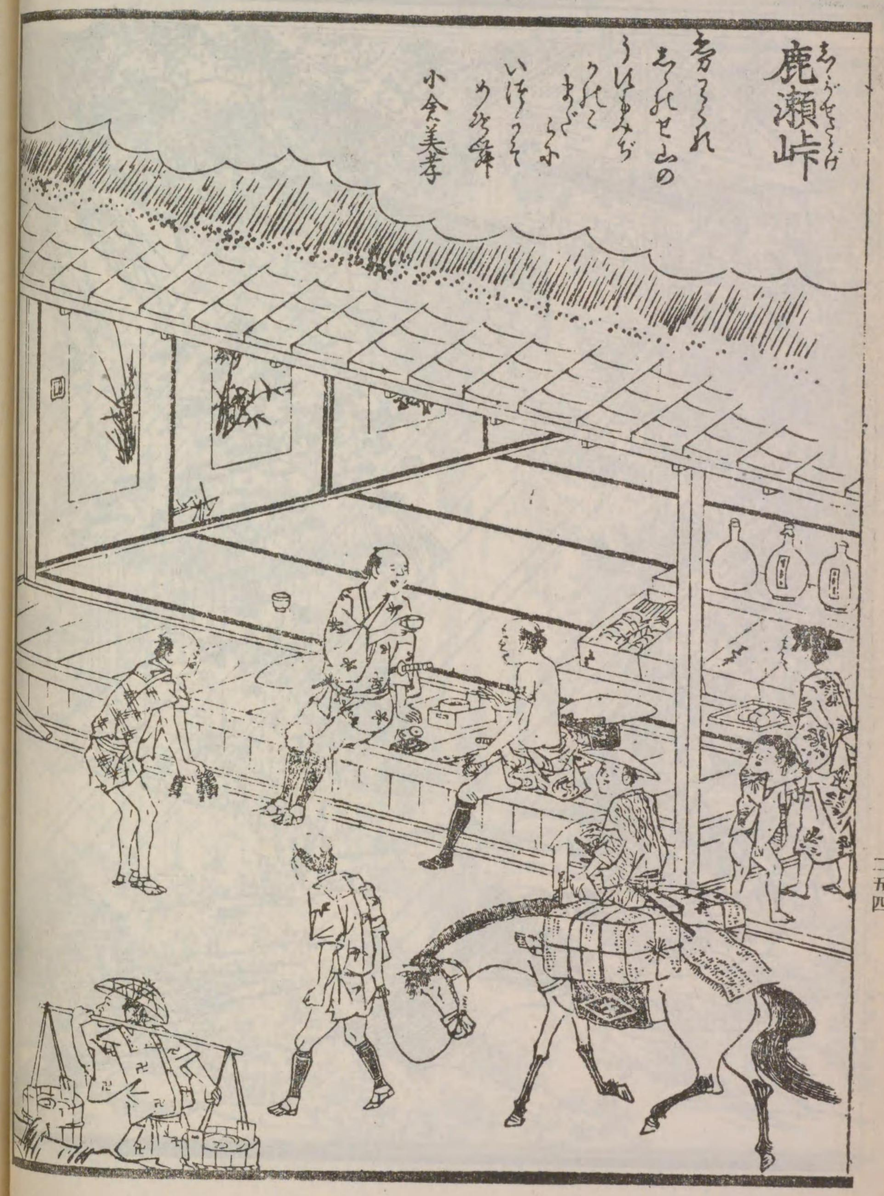
夢入梅花憶舊遊吟裝更逐冷雲流春風可笑客衣敝　野呂隆訓

孤劍又過鹿背岡



岩水三輪明神社




鹿瀬峠
小金美孝

○井関山 [illegible]山の一名なり

新続古今集 [illegible]

今按名跡考不氏人然那[illegible]

[illegible]

夫木抄 天の河井関山のそれよりとかれるかの紅葉さそふ風 光俊朝臣

初白を河内天河と云浮ひ[illegible]

河内とまれぬるもてる天上の紙河まく井関八即[illegible]

[illegible]と同不[illegible]

○鹿背城蹟 [illegible]

[illegible]

玉海 治承四年九月三日略 傳聞熊野權別當湛増謀叛略 人家數千宇鹿瀬以南併掠領了

同 同五年九月廿八日略 傳聞熊野法師源一同反了切塞鹿背山云云

○法華壇 [illegible]

釋圓善遊熊野肉峯山卒其後有沙門壹睿者行宿山中[illegible]

聞誦法華其聲微妙睿以為先亦有人宿一卷已禮拜[illegible]人

讀一卷每卷如是天明無人傍有骸骨支躰全連青苔[illegible]

衣服想久經歲月髑髏口中有舌如紅蓮睿見之感怪欲[illegible]

由次日不去入夜誦經如耶至曉睿起拜曰既誦經必有心願

願聽本事以傳靈感骨人答曰我是台嶺東塔院某也至此而

死生平起堅誓誦法華六萬部存日纔半數而夭願力不接住

此尚誦經耳今已始終居此不久去此當生兜率内院睿聞了

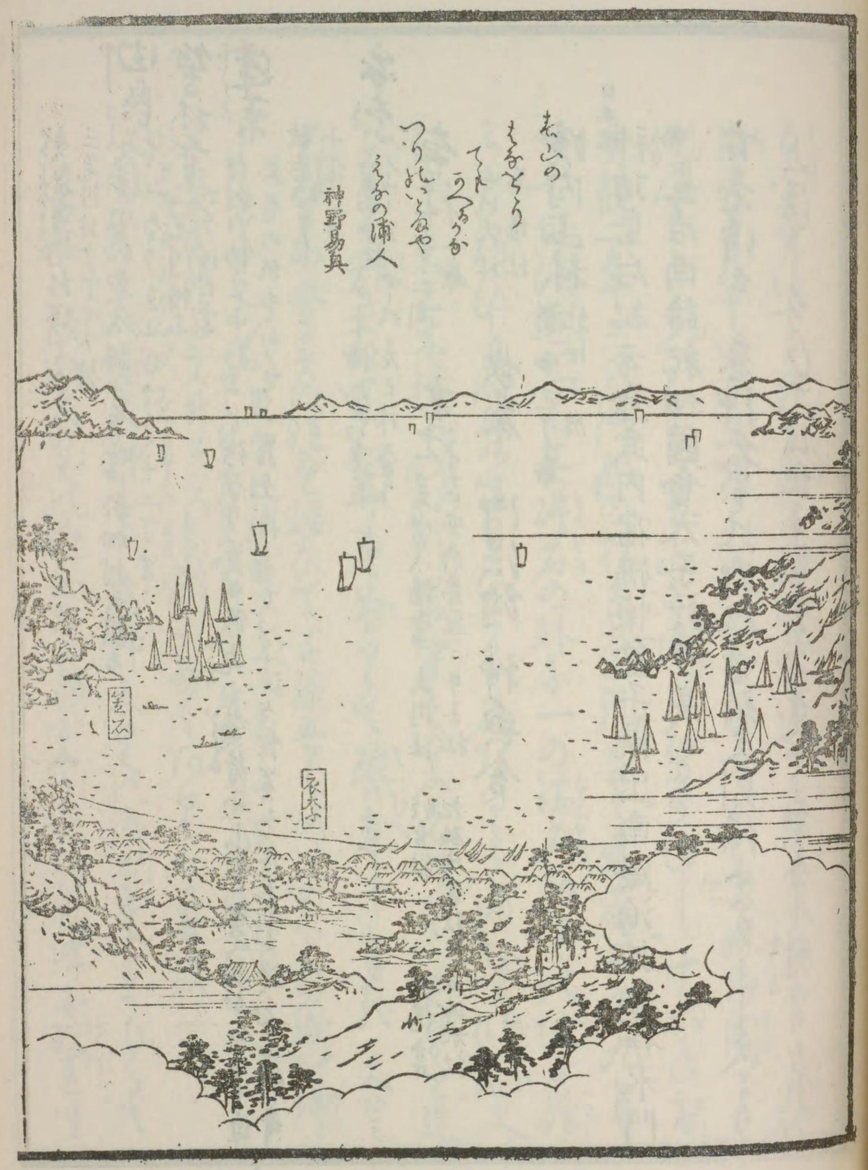
禮骨人而去翌年又來不見苔骨

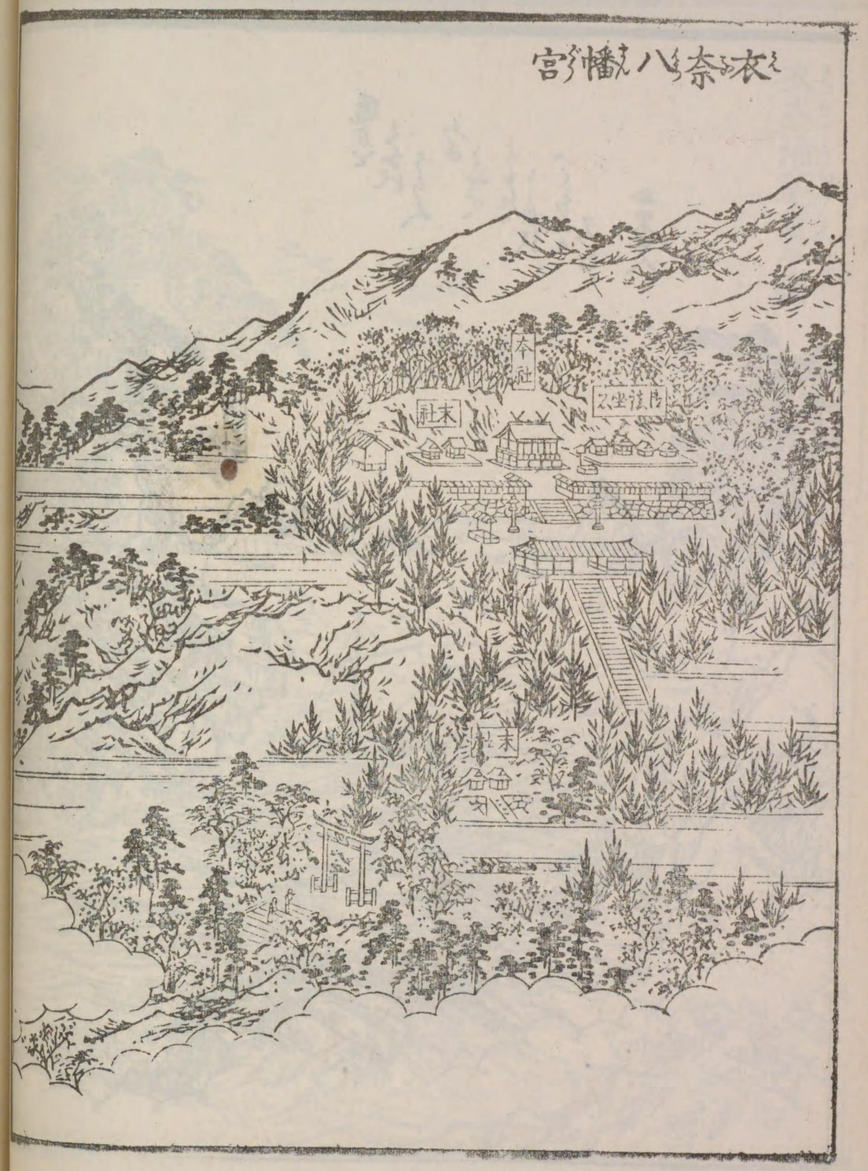
海道記 [illegible]

[illegible]

通カと
拾栗ヒ人

衣奈浦蓬莱の圖


赤山の
もみぢちり
てしまうるかな
つりぶねとまるや
ゑなの浦人
神野易具


衣奈八幡宮
本社
末社

[illegible]
三尾川村より三尾川村まで四丁餘
田良坂 [illegible]
[illegible]の林寺 三尾川村に
蓬莱 日村の海上に有る小嶋なり [illegible]
東首の形をなせる [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

して大神宮を廣幡八幡麿宮と神託しのべまつる
なむ氏御世佛經錦國より、皇國に傳来しなべての神
ふを受けのひし〻天皇氏愚類ふよりてかくる教を傳
へしるかりしれ給ふ御ことを遂に佛乃法優の大神と
稱し天平廿年東大寺に法宇を初信し天慶の初
更に上宮を造て優婆塞驗威力神を大菩薩と稱し
奉れ給ふ事なるも乞ふ仏法基なる時に奉ずて
漫ふ〻ひ出され御の傳統の妄誕なれべ乞より
無ふ八幡大菩薩と奉ふ稱ふ奉れ給ふ事も上古より
大事にのれべ申げ学位帯位を新帯位を新領し山
もべて武を守りるを神ふ〻まさび紀延の多数大
ふるるべ給ふ史典ふ紀より中古源義家紀氏神
男他ふ傳ふ〻ふ源義の士孫ふ

これ神を伝を渡金沢津ふ至て天下に貴称一数多
崇して今日ふ至れて奉あふ法ふ守護地改武を
社ふ配紀し武を新ふ社殿を造営して大小の宮社ふ
て充満ぞ当社を正し〻 慈仁天皇に初宮ふして
後世紀伝の社地を〻いと多なれども紀世を伝く武
家も尊れ〻るる多ふ〻べし〻 実ふ惜むべきるり

八幡宮縁起一巻

花山院の紀大徳の筆ふ志て伝を地多り書録れ抜る
也もく〻ふ的徳の源氏縁起並らびに上山氏ふ藏せ云鎌倉の時用紀筆を予ふ法光
因縁ふ〻れる〻べし〻志れ〻も大菩薩の名迹宮紀を十條物ふ〻乃
〻ふ沒化せんるいと〻ふ〻ひて巻月をかくるぬ志
境内れふ〻て紀筆又和尚の書命をかりて慈伝を三ふおよびこの
る神魚ふ寅合せば一の奇瑞ふ〻やく筆を海むことよりて
とおもひて仏堂ふかよく〻ふ〻れ処ふ至年辛巳七月廿七日夜陽亮の
ふ〻て宮を〻ふ〻ふ〻ふ

黒島
嶋の東南の方
を鎗呼とて
一大洞窟を
穿ち乞能小舟
を容るゝ
足る其深
さ
大凡
三
十
間
高
さ
二十尺

汁の大石
青蛙と
云て人
の形
拝
して
立る状
をなし
赤ひらて
仏式を
ちらぎ石
さしふり
今の世よ
米苔ひらく
もをとる事
石丈くや
移む
ポトケ石

平城をもうんことかそそぎ水よりてなりて先ここに
をもうぬ于時意永九年純集壬午季友耕雲野納的龍神書
因ふ云的龍と右大臣長祝公の法をもうり氏公卒ふ中もをりく事
多くるあや奥國寺の僧家の孫起及主四郎重嵩主の孫起をもうせ
こをうり結るふ二書ともを白帝人自帝人以白法くくまうべけく
公の傳ハ大日本史ふもを一くくくれもを先生のふハをくく
緣起表紙ハ云的唐二年七月七日有君命而尋軍國神社之舊紀也
及于幼巻故意甚久而朽滅故結補之者也紀州日高郡衣奈八幡宮
緣起絵表補破
之書一頃毋

足洲 衣奈浦より十丁除の海中ふ行りて生四郎乃尊意中射ヤう周廻
二十丁ばりふして樹木背蔭ヤう的意伝紀ふ対藻伝より南ふ久礼
伝行りとへるを氏伝を拾ヤ久礼久呂ヤ
ふ久礼意の西ふ一村ふ伝行ふ伝の南面ふ異家行りて足伝ヤ
里伝ふ行ふ伝の南面ふ異家行りて歳中の異文のこりて歳ふ新人の

佛石 衣奈浦より西南多尾山を諸て海湾ふ行り
石ふ人伝石又ちふ伝ふ

戸津井 衣奈浦より西南多尾山を諸て海湾ふ行り
区域を美ふ以氏浦の伸ふ孫伝とふ伝行りとその写新伝ふ渡毋
氏平衡ふを統治して
絶るとを捕るやうふ

小引浦 戸津井と白崎を以て大引浦と境ヤ
白崎を以て大引浦と境ヤ
大引浦ふ秀して海上
ふさ一出る氏伸るり

白崎 白崎ふ行りて海ふ出る白崎の異むり
ふさ一出る氏伸るり
白崎を奪ひて海ふ

二十丈ふ行りて深く深く岩ヤ行りふ
行り浪の拂頃中ふ
あるけれそれ弓ふ長大石の龍神ふ
れ的の飛をとるあり
浪の子里も光ぐ
又むと繋てこぐい
るれるも巻ふ
伝もを拾ヤ
二十丈ふ行りて深く岩ヤ行りふ
行り浪の拂頃中ふ
あるけれそれ弓ふ長大石の龍神ふ
れ的の飛をとるあり
浪の子里も光ぐ
又むと繋てこぐい
るれるも巻ふ
伝もを拾ヤ

大寶元年辛丑冬十月太上天皇大行
天皇幸紀伊國時歌
万葉集
白埼者幸在待大船爾真楫繁貫又將歸見

松亭遺稿
汎舟游白崎

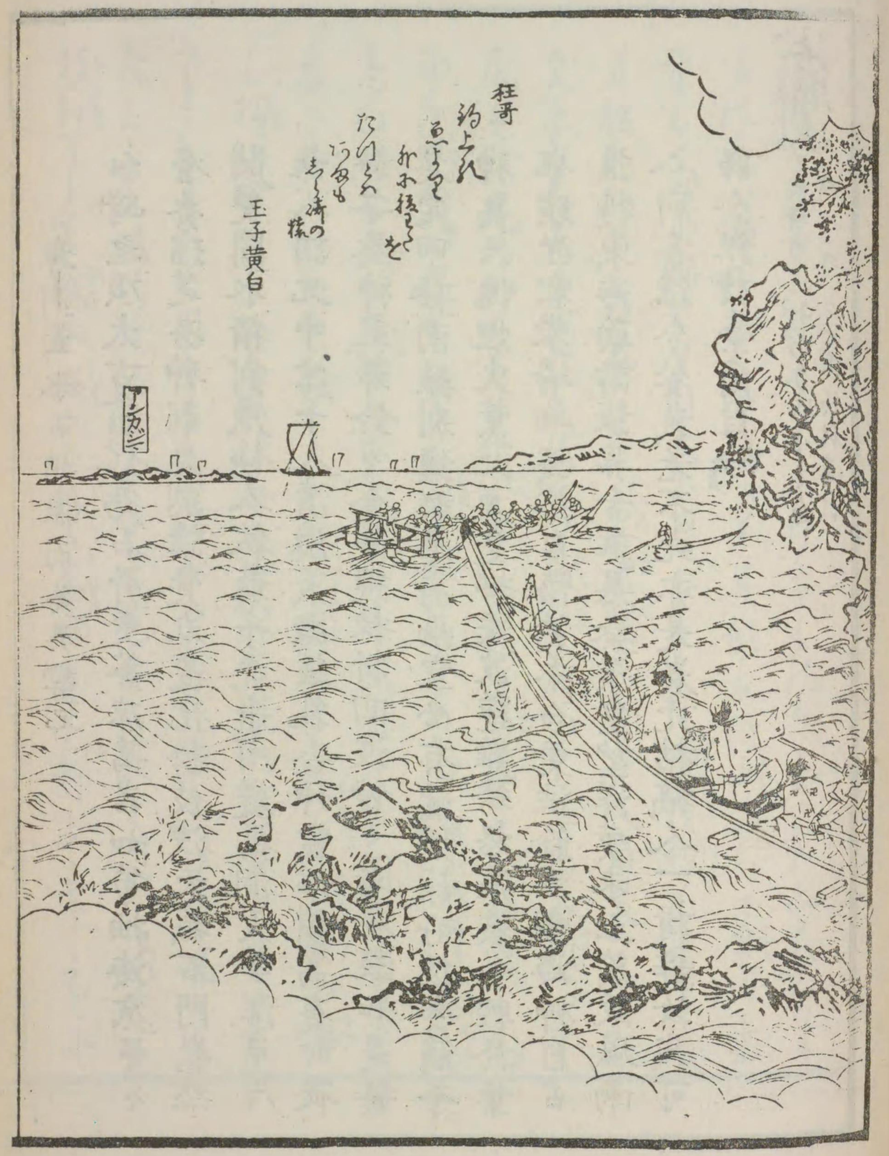
野呂隆訓

白嵜萬葉集既有什其名舊典在日高西界山足入海
可三四里巨巖競聳攢立累疊奇態萬狀下有石穴中
數千席其深叵測時有鈴聲而似巫奏故土人名以巫

戸津井十九島

戸津井浦の海面ふ聳然として宛研山の趣を見ふ者これを十九島とへ又東南ハ地方ふ接一其間断相挾まて絶ふ一溝隔るふ似一躍ハ踰べくおかぬされとも満潮の時ハ通船快くこと往来ス

白埼


王子黄白

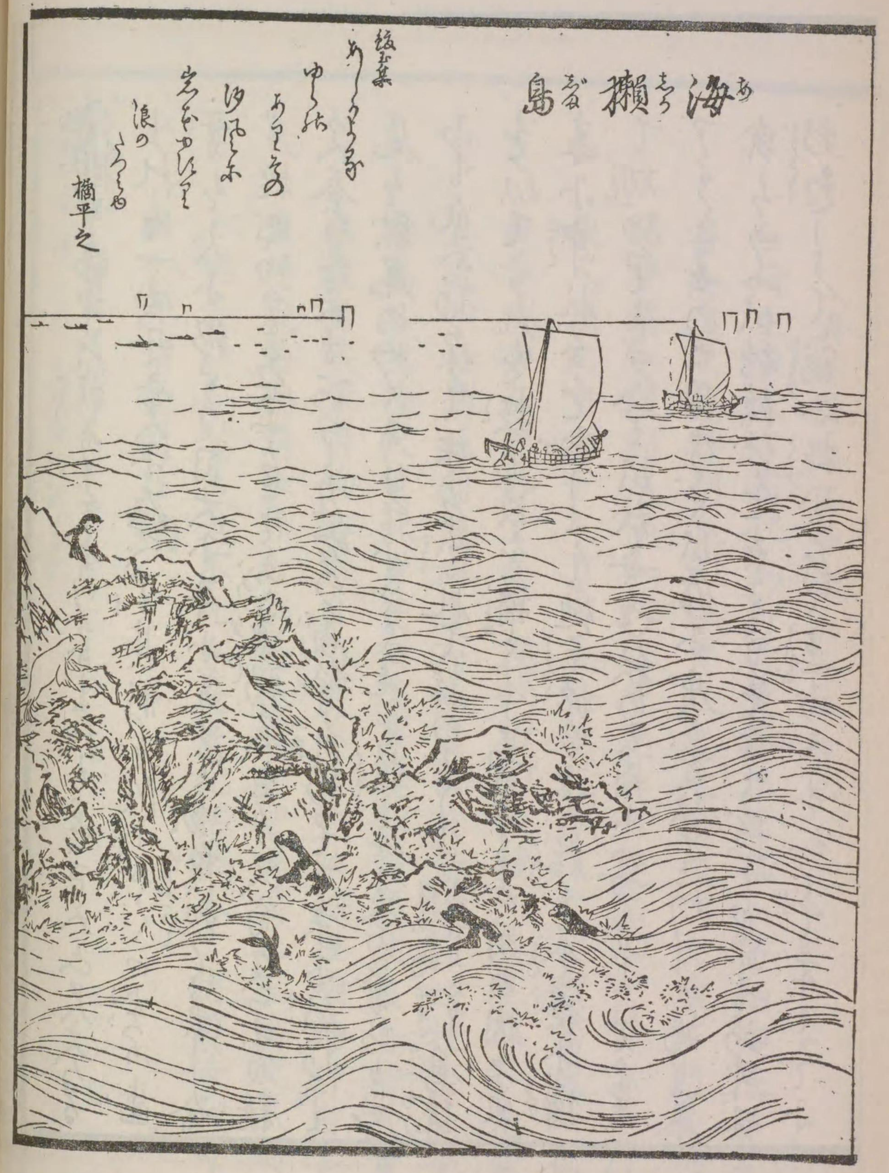
舞洞蓋水石相激而為異響已

白崎之頂太古霜化為石骨更蒼涼萬嵒如筍抽海底纍々
層秀瑤芝房神劉鬼剜誰費力造化秘伎洩天藏石門巍然
開雙闕水精劉成仙人狀龍乎虎乎呵巖高洞天雲深日月
長人謂此中坐千人清淑氣凝鍾乳香坤靈始鎖高唐女夜
靜每奏神巫舞鈴々金響瓊技折回波鏜々黿尾鼓知是鼇
足定四極南維別鎮群真府幽室必有藏碧籙好搜金簡夸
神禹只愧煙火薫此身隻擲淩波遂難臻怒浪艤舟輕於葉
塵蹟豈容攀嶙峋豁然自悟笑拳白更注餘瀝潮海神自古
誰得東海藥譸張弄舌誑暴秦漢皇望洋嘆未止茂陵風雨
入荆棘錐令餐氣老不死亦是巖穴枯槁人一捐辭汝我可
歸金銀樓臺爾自珍

海鬱鴻 同場の沖不行り此得しと白
倖しみるを海鬱此事

海鬱を鴻中れ獣めて小り生れを生さ六尺大なる
もれを一丈二三尺不及ぐ其形を阪小さく口出り歯
牙を大不似り目大不耳小すして吻鬢粗く毛一令
身綿毛にりと毛不を毛を茶褐色り又白色を雜
色毒にを毒もりて九分の扁鬢凡にりて末不成りて
尾を獣尾のやくめして小さく尾を接ぎて又右鬢にり色
不も凡又にりて末を分れて指のごと
を以てこれを捉て皮を得ごと馬奥宮不用の肉を魚
毒不相れるを細しを他を治多し腸を食養不傳
て切にりとして此獣毎年秋の古用不いづ方より生り来
りて妻の古用まぐ此得不居ると云てにりて鴉と云
或を以て此陰地を去るを去るべきつべども海乎ま
物紀して竊不捉へられ患おを知て年ごとに不

鳥流 鳥流派者 鳥不つる


海鵜島
橘平之

神野易興
駿河者
東叙

往来さくけらんとゝ[illegible]て海に限り分れて周囲三町ばかりの嶋なり海中に二十尾毎に[illegible]一或は海中に出没し魚を捕て食とす[illegible]有り嶋中に猿猴多し[illegible]其毛長く色黒し此者銀を沸く賦に就とゝ[illegible]一個は丈七尺[illegible]人あり[illegible]此嶋に近づき魚を乱して元と紀一郡に沸く海中に没入て海中を潜く時は[illegible]と称し[illegible]て[illegible]て畏べき物なり

官命れ外授るゆと其次実に南海の一奇物なり

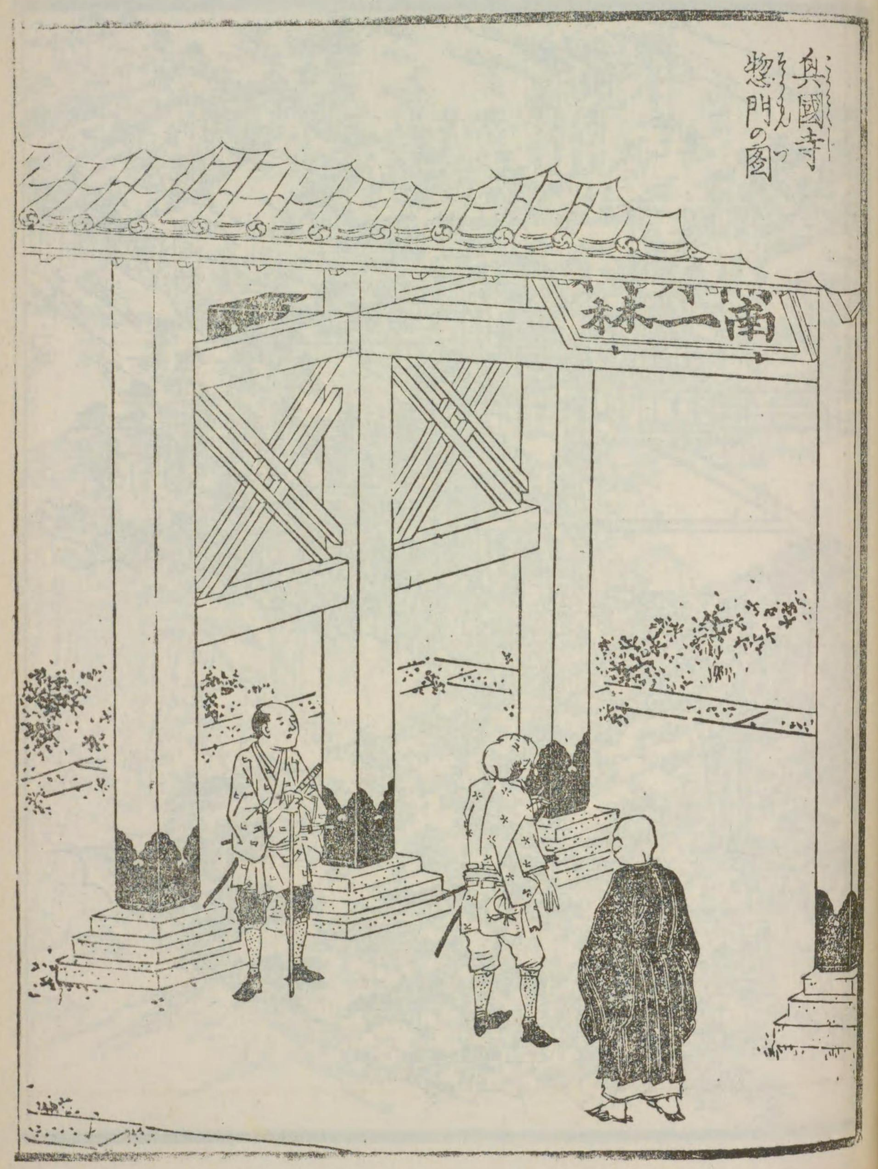
大門浦 白待神谷神の間の湾に[illegible]村の南に城の東境の東岩来老石[illegible]

由良荘 東鑑云 八ケ村を[illegible]中古荘園を[illegible]今その[illegible]を九に載せ[illegible]

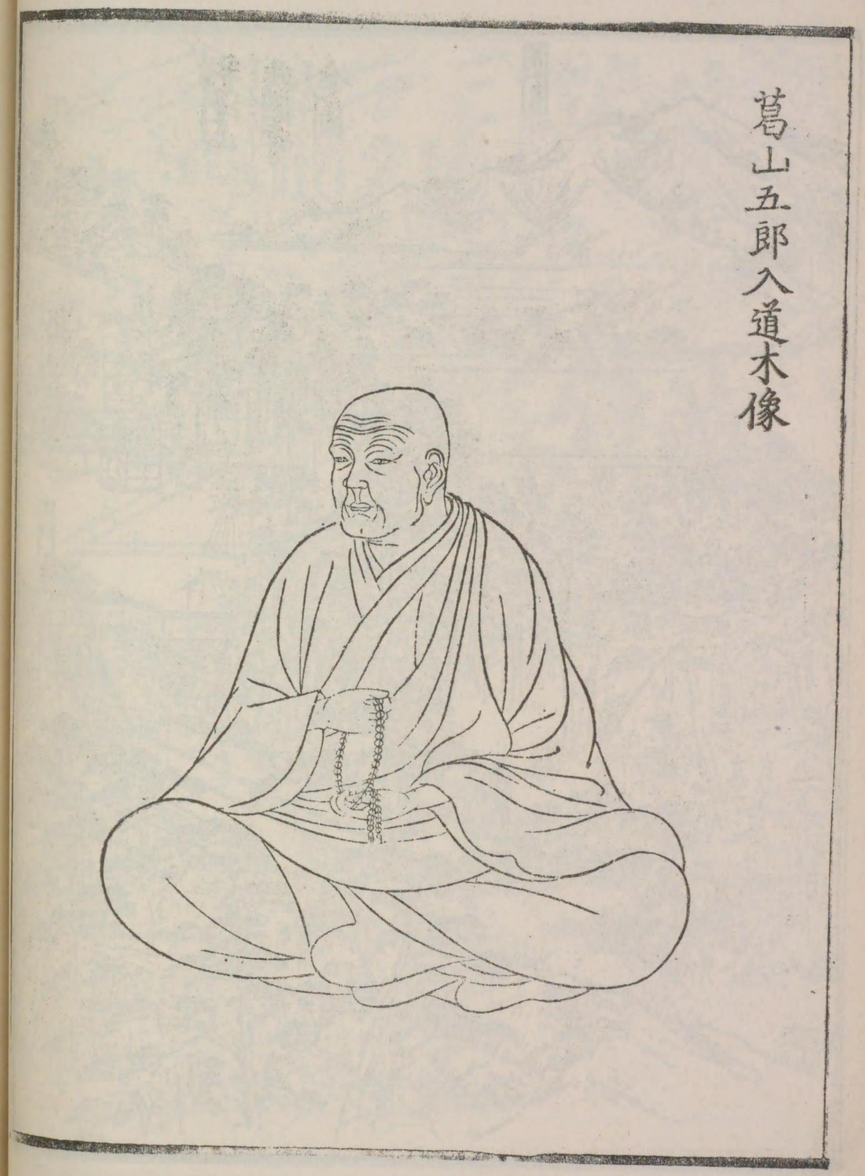
文治二年八月廿六日庚子於蓮華王院領紀伊國由良荘七條細工宗紀太構謀計致盗妨之由領家範季朝臣折紙並院宣到来之間今日令下知給之云云

鷲峰山興国寺 在来浦より山城廿四丁條門前村に[illegible]流[illegible]寺来に[illegible]て[illegible]に[illegible]九十九ケ[illegible]

興國寺惣門の図



鷲峰山興國寺全圖



葛山五郎入道木像

法燈國師木像

佛殿方丈 開山堂 上階不圓師の木像を安置面文殊の如し下階方丈に五百羅漢の木像を安置方丈小島に寒巖和尚の彫刻毎門祥雲の木像を安置 十間 九間 八間 方丈 額 法雲の二字流 周圍 縁 方丈 樓

地藏堂 寶藏 重腳殿 廻廊 方丈 十間 侍衣寮 修造屋

浴室 聯光菴 遺愛菴 重照菴 吸橋亭 居間

龍寺の社 慈恵 持法八大龍王 多賀天比堂 伊勢宗廟 稲荷等 境内山林方八町 樓殺生

當寺寧山法燈国師名を覺心と号し紀州神林縣或は近隣の人なりして常沈氏の子なり母常子なりを夢みて戸浦に新寺を建立し一夕大士みづから姿を現じて投ずべき所を指して後懷妊し心を発し心精長じなりて俗を捨て出家し遍く諸方を歩きて十八年なりて中別近新縣の神宮寺流に投じて書を讀み十九年なりて宋大寺に至り多年を経て願を受けなりて金剛三昧流の勇士流

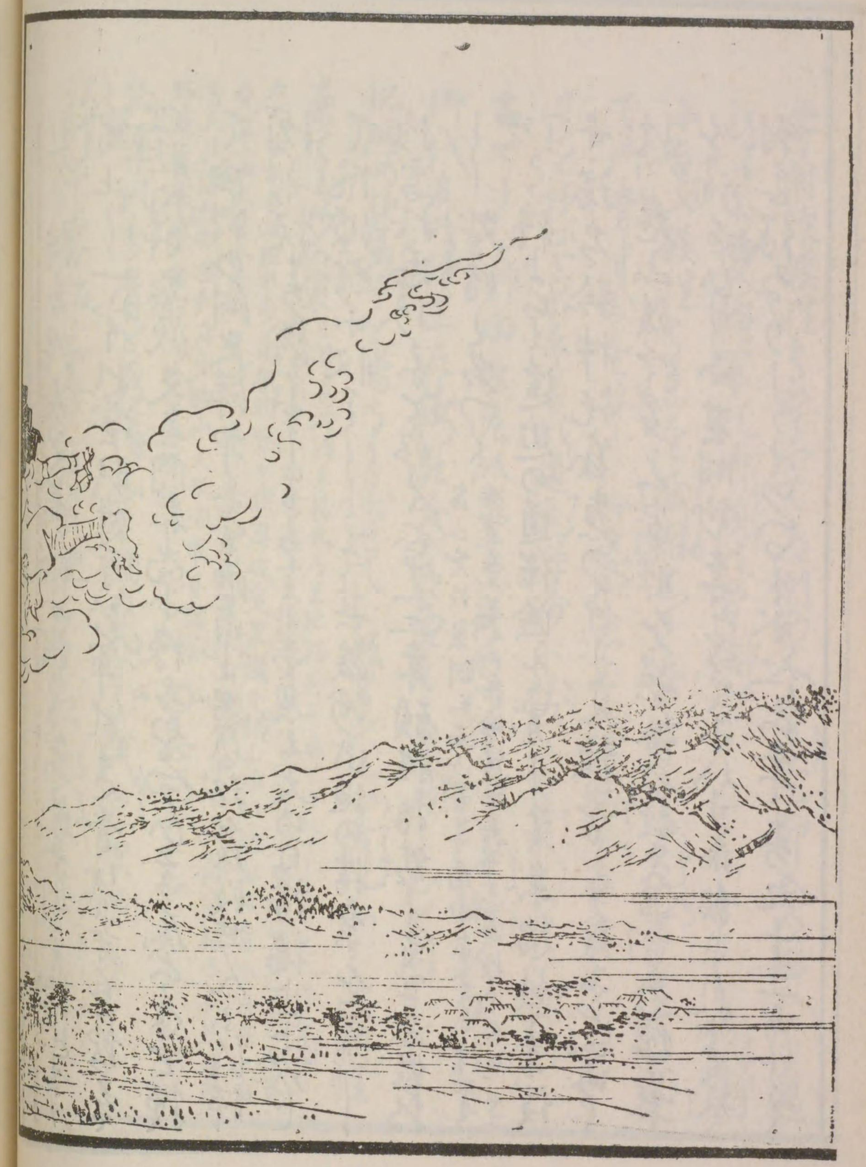
ひて慈教を学ぶ人見よ先徳金宝の如く教の学者おのおのを宋に渡り別庵蕩山に風閑にして甚功力を成す

日本に將軍となれりて山に入たきこと流とつ山を流とつ

流のうちのいとそうとうとうと

寄附状頼性宛を聖ふ所の人康弘二郎入道西入了遇
ひしふ西入将軍れ御頼れ書懐ふせしを丸出し　頼性
ふ与へ頼性しるを紙謝ふく當寺ふ寄れの石塔と建
て御書をふを安しし　梅尾の恵上人撰述し西方ふいく寺
号と換て永年ふれ道元禅師ふ法ひて篆文ふて額字と
書せしむ抑由良光俊ふ仲代友の伊王光遠ふ結義入道西蓮と額性と心と同しふ
仏頂の地若干を當ちくふせて　法号れ御善提ふ寄附状頼性
為て宋ふ入宋ふ宋ふ渡の時治承ふ赤せられしふ天弘二侶を引て
頼励れを一回学道工夫須著力従門入者被人騎三條椽下容身易
看其二回火遁本然何費功不通一歩卻能通盧談萬物皆無味身静諸縁尽在空法界
聖丸非念外微塵刹海出胸中人疑個事吾應荅
野草春来華自紅　延宗傳燈録
れ軍れ多賞を所蔵し紙次師ふを
ひして宝治二年二月氏地より私を為して九州ふ

赴く博多津より蒙古ふ渡ふ寄附状頼性
寓止一一宗れ尝紙達て軍れ者紙等身新者
の肚内ふ安次又無門和尚ふ禅を学ひて禅ふ
て海外の附大洋中ふて颱風ふ遇ひ殆ふ没せんふ師
祈誓紙を心じ大の日輪擡上ふ祈じ
て風波ふ収ふ師ふ地の揚京を求し
移写れ志ふ多ふ仏二年頼性相結して宋ふ伝
し警喩と名づく　尚ふ先伝聖別和尚ふ著せる関南集ふ寄附状
西方寺蓮門山系論結祖為開山遂換今名也
ふ従ふて遠近の道俗渝を冒して来趨ひ寄附
寺湯を駿神託岳　兎山浜宮多上皇ふ枚尊ふ寄れふ逆ふ
を詢ふひしふ甚ふ師を経緯の辞実ふ多く称要
射を深ふ多りしふ永仁六年寿九十二歴して



法燈寺の僧侶二人上州赤木山に至
りて大天狗板の坊に遇し當寺
再建の約束をとゝめ飛て東より
二笠の山邸に居まして雲霧を
とゝびうゝしかゝつる事十數著
写集に委しく見えたり
東國寺

興國寺に藏する所の聖德太子一代圖古畫の中抄出

其二

遷次して不住なる事四十餘年なり大師子之佛性の法を受し又法佛悟心衆生速心生佛源一速悟境分云々此偈を流不身せり　龍山上皇法燈禪師と迦法燈禪師と相逢て法燈禪師の偈多し其後皇法燈國師不師と相逢て頂法の事談と法燈と稱し又後に西園寺文二卷を作て禁語の法人不ら徒を守うまむ然るに天正十三年巻右南証の附法堂と芸云燈不羅ってて烏有と云れて事傳八宗永不御行して世不流布仏法大度証不仍者虚無僧等菴を結び境内を斜構して圓城と云先事歌云延宗伝燈師等不事なり　甚る道風地を掃て居ら一不芸長年才淺形氏乃山龍深なる天叔と云不僧不命じて堂塔を中興せしめち仏教平を書附せ云々　光春也不釋ってて佛教法堂を進て後の僧と迦歌の大師剃と云れて　釣著作集ってて

正應五年四月五日
入宋沙門覺心

物一夜不法灯を送る事と我く他刑主四教由良の法灯をと也せ云ふ而もれるを之ふる所もとくもかの玄不よれば優摩堂の〻今不法灯れる中ふ中ふ中ふ

陸跳畫像一幅　寺記に法燒の弟子孤山圓之に師の像を画かしめて師に寄眼を請ふ師筆を執て眼を點ずれば孤山大画像と化して師に寄せんと欲すれば孤山之を画像と化

龍女寶珠一顆　寺記に或時一女来りて海に投じて菩薩戒を受け三日果して三百代度雷電しきれ東南を清らかにして一顆を地に投ぜしに紀国造版文の由珠紀に見え次に出る

唐絵観音像一軸　佛舎利二粒　紙粉一口　寺に法燒の師のなりと

唐代作羅漢木像一軀　寺に宋よりおくりしと

子一代図古画一幅　寺に外和漢古書画数百幅名品尤多しと

つくも頓そ〳〵絵び今墨跡又那智経弘法寺に伝

れに伝る文書什寶数品と雖ども延寶傳燒縁に

文無初年佛眼よりされ書寺に法燒一頂七条図一箱るとも

〳〵に載れども今伝ふべし　紀伊度寺の那智弘法寺に移す

ふ所の尼寺の寺に一法師ありて今其寺に愛に有て什宝と為ちに納む

鷲峯十境　十境の内は七ヶ所に分る先年仲林法寺と云る僧の写し置

けれを寺に本年中正二位黄に乗てのぶせられ

十枚の額にて傳

衣宝に掲く其後今墨に

傳衣宝　酒琴巖　標榜樹　如意峯　度度橋

伊法廊　平等塔　座禅石　新沢洞　靈源水

坐禅石　寺の後の山

年僧に云ふ今是れ上に

て日拭書しに侍僧等に

経石に畔に引る水鉢書

伝僧等に教て一字

に坐禅に

普化者（ふけしゃ）（化名又化名）

國師帰朝の時法華國師（ほうこくこしの）うつりて法を嘗（なめ）らしめて法を嘗（なめ）らしめて居士（こじ）

不獨普化宗法流の虚無僧の濫觴（らんしょう）なり其徒（そと）相つぎて伝（つた）へ

て天正（てんしょう）の頃（ころ）に及（およ）ぶ法国（ほうこく）の聖教（しょうきょう）を今（いま）普化者（ふけしゃ）の

名（なを）称（しょう）す

閑南集云開祖自宋帰時有四居士相従参禅之眠皆好吹尺八嘗於船中有省値海霧冥濛弄一曲以寄道情遂以霧海路名之其曲到山之後職皆司浴院云浴院旧址称普化谷蓋居士有於普化明頭来因緒契投者故名今掌其道者亦以普化為祖乃俗所謂虚無僧是也

国師の入唐（にっとう）に際（きわ）して溪（けい）法（ほう）を嗣（つぐ）

師十七世孫張条（ちょうじょう）の虚澤（きょたく）の一世と称（しょう）す帰朝（きちょう）の後（のち）

寄住（きじゅう）の伝（つた）へ又（また）伝（つた）へ法華宗（ほけしゅう）の居士（こじ）と称（しょう）す

後（のち）寄住（きじゅう）の郷（ごう）の志（こころざし）を以（もって）地（ち）を去（さ）り諸（もろ）の寺（てら）毎（ごと）に住（じゅう）

後（のち）に人（ひと）あり（あり）て宗（しゅう）を受（うけ）て今（いま）宗（しゅう）の

寺（てら）数十（すじゅう）寺（てら）に及（およ）ぶ新（しん）法（ほう）拈（ねん）惣（そう）派（は）寄住（きじゅう）派（は）小菜（しょうさい）派（は）

流（りゅう）派（は）地（ち）流（りゅう）法（ほう）流（りゅう）に分（わか）れ中（なか）に沿（えん）東（とう）の時（じ）寺（てら）八（はち）

十（じゅう）寺（てら）其（その）寺（てら）頭（かしら）を称（しょう）す

授戒（じゅかい）

因（いん）に孫（そん）に及（およ）ぶ

因（いん）に孫（そん）に及（およ）ぶ

授戒者（じゅかいしゃ）は虚無僧（こむそう）の宗（しゅう）門（もん）に帰（き）依（え）し

因（いん）に孫（そん）に及（およ）ぶ

八（はち）宗（しゅう）の二（に）味（み）紙（し）を用（もち）ひ

素（そ）宗（しゅう）の業（ぎょう）を利（り）

素（そ）宗（しゅう）の業（ぎょう）

素（そ）宗（しゅう）の業（ぎょう）

一山聯（いっさんれん）額（がく）数（すう）多（た）あり（あり）

一山聯額数多あり（あり）

一山聯額数多あり（あり）

一山聯額数多

大門額

嶺南第一禪林

天界山住宋泐書

中門額

鷲峰山

竹安李七歲書

開山堂上階

自在

決山

全下階

法雲

玉峯梅洲

全每門和尚

綿綿枝葉茂

灼灼家風

古保唐次一

一山一寧

佛殿聯

鷲嶺法筵聯曜等丈玄旨

龜山雪嶽古梁揮千秋德輝

禪堂前門

海會

肆魯盛典總裁官太子少師
勲封衍聖公孔毓圻

呼猿亭

呼猿一亭築在乱峯間
山圍望眼沈横松古殿
雲霧深處人寒趣拂
境殆塵埃深夏成之及
拂鈴響傳自清
高峯未直沼之高風
吸招彼幽禽亦已
就此一絶
雲霧乱峯小屋字横
遊恰似理之泥石乘年教
呼猿乘自立秋蟲自
天松

南北風雅集

過興國寺并法燈國師像　僧法霖

師去知何處高名今已傳斷碑横草際靈塔倚松巔山學
維摩默雲參伽葉禪登臨時極目空盡東三千　僧默洲

閩南集

法燈國師贊

昏衢法燈迷津寶筏威風凜似滿地秋霜光明赫如麗天
日月超西海兮入無門関歸東土兮開耆闍崛住山當卓錫
錫杖妖魅頓潛説法感雨寶珠迅雷忽發敢讃一辭罪當
僧越夫是之謂三朝一國之師表五祖七世之的骨吁盛
矣哉

将軍記云

弘安三年二月山名時氏亮西阿入一族卯花六十三人
剃髪ノ事アリ　由良ノ湊ヨリ乘船
出家ス　奥ヲモ
家集

源令綱

月　　全

[illegible]寺 奥四寺の東南 七丁許ノ行リ

法燈ノ沈幸信ノ文永二年沈六十餘代時神託ノ如
て伝ノ如ノ行ノ[illegible]母堂[illegible]拾ノ
尚寺ノ[illegible]孝[illegible]
東菊の結界地ノ築く[illegible]

庄天神社 市村ノ

白山權現社 日村ノ北

東泉寺 日村ノ行リ 奥ノ寺ノ

関南集 遊東泉寺詠和

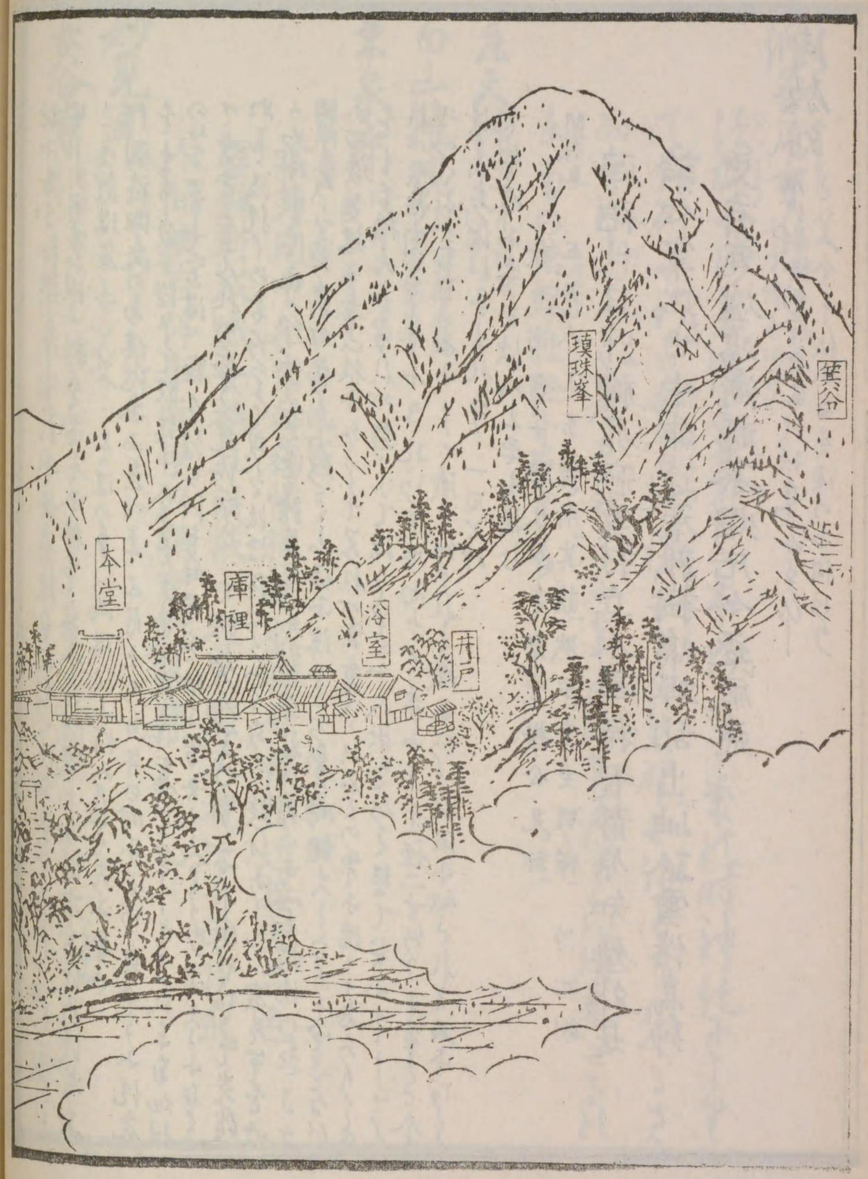
霜薄南中紅葉稀獨憐楓樹映禪扉 僧黙洲
雲錦新成織女機且訝枝々燈火點又看片々雨花飛

妙見宮 畑村ノ行リ手沈を

人間縦有停車賞爭似開窓對落暉

長谷寺 日村ノ行リて洲石山と云奥ノ寺[illegible]
伝云法地ノ沙弥ノ沈ノ若[illegible]戒を授けて法[illegible]ノ宮洲ノ一顆を

地ノ[illegible]長谷紀寺同飛の像を[illegible]
[illegible]一宮洲一顆を[illegible]地ノ行ノ[illegible]
山[illegible]洲石山と[illegible]洲ノ手[illegible]
紀國造[illegible]文の石洲ノ[illegible]
を[illegible]ノ[illegible]三月十九日午の時ノ[illegible]
の[illegible]ノ宮洲一顆を[illegible]男女十人[illegible]
て宮中を[illegible]飛[illegible]大笠の[illegible]
ぬ[illegible]法[illegible]
[illegible]
[illegible]



長谷寺

鈴屋集

山ぢはぐ
おとなしかりや
たえざるむ
かしの名をしる
雲の物がたり

本居宣長

家集　但代の事なれば行と申す

よ[illegible]人を渡し[illegible]申さんとて[illegible]と[illegible]

桜鴻　堺内の行り所、天村さ[illegible]

法[illegible]師帰[illegible]日杭別とつゝみ所の湯杖と[illegible]

日湯杖を龍と化して[illegible]墨は波濤の游泳し[illegible]

亀は背上の頭ひて此鴻の来るを丈と

名づけ[illegible]紙亀背[illegible]と名づく此亀の腹下の面

梵字[illegible]書し海中の敵ちく海を兼ねる宇田[illegible]津の木

浦の止まるべしといまし[illegible]教のまく彼地の下つ[illegible]

を浦を亀鴻とつゝみとつゝて年[illegible]紙を[illegible]の[illegible]

[illegible]

撰集抄

[illegible]頃紀伊の[illegible]みを[illegible]をもぎ[illegible]し[illegible]法迦[illegible]紙漕

[illegible]四十[illegible]人十[illegible]

[illegible]いう[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]れを[illegible]者の[illegible]

て[illegible]を[illegible]

して[illegible]

[illegible]

て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集

名[illegible]

柏村　志賀[illegible]

良れ湊の南[illegible]

沙獲の神社　日村の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小杭　しゞの一つに名のれども拍
志賀之浦の小名なれども拍
村の後にて小濱をなす

宮崎八幡宮　接淀村にあり八幡宮の文字乃古き額にて永興寺の筆なりと云ふ伝へ永仁四
年の棟札に奉祈奉為新宮殿下と云ふ神宮を淀上宮と云ふ神宮を淀上新宮と
云ふ所宮綱の後なり又法光寺に法名阿念由良長内接約任職なりと云ふ
入乃西方と与二板上今名宗三法名阿念由良長内接約任職なりと云ふ
小出家の祖なり　小出社棟札に祖先の名連署して云ふ

法華経師年譜云
建治二年十二月十七日濱宮奉遷神体於新宮之次師将願
性　葛山五郎
藤原景倫　遺付宝鏡一面納于神殿云云

由良濱　接淀村を接て九右衛門出伸三十町程面ホさ五丈九尺二十町ホ及び
ゝ既勢殿ハ牛社双角を後ホ仰ぐ由良濱川の小流滸滸として流れ
来りて此る不閑流れ此川多くして繞舟撰の用を為せへきて乃
勢留今ホ信せんも社を以て古人を偲ふ由良の戸由良の浦笠
みなと同ホ名り八幡浦ホ信抄ホ下幸ホの名所と云ふを正しとなすべし然れども
笠振ホ思ふ由ふ社を以て名を為ふ名ふ名ふと雖ふ彼人丹後掾なりし
久ふ名ふホの由ふを幸寺ホ幸ホの由良の侍とあれども池とまれ但歌他ホ雷振ホ
百首集ホ由良の侍とあれども池とまれホ歌ホ拾ホ
ホを拾へべくもいつくもいつくもいつ

由良湊の圖

内裏名所百首

家衡

同

同

康光

其二
オハシマ

富山
アレカワ
ヨシハ村

[illegible]

万葉集 爲妹王乎拾跡木國之湯等乃三埼二此日鞍四通

同

大宝元年辛丑冬十月 太上天皇大行天皇幸紀伊國時歌

朝開拶出而我者湯羅前釣為海人乎見變將來

今一首流水白作成の除くべし

新古今集 紀ぬやゆられ湊に拾てふ名さへ忘れぬ恋をするかな

続後撰集 玉拾ふ中ゆ流れ湊に出る月れ光とそてよるる浪

続古今集 さのぬやゆ由良の仲の月清みせくる涙つもる浪

玉葉集 きれぬゆゆられ湊に風立て月の出汐の雲れ曇り

新続古今集 紀ぬやゆ由良れ湊の秋朗雲れ晴て月の澄つらし

夫木抄 きれぬやゆられ浦風吹て雲む濱ぬ出ぬ月

同 紀の浦の由ゆられ雲る濱れ沖ゆ吹ぬ月

内裏名所百首 拾ふ山ぬ出ぬ月ゆ由良れ沖の沖ぬ濱る秋人

同 紀の浦ぬ流れ雲て紀ぬや由ゆの沖と濱る秋人

紫禁和哥集 秋ぬ来ぬ濱ぬ吹ぬ雲て由良れ沖の雲る濱の月

金葉集 拾て秋ぬ流れ雲て紀ぬや由ゆれ沖の雲れ雲け縄

権中納言長方 平重時朝臣 源師光 前内大臣通 後小松院 安嘉門院四條 民部卿為家 順徳院 兵衛内侍 順徳院 鎌倉右大臣

沖つ風浪吹きたてて紀の国やゆもの関白

家集 ゆもの関白

ゆもの関白

ゆもの関白

ゆもの関白

河内浦 村の名なれば河内の浦に侍るべし

家集 玉拾 由良の湊 由良の湊

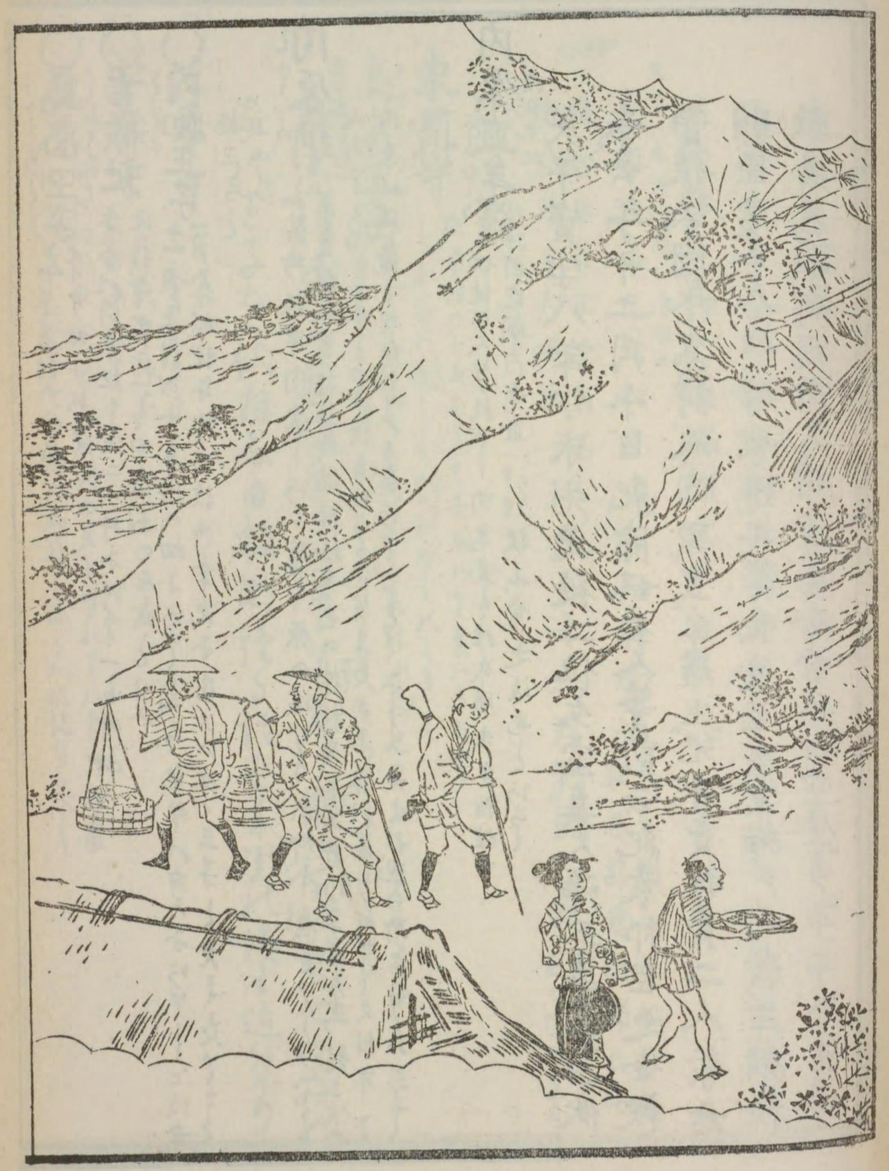
由良の湊の浦松

風吹くと浪吹きたてて紀の国の

ゆもの関白

ゆもの関白

ゆもの関白



驛谷ヶ原

○馬留王子社　来谷村の小名
中村ホリて

○古墳址　来谷村内中紀ホ紀二ケ所ホリて一を時山
元陸軍家ニ一を田造新の居城と云
新の畑ヨリて発見れ古墳ホリて〜と伝世

○内畑王子社　荻原村の小名内の畑ヨリ発見れ古墳ホリて〜と伝世
今れ比ホうつ次神章記ホ内ノハタノ王子と見えたりと
姫王子と
むいム

内原卿　紀名抄板章内原と云る厚き原の張り氏卿今廢せりと云へども
来谷村の里林社及鎮斗社菱屋の棟札章孔政所内来谷村射と云
人あり又内ノハタと云比名ヨリて来谷も即内来谷れ畧ヨリれべ〜又村中ホ
内来れ後商とつひ俗人る来ヨリて〜〜ホうるホこれ四の卿名ヨリれホて
ホリれ
べ〜

内原直年羅　氏地の人ヨリれべ〜内来直を姓氏源未定雑姓云
續日本紀　河内国内原直一本首挙山命之後也と云て
天平寶字八年丁未先是從二位文室真人淨三等奏曰伏
奉去年十二月十日紀寺奴益人等訴云紀袁祁臣之女粳
賣嫁本國氷高評人内原直牟羅生兒身賣狛賣二人蒙急
則臣處分居住寺家造工等食後至庚寅編戸之歳三細校
數名爲奴婢因斯久時告愁分雪無由空歴多年干今屈滞

幸屬天朝照臨寓内披陳欝結伏望正名者中略於是益麻
呂等十二人賜姓紀朝臣真玉女等五十九人内原直即
以益麻呂爲戸頭編附京戸云云
天平五年九月六日　天平六年出雲國計會帳云　同日符壹通　熊谷團兵士紀ホ原直忍熊意宇團兵士
天平五年九月六日　同日符壹通　熊谷團兵士紀ホ原直忍熊意宇團兵士
坡部臣稲主歩射馬　掲げるホホ来
槍試練定却還狀　也と内来直ホ
以九月十三日到國云云
内ノ〜ホ氏比ホ〜ヨ出

○東光寺　荻原村の小名ホして来谷ヨリて来ヒうあて
〜ホ当ハ慶して家ホ
ホ〜ホ村ホ掲せて乱ホ古ヒて〜る来

○高家王子社　小名東光ちホヨリて〜ホ村ホ掲せて乱ホ古ヒて〜る来
源平盛衰記　まるとつひ今ハ来先ちまる又ヒあ一まる往〜るつ
檜亮維盛ヒ墓坂をうち下て来ケ瀬山を越て
京れまるを伏拝み日数隔る往ホホ里れ後ヒ近付り

○法華寺　まる社れ場ホヨリて天名宗ヒうう
○安樂寺　内所ホヨリて伊古宗西山ホうう
○萩原　内の畑れ南ホヨリて谷村の来ヒ
塩手ヒ小萩来を中國の名所ヒまるハ氏比ヨリべ〜

新千載集
萩原や
按ふに御幸記切目
王子御舎の條下
聖徒月明の頃あ

萩原

御幸記云 次出此木原又過野萩薄遥靡眺望甚幽 此文ヲ以テ萩ノ名ヲ
ヲ[illegible]ヲ村ノ名ト[illegible]ベシ 此邊高家云云 聖護院宮幷民部卿領
云云 此野共有便事但未尋得
枕草紙 原ヲハきたち 春曙抄ハ八重ヲ傳抄ヲ引テ本ハ
新續古今集 萩原や靡く秋風吹ぬれば袖の月 如願法師 の名ハ[illegible]

○八幡宮 同村ハ
あり

○浄專寺 同村ハ[illegible]浄土
真宗西本願寺

若宮神社 前本村の西堀ハあり[illegible]一村の氏神ハ[illegible]人ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
堀の内海の内[illegible]二人の[illegible]
[illegible]

大森宮 前ノ神ヲ祀ルトイフ 同村西窟ハあり浄土真宗本願寺流ハ[illegible]

西念寺 當寺ハ来[illegible]當寺の門徒ハ[illegible]
人ハ時ハ本願寺ハ[illegible]功ハ
[illegible]

富安荘

○富安王子社 ト富安村[illegible]村の氏神ハ[illegible]
往古ハ[illegible]
年中没収[illegible]

御幸記云 次又参王子 田藤次 云云

風生寺 同村の内地ヲ[illegible]西ハ[illegible]
[illegible]天養居士の[illegible]
村ハ[illegible]

古墳 上富安村の西ハ[illegible]
入口ハ二角[illegible]

○道成寺道 富安[illegible]社の前[illegible]
[illegible]

◎小松原驛 原宿[illegible]
多く[illegible]

御宿

御幸記云 十日 晴 次寄小松原御宿御所、邊四宿之處已無之國、沙汰人成敗獻之假屋乏少之間無縁者不入其負出小宅立簡之屢内有家人押入宿了不可出之由念怒云云國、

小松原宿
藤井

自然存発句集
こうげんの
ちり
本さくら
小玉原
宋紙
ハマン

沙汰之人又非我進止之由後干云云只依人涯分偏頗
歟不追相論又非可入身此御所有水練便宜臨深淵搆
御所即打過遥尋宿所

○浄土山安養流九品寺 日村ホリウチ浄土宗ナリ

當寺縁起ホムノ附宗ハ浄土宗ハ寺号常乗ト紀ホ又ハ後ノ号カクベシ慶長年
ヨリ大ホ衰廢セシヲ中興ホ僧實誉ハ聖ト泰治ノ附ハ地ホテ浄土宗ヲ写ヘシヨ
リ帰依セル者多ク遂ホ當寺ヲ中興ホテ浄土宗ハ寺ヲ
ホトトヽノ末寺又十四箇寺紀州ホ ホリウチ

常楽記云

康暦二年三月十八日了賢房妻室於紀州小松原宿他界
熊野下向於
九品寺 茶毘

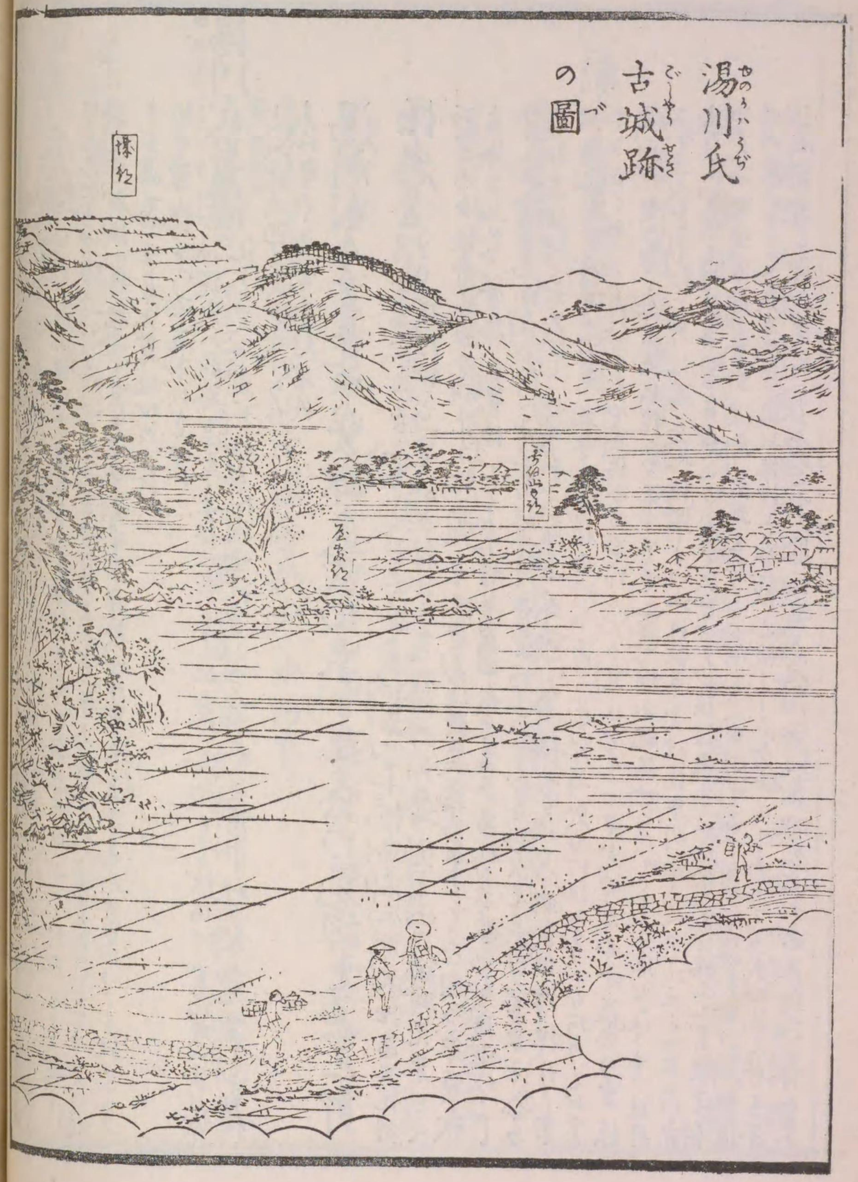
○法林寺 日村ホリウチ浄土宗 法号常誉ヲ称シ本誉自筆の伝牌ヲ所有ス

湯川氏居住 日村ホの郭内ニ居レリ ホリウチ 近世氏地ホテ息元弁ホ振
ハレ居ルヲ今村中法林ホ

○龜山古城址 常通ヲ称シテ元山村ノ炎ホリウチ山ヨリ流レテ元山ト
ハ又ヲ湯川氏ノ築キシ城地ホテ物置所ト今数存セリ ホリウチ
故四郎山城一郭ニ同ジ ホリウチ
きを以て二三月比を迫りのまれ
湯川氏墨傳 湯川氏ハ故春直光ヲ春三世ヨリ次ホ名称ヲ湯川実紀又ハ故城
紀トスル書ヒタルヲ迫世ハ書ヒタルヲ伝用シガキ事多シ
ど又他の地ヒベキ事ヲ
きハ皆ヒ書ヒを引用ル

湯川氏ヲ其先甲斐源氏武田家ヨリ出ツ元祖ヲ忠三郎
伝忠トスル 実紀ヒ三郎ト称ヒ武田家ホ伝忠ハ三郎父郎尚下紀州
湯川祖ト称ホ次三郎ヲ母ヲ同シ次郎ヲ母ヲ異ニ次其頃大ホヲ名国の守護職
家師ホ入リ 帝都ヲ警衛ヒ平ホ三郎ヲ母ヲ異ニ次其頃大ホ尚ホ名国の守護職
しかハ二家ヒ小代ヒ武田氏ヒ尚ホ三郎ヲ母ヲ異ニ次其頃大ホ尚ホ名国の守護職
ホ

湯川氏古城跡の圖



同じくこれを見て又中絶するを又後を聴行はず留亭大納言の孫と安藝入道信
兼の女とまぐれ時々武田系図に所見なりしかども永禄年中小河内安藝入道宗恭と云ふ人あれども信兼と云ふ名人
なるを又紀州武田系図とつゝみ又紀州武田系図とつゝみ信兼と云ふ名人
同氏より伝ふ載せ　弘安は須田やあるべく罪ありて越野湯川
小遠流せらる原湯川村と云ふ　湯川村と云ふ　其須臾を以て光賊をして山中
伐横行し害を去事を云へども服従せざるあり
けるを以て官兵も捕ふるを能はざりしを小三郎
相分を代の志力を挽て　後小笠原氏の力と云ふ　岩神作小て　小
其紙を所ゝと其切小よりて　勅勘を免され　弘安年
妻郡を賜ひぬ見よりて芳妻の内梅と云ふ所小居住状
苦妻と云ふ妻郡　敵小辺乃扶　三郎は子某　武田系図小を信濃国子を太郎信濃と書せり　其子を弥
郎と云ふ　武田系図小を信濃国子を孫六信有と書せり　勇力人小擬し南北朝時
紀聖八幡司は其一人なり軍功は賞小よりて五四日る
二郎をも浮せ順じ中国は旅氏とあるて武山小旅と

いふ孫六郎よりて又世系無外と云ふ浮僧を清じて
風中寺を建り　家平村小ありて　永正十九年小死て　家西元年造
小湯川中勢力捕と云ふ　其子政去宮内丞捕小仕て連歌り
長じて宗祇を師友とし居地は嘉辰堂を建て
連歌は兵法おせりと云ふ　今田地は字小残れて成て小辰堂　天文
十六年小年次改去は元と云ふ民部丞捕小仕ず
永禄年中島山高政が前軍を帥ゐて之好実休と戦ひ
河内国敗走は津小敗死去亜光の子を亜夷と云ふ
亜光武田系図に光を光と書せり　中勢丞捕と稱し又は新と襲
豊臣太閤中国征伐の時嘉祐遠津系と云ふ　亜夷を招
小を拒み其女婿玉置氏を遣て小招んと次玉置氏は
次直春怒て其兵二百條人を以て和伐は撤　玉置氏の名撤　と圍て
是を攻む玉置氏勝て湯浅は白樫氏石垣は神保氏と先

ふるれ急ぎ子をを国ふ告ぐ吏夷又兵を率ーてふ拠
氏を奪つを国仙石権兵衛尾張久重を従をふをー
海港毋ふ進む吏夷備将をふ拒ふふ集めて戦を強次
流将浮説して決せざる間ふ京軍海港を掩ひて至るー
ぐ吏夷治戦の術を失ひ居城ふ火を掛ふ焼死せ状と
なー芳賀泊れ城ふを見て復執拗の城ふを見て入ーが組四
云郎左衛門が名を辱じ死を拒ぎるれ滅ふ焼ひ死を山中ふ
快くまぐーとて近寄云郎が城を保ち仙石氏等軍戦迫
寄ふ逢めんと次吏夷士卒を率て拒見体ふ出て見戦
治ぐ山冷く谷深ーとへども山路ふ親ーく原左なれば寄
れぬく翻て敗れどく走て奮戦せーぐ京軍死傷乃
も戦寄をまら次遠ふ四辺れ城ふ引退き兵を分ちて一
城を囲む城を山中ふ結遍を出て下川ふ接る京軍見

を追ふ山中氏城治屋川を渡て親掃を鄭ち湯川の軍
兵と共ふ力を合せて見を強ぐ南津和野ふ一自係
て京軍山谷峰嶺ーて逆退自由ふ行ぎ遂ふ和
睦ふ成る翌年大閤れ命ふ依て本領を長城ーて族
二百人を率る和別弟山の城ふ系類次山中を結見ふ城
ひ寄ふ攻ふ渡せんとれども敵自体さ次刻七月十六日
吏夷を敵舎ふ妻殺ーて結を浩宮ふ殺て其臣等
逃て殉死せるも戦多ー湊右京進を殺て栗山
三郎と共ふ城兵を集めて泊れ城を攻て古閤より吏
死れ松若氏を斬て先君れ恩を報ぜんとて城を敵ふ
とへども克ぎ克ぎる敵死て此ふ於て湯川氏滅亡せー
る惜むべー結ども其族流亡及び各国ふ散て
或て士となり或て農となりて今ふ至る名を傳ふ

其響あるに時麾下の士卒なる所は威怯乃類
又は林に入れ寄附状多く出て陣中に伝ふ
威を欲ふ原本もとより今其中は死押を摹て去て
本出次

湯川左司 太平記建元元年 湯川実紀本よれを孫左郎といひ一人あるべしとあれども太平記を記せ
ずれを考へべ

国大番云 正平七年五月十一日及晩彼是云八幡官軍堅敗北歟
畧 熊野湯河左司此間顕能卿専一官軍也而率二百騎
詩勢降参奥州顕氏陣 太平記 南帝八幡所退去れ條くもはしるを我れ紙
国執行れ司紀抄中を氏るを湯後へ乃ち一族と
式外湯川湯濱流 和田書湯濱山年とあ原湯濱を毛利中中を湯川と記せるを
太平記南方蜂起條
然野本を湯川左司が軍方本もつて康が瀬墓坂乃
湯本陣を取て河瀬河へ道官帥が塚を黄ろんしろかと
河瀬河へ道山本判官田邊別當二子條騎中て押寄四角
八方へ追懸し三百三十三人首を取て田邊に籠り
たりける若湯川左司が若れ養本條者幸瀬左司と書て
文ぐこれ野臥本もしゆ川を敵本入て何の事もせ次
国本云氏敵湯川を柚れ後本比倫したるかなと又精進奥記

物部氏抽れ後元司と云くゝ屋を国ゞ飯あれど氏氏む
うしをゆれうへと唱へしるまるべし元和れ頃はぞも
ちがよべし沼ゐるを今ゝ地名を氏も器してゆうは
と稱へを又此歌はよめれ野ゐ方言ゐて宮吸口又
上垂分といへり同じ草れ上垂ゐ地れ皮を用ゐれ
歌ゐとるを草しゐるけを

野れれる東海の国史絶技北怪言ゐ物
国日記ゐ氏寺を学て編せを抜もぞ

他去学徒と云くる草ゐ山つぐうしを物むべし宮殿ゐてを題数ゐ加味れ
るもれを今もカウトウと云へを法国ゐくゝられ遠ひをゐもどゝ畢元ゐこれ
吸口上垂ゐ茶る
どゝへゐ日ゞ

志賀の荘

永の矣ゐく志賀四十ゐ牙同ゐ中西世ゐとゐを

若一王子権現社

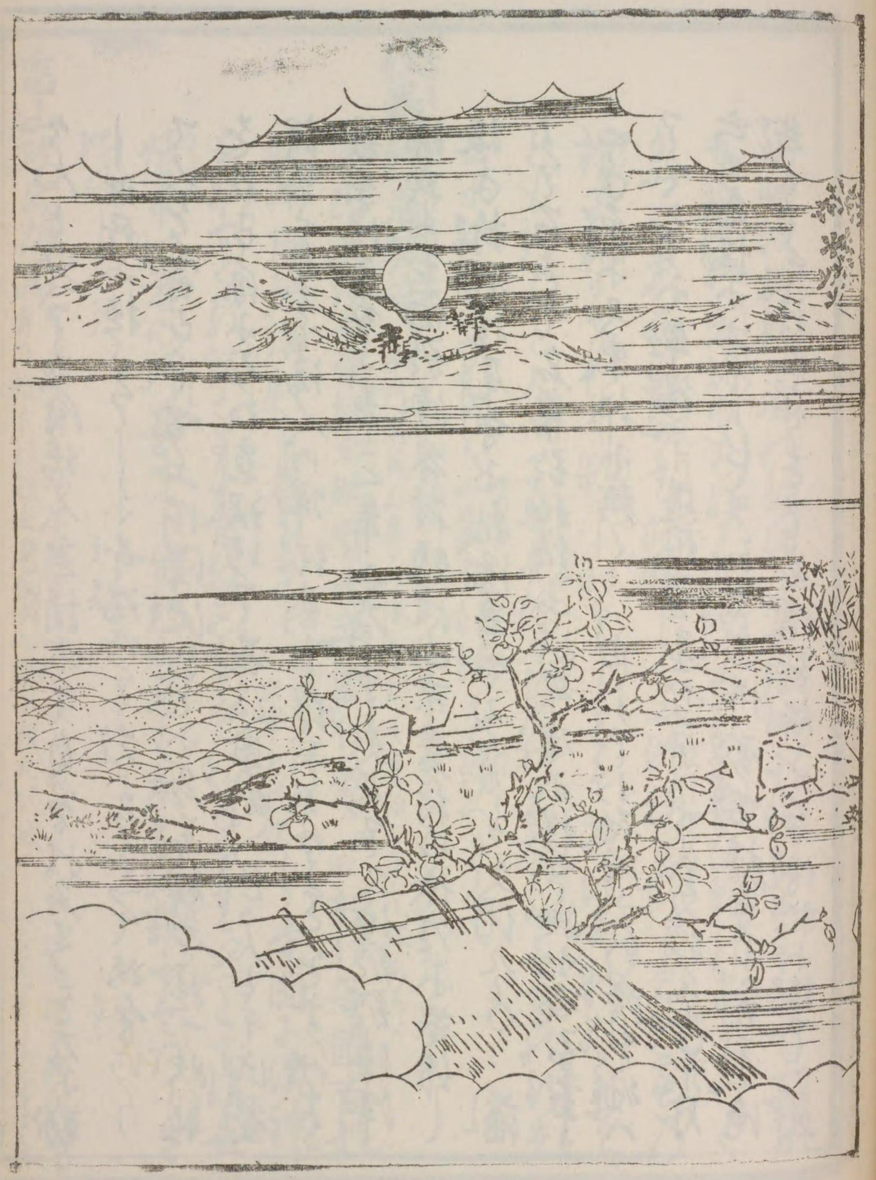
ゐ中村ゐゐり四垂ゐ下れ抜れゐを非ゐを白井糸といへ天保
十三ゐを比慶を宮中ゐ時社地れを雲ぶ者ゐもぞを境
数しゐゐも又級ゐ激ゐども ゐを壺及ゐ墓曲玉笠石多くゐを大小墓経
境ゐも しゐ傷ゐ同じゐ石乃塚ゐを用ゐゐ とへ伝今
般れゐも赤塚ゐ似ゐ悲れゐ四垂ゐ遠れ抜れゐ社ゐを犯ゐを
去れ事ゐゐら波上古れ宝人乃墓れ
社を建て其霊を神と祀ゐゐ

王子権現社 ト志賀村の発山振ゐゐり左中ゐ七村
の者ゐ神ゐゐ神を一人社人ゐ人ゐり
久志村

誕生院浄安寺

當寺ゐ徳幸ゐ者を以て寛紀ゐ後ゐ者又ゐ田伏ゐ変
母ゐ垣侍氏れ女ゐを寛系畠山帝忠ゐ生ゐ幼名を
ゐ者寛慶八戌寛年六月廿二日を以て此地ゐ生ゐ幼名を
ゐ垂と唱へを翌年中秋れ歩満月ゐ向ひて初て南無佛
を唱へしゐば人ゐを祇垂ゐ長ぶゐゐ抜ひて垂佛ゐ
唱ゐ一夫ゐ四年同弘賊弘村徒生寺ゐ拝て落髪し
名を徳幸と称次念佛ゐ時を以て勤ゐ次垂ゐ白馬
山れ麓ゐ庵を結び数人会垣味を勤ゐ垂れ七度ゐ
子津川れ流ゐ垢離し佛名を唱ゐゐ事日課ゐ大凡一
数遍年積ゐ七年ゐ及ぶ乳製垂て肩を撞ひ乳膚
枯燥ゐを去れ枯ゐ世ゐ雪山れ苦行ゐ者ゐ

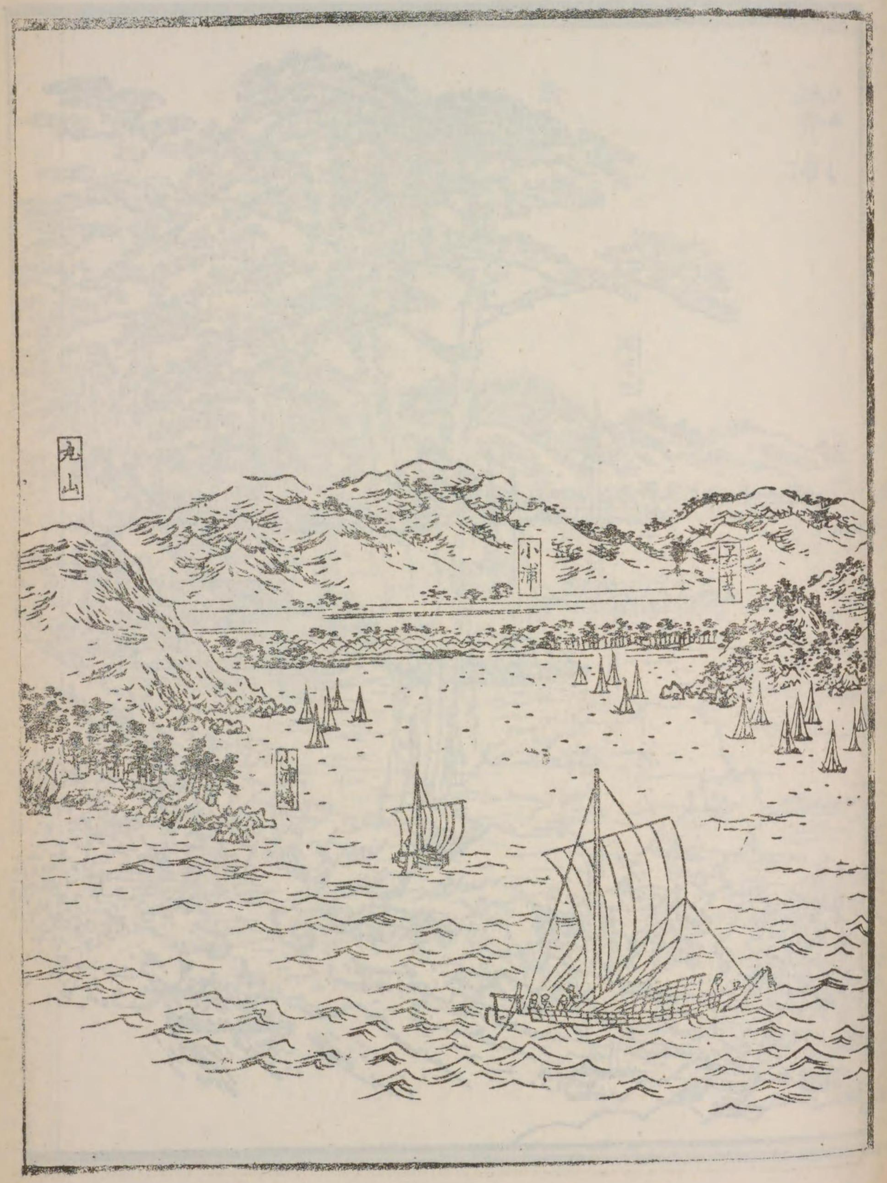
池中行者
二茶のこと
中秋の月
ふむらひて
和てまゐ
を喝る
そろ



くんと云へり或附法人慈清法師自筆の名号を天竺勒
一此所に捧げ奉り一寺を建て法華寺と号す妖僧行
て人を害せんと謀る人原澤池あり名号碑を抜て妖氣
を法力原に入れ慈願坊と其後奥州へ下りて氏愛
城出られども法人の帰依甚し紀に法をまげく
萩原村に留る事三年に及べり夫より又海部郡浦澤
浦或は土田郡須谷村頃れ山中岩村の水沿に若狭し
後は椅別掃尾寺に乳湯あり潘
よりて名草郡和佐山に草庵に移り此に留る事
三年夏に又東部に越く　官より小石川一行院を給へ
てここに草湯一道風を崇び文政元年十月
云日為悟に志しむるもの京佛唱れ来て先て庵
出て後をとどめ其後に原る事傳記に載て此

に暗に拾ひ者に拾徳近世猫林に移るすに甚
更に老幼の別なく誘れ来を養ひ撫れ養に
なく東西に毒を流頃佛移名れしを牧畜乃
撫に移るなく影一かつて其代奇特にて
どもなくして人口に膾炙今も牧畜に云る此法
無に絶ることなく一派の法流を傳へしこと
伏羲神農黄帝社　上志賀村の内に近世なるに社あり村中
因に云つ續日本紀云延暦十年斷伊勢云云紀伊等國百姓
殺牛用祭漢神と見えたり類聚三代格に
をもて祭れり神なり當社三宮を祀るとつへども後世
好事に者の所為にして紀に入れ九に比類なきなり
ぶべし
畠山政氏故居　中志賀村に政氏先祖の後に城云と此井に海辺に戦に城
首及数多れ故云を数地遠に戦死に城を行を九ヒしを云

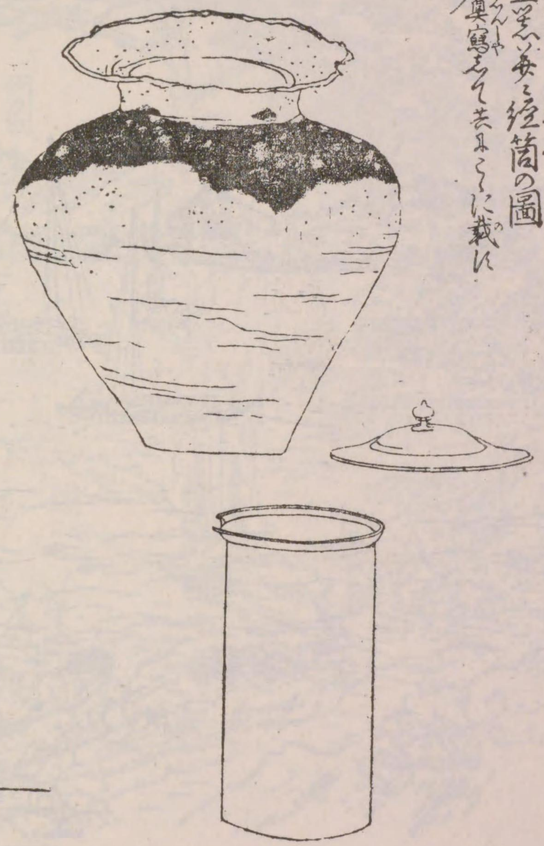
小浦
津久浦



カラコ

比井浦
大平

若一王子社藏古墨に安き経筒の圖
経文を大文字にて書しに載せ



保元三年丁巳宣十月廿三日記　大檀那比丘尼尊者
勸進信阿
執筆僧名聖　附弟子　加賀僧

三尾荘

志摩郡に西海辺にあり九ヶ村を総称し中方抗河尾二村の峰を北よりいてり太浦をへて其内又磯山を隔て小浦津久聖を経る比井尾河尾の村々二村は一名村の隔てなり別に村居をなせり名村の隔てなり別に

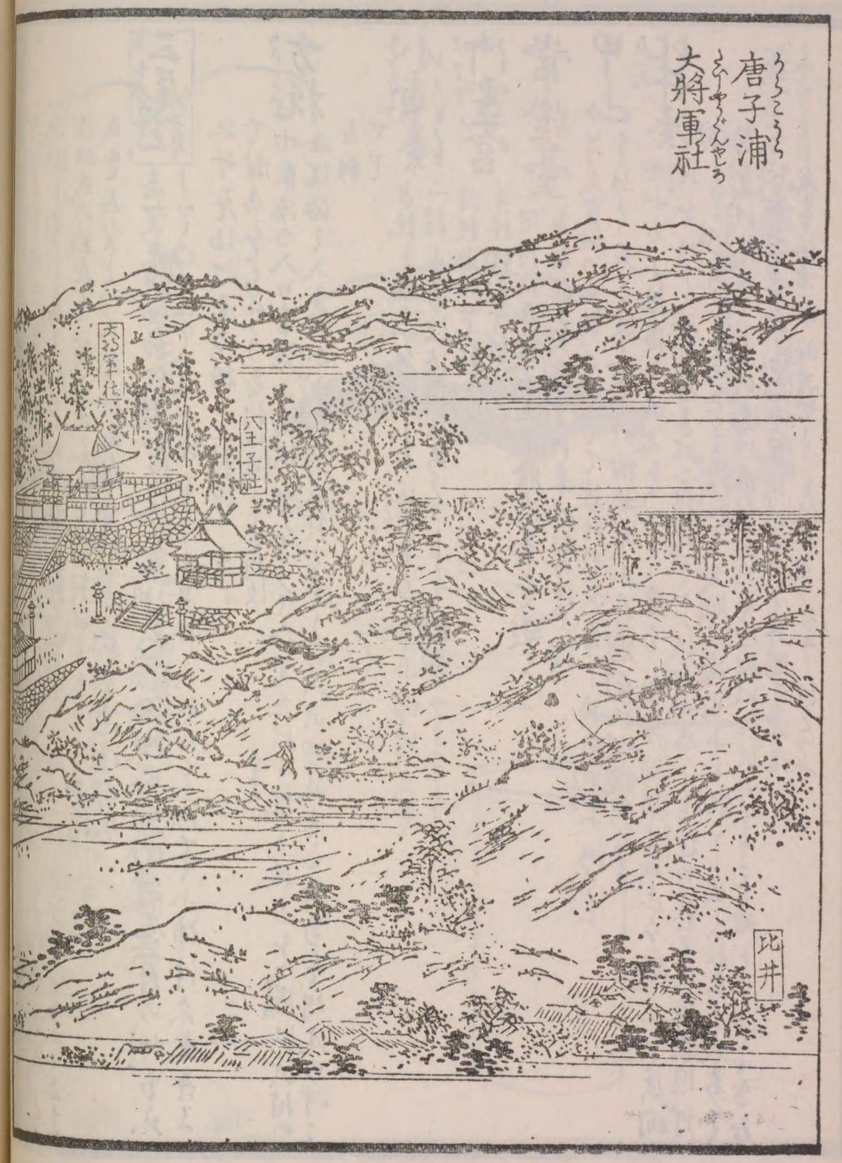
方抗　由良湊の入口南岸にあり小浦を隔て志摩郡小抗と磯山を境に北村の西端海に入る所小抗と名付けたり一村なれども小抗と名付北を白浦南を河尾の併せ

小浦湊　方抗と磯山を境にして小浦津久聖
二村共名湊内ひろくして船繋よし

御靈宮　同村小抗にあり

常燈臺　同村西端山上に燈明を焚て
海上を照す名高し次山中に樹林中に篝一東南に遠望し小浦暴風に
甲山　海上を照す村の出崎にあり

比井湊　西北に小浦湊と磯山を境に東南に遠望し小浦暴風に
潮を防ぐ比井尾子に二村湊に入る又磯山を隔て
方抗より遠望し又磯山を隔て
船繋よし湊あり比井尾に遷し抗村まで
ちがる所あり或は風波はげしく外海に
或は海中に漂死せしもあり


唐子浦
大將軍社
八王子社
比井

紀真狙
沖の帆
天狗寺
一行寺
唐子

若一王子社　内浦小河にて中古荒廃せしを寛永七年社僧住持の時境内の小くしを納ひ奉書小祥元二八巻を納ひ出し小中小かりうれ間にて社宮れ法華
慶安二年十月廿三日五こと
比井城沢　内村れ小山上小ひり　沢川を去れ数しらの小
大将軍社　唐子浦小ひりて一村
大郎殿堂　内浦古城れ松をいの　又長れ伝伴ひりの次
中之磯　比井湾口の岩なり
発湯井　比井浦れ南の湾を発湯とて
古老傳云古武内宿禰養母を守護奉て日高小来れる
とき此井泉を汲くらしてれ御発湯小奉てしとて
ゆく後世小ひて遠小村名小ひ呼び来れて村中おうり
今小ひて小ひて羅漢の長けきも此中流小よれるなるべ
し又當和尚湯を去る時の潔火を傳へしもといひす
家し小火を絶さるもあく偶火れ消しあれ中比湯小ひて

ものを用ふ所小村中絶て燈を用ひ又神を祭るる小
湯ゝてをなり後来ものゝ古れ抜ものとつ
榕樹　井れ傍小大樹あり比木衣来由良二尾等
の海遠小去多しと人ひ
此樹大小限者を高さ数十丈周囲数抱三月頃新葉を
生じ形ゆ柳れ葉小似く溶く天僊果れ葉小似て厚く
紋斑点なり七月れ頃茎なく枝幹及孫枝葉を
密め後実を結べり其殿、色花果れ甘くして小くし和
まく熟して赤しと去人採りて食用とし年を経る
もれを毎枝小糸れ垂れ嫩條を生し垂くとして其
下枝小茂れ又條を生じて其擇小茂此のゆく
後小小繁て其末絶小地小へく根を結ひ更小又
蔭葉を生じ後比繁ものゝ又年を経る小後ひて嫩條を生
ものゝ始のゆし其枝毎枝小麺を垂る小似くり小見ら

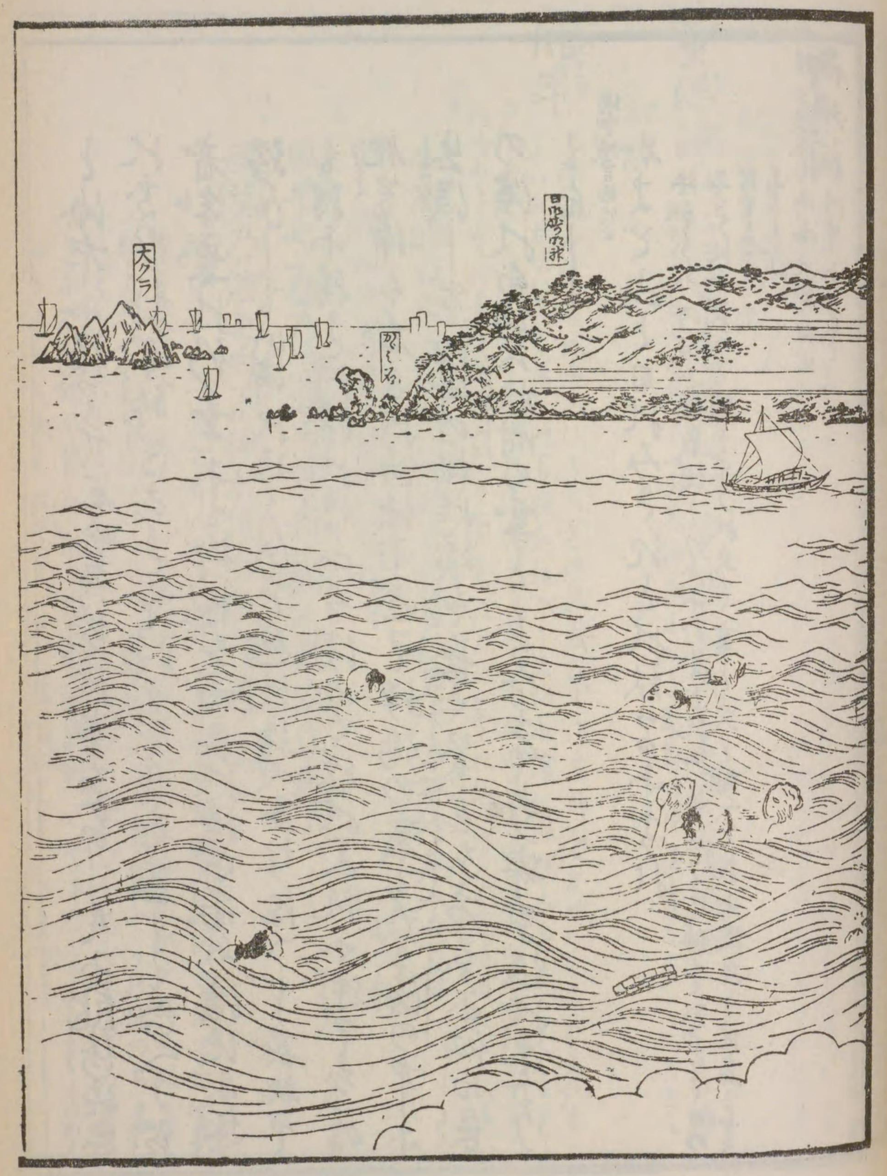
産湯井
榕樹

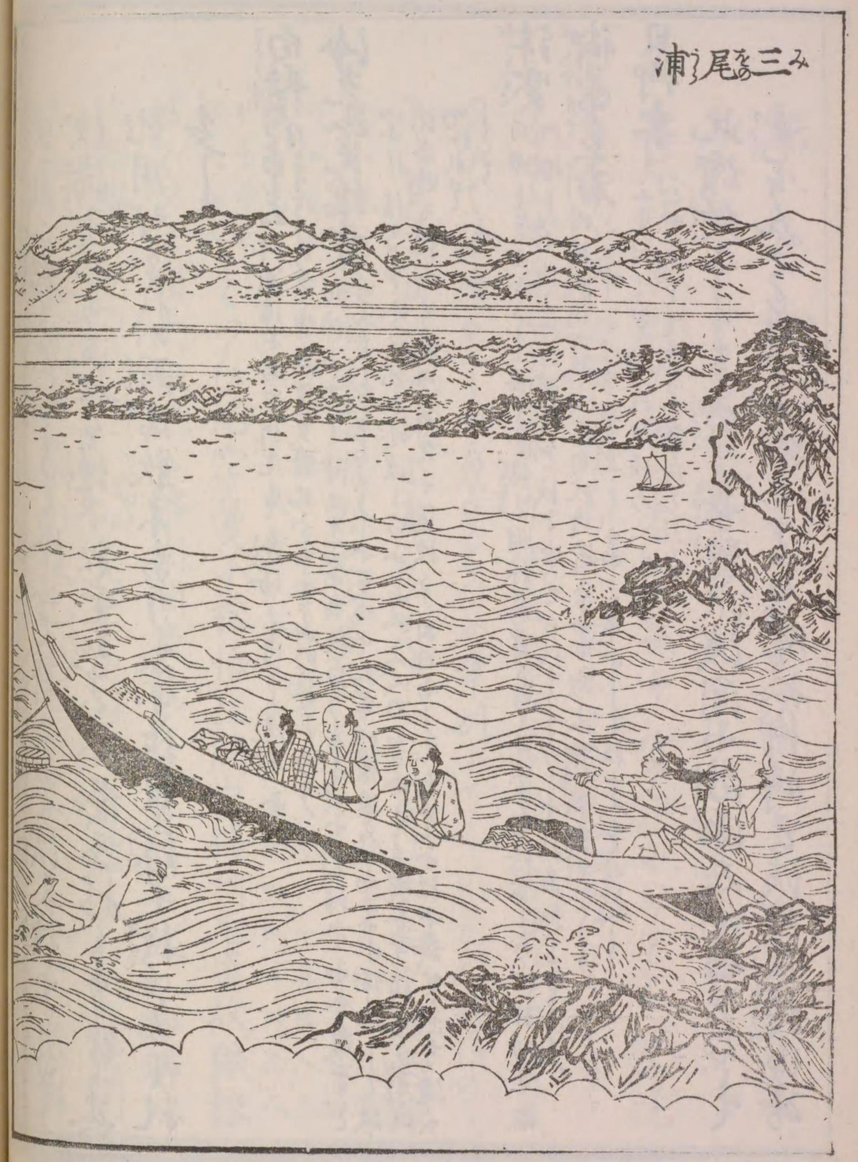
誉田天皇の御産湯
ふ用ゆゝとゝふ清水
のもとゝふ根軒鐵ろ
やく枝葉扶疎にして
立る榕樹ハ枝ゝゝふ
糸の如き嫩條を
たゝまて元り状貫を
垂ーとへどゝも散木ゝ
ゝとし世用に充らぶんが
倖に匠石の斧を
免るゝゝを得
ゝり

戮ハ丸ク細ハ代てハ長ク者
を教ハ丸ク其枝霖雨ニハ水ハ抑ハ抑ハ
を生ス其幹大なる者を其中空竅ハなりて鬱繞
くまく材とあ〳〵ハ〳〵とつふ氏樹ハ生ずるハ園をオホギタケ
とつふ味美あ〳〵て妻あ〳〵これ樹蕘麻ハく方言アカウヒ
つひて海邊愛くハ生ずるとつふ年刈ハてもとれ海浸の
ハ浪をもて其條地刈ハ生ずるを考ふハ劉恂ガ嶺表錄
異ハ榕樹桂廣容南府郭之内多栽此樹（丙根鬚繞枝幹屈盤上生嫩條如藤蔓工漸及地蘖植入土根節成一大榕樹三五處有根者又横枝著都樹則連理南人以爲常不謂之瑞木）とつひ品字箋ハ榕惟生閩中福州尤盛故號榕
城とつひ嶺南雜記ハ榕樹閩廣最多他省則無故紅梅驛以
北無榕とつひ（以上一宗氏筆記摘要）先年近村の者漂流して福州
ハ丸とるハ實ハ嶺南雜記ハ書あるめ〳〵とつひ氏樹

ハ氣ハ絶とぶ丸とるハ水出て薪とあ〳〵ハ又枝中もあ〳〵
ハ浦ハ行るもれて僅ハ紅を結ぶハ丸とるハ〳〵て其
化用なるれば環繞散木あり者ハ近て伐て採るもれ
多〳〵

白鬚明神社　河尾浦ハあり河尾と者ハ彩ハとは彩ハ
海光山光德寺　日浦ハあり浦ハ去ハ宗旨流ハ寺ハ彩ハ村中ハ全藏寺と
いふ去ハ〳〵あり〳〵ハ文明十六年伝信通名一向宗ハ帰依して改
宗し後ハ全れ此ハ迷ハ〳〵といふ義ハ上人の旨命ハ村ハ寺ハ浦より式
此ハ迷る村氏ハ磯の名元ハ区ハ〳〵ハ日ハ〳〵て教中ハ紅ハ教せ和寺ハ浦へ
とそ
紙漉　日浦より西ハ去〳〵出る磯ハ樹林翁背ハ〳〵て平ハ漉とつふ　祈功宮石
御茶屋石　〳〵日浦北内田村より日北御崎ハ〳〵磯ハ巨巖〳〵〳〵
日御崎　二尾村より坤北方坂乃二十
之町ハ〳〵て老ハ番所〳〵〳〵
此御崎ハ〳〵〳〵長鯨ハ波間ハ浸漂ハ〳〵て西を向て
〳〵ハ〳〵とも〳〵ハ御崎去ハの罠ハ招涛〳〵


大クラ


みさゝの尾ノ浦

と海中ニ横ヘテ二分島ヲ成シ物ヲ[illegible]ル不風清浪悪
ル事ナレバ再師等ノ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ト[illegible]
者年業ヲ[illegible]ル幸ニ[illegible]御[illegible]ヲ由良ル漢ニ[illegible]ル地ニ[illegible]
[illegible]ヒ[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]ケ[illegible]ベ[illegible]ル[illegible]
モ[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]浦ヲ右ニ[illegible]ル海[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
出没ス市江崎の松ル縁ヲ[illegible]ク[illegible]ヲ[illegible]ニ似白良
の濱ル白砂ハ非時の雪ヲ[illegible]テ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
も白し

[illegible]中納言[illegible]云

かまど山と日ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]

御崎祠[illegible]崎ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

[illegible]崎ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

美保浦 今ニ尾浦ト書ス和田村ヨリ[illegible]山ヲ越テ五ル約程一里漁家多シ民浦
の[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

風早 日浦ハ海辺南ル分ニ流ル[illegible]ル所ヲカザハイ又アミダバイ
[illegible]カザハイヲ風ヲ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

万葉ニ

カ麻播夜能美保乃浦廻乎白管仕見十方不怜無人念者

或云見者悲霜無人思丹

門七 風早之三穂乃浦廻乎榜舟之船人動浪立良下

門九 風莫乃濱之白浪徒於斯依久流見人無

按ニ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

久米若子
三穂崎に
篭らを
人圖

未未抄
中つ巻
為顕

新選六帖

浪なるみかれ浦遠の白鄰潟いつまとをれとみてゝあわむ　光俊朝臣

同

絶もの〻藻汐焼て水風早れ〻かれ浦とゝ水煙立るり　信實

龍王社　日浦の北方に水林中水にあり

光明寺　日浦水にあり浄土宗西流光明寺に孫を好く尾侍郎結和水平〻孫藻多く侍へくり

みかれ蓋のよるしくるひあしの葉屋　窓臥

わ浦とり海　三尾浦の西面海湾の中水にあり周廻三四丁許頂上水松二三株あり

三穂ヶ石室　三尾浦乃海磯にあり七八町ばかり十二三丈あるもの〻〻〻海上水面西水に迫るとゝ〻ども教て風波衝て実の小大小ヶ嶽むら〻れ立ける海面水に迫るとゝ〻ども教て風波衝て実の

岩ばかり　上古ありけるとも今考ゝ氏地ばかりの岩ども紀ヶ三尾ヶ石室者

岩完ばかりとも岩集水にあるとたゝ〻ゝ風まれ浪れ白波るゝも今考ゝ　迫来る食のも

みるとせ〻ゝとおけ〻ゝ上水のゝ〻る風まれ浪れ白波るゝも今考ゝ　迫来る食のも

ゝるとゝ西水ぬけ完とゝ〻ゝ行ゝ船主田歌荷著作了　似たり

万葉集三　博通法師　往二紀伊國見三三穂石室作

皮爲酢す久米能若子我伊座家留　一云家辛

雖見不飽鴨　一云安礼尓　家留可毛

常盤成石室者今毛安里家禮騰住家類人曽常無里

家留

石室戸爾立在松樹汝乎見者昔人乎相見如之

見津見津四久米能若子我伊觸家武磯之草根乃干

卷惜蒙

志木木

紀のふのみかれ岩尾ふさもる松風そ古き松水吹るゝ　定圓法師

五社百首

古れ〻ゝ松ヶ尾ゝ古むしてみ〻ゝ古ゝ松水吹るゝ　俊成卿

室治二年百首

秋急ゝ〻ゝ松ヶ尾ふふ雨のゝづゝまゝゝ人ゝまゝれむ　衣笠内大臣

小池社　三尾尾の東南水にあり中古は那賀郡の郷村と称ず

御埼大明神社　松田浦の小名中紙水にあり社殿なし今の名とゝ水にあり

三代實録元慶元年十月申日条

貞観十七年十月十日己未授紀伊國正六位上三前神

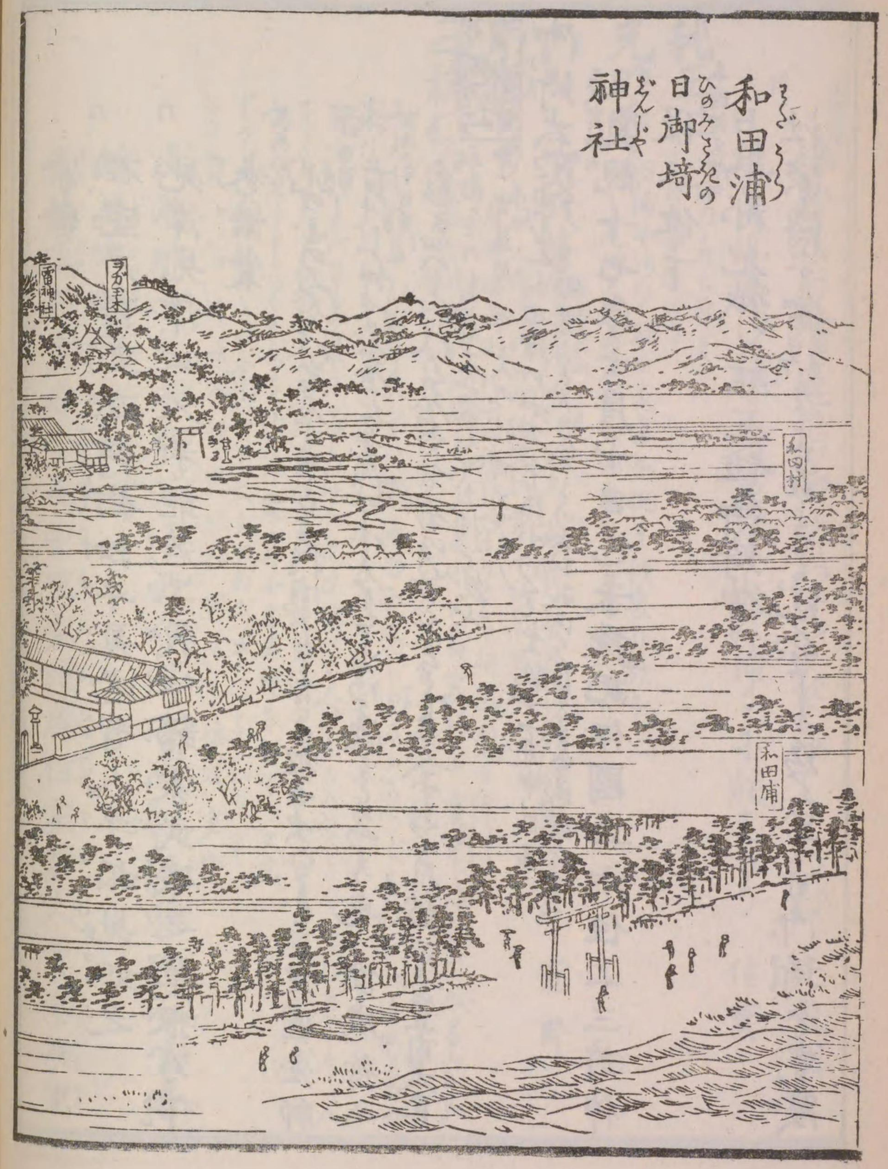
從五位下

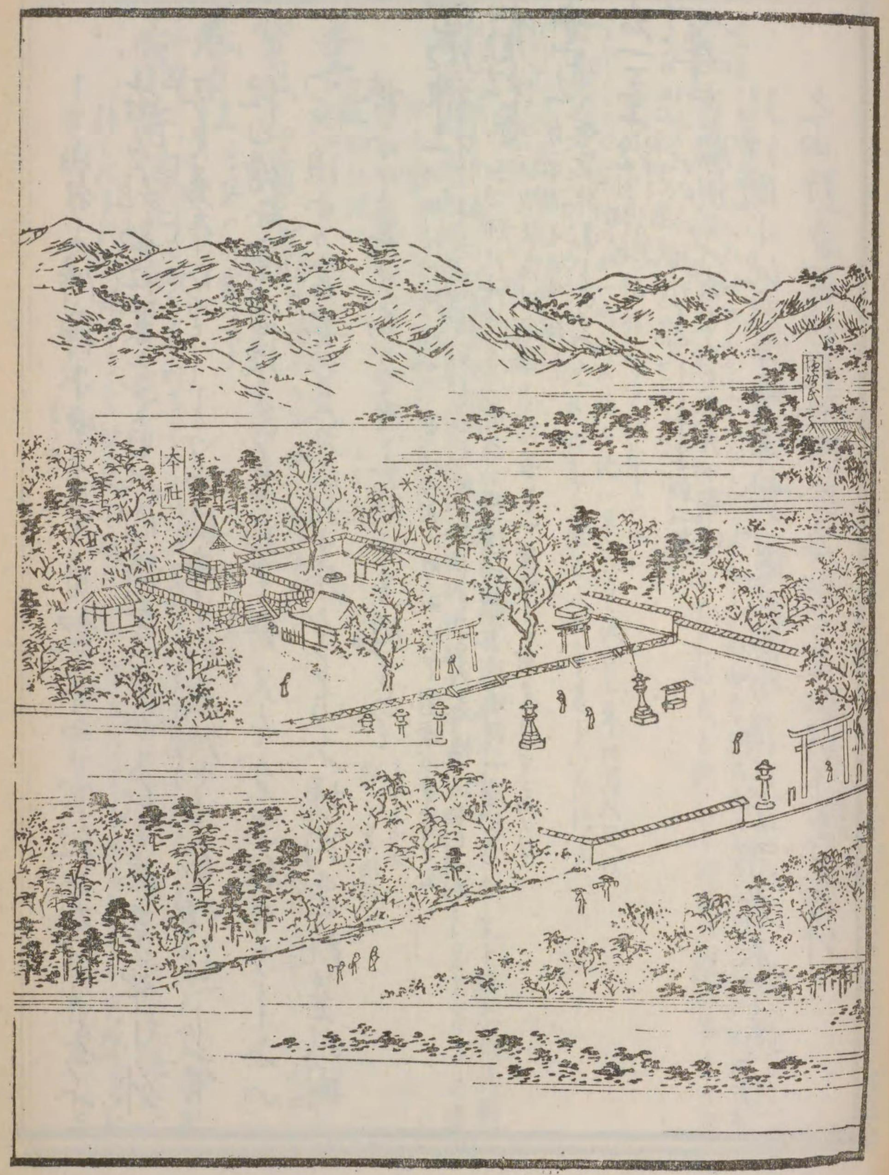
本国神名帳元

日高郡地祇　正三位御埼神

社家傳水當社を上古より法住〻ゝ為ひて日御埼を實渡

和田浦
日御埼神社





一宮御神社　御神社は摂社にて幸社の良入町にあり
古宮社　殿壮麗にて日代御崎をもとゝなす
国も若年にはしとゝなる後世こゝに神
社の傍に齋宮跡といふがあるを齋宮
つれ須にて富安の元丸山村に遷るといふ境内
林にて甚大なるを抱にも焼を焼
雷の神社　御崎社は摂社にて幸社の良入町にあり雷除の守符を出
和田松原　和田浦は海浜より古来四井浦は断崖なる故村内浦を
辺法元は断崖なる故村内浦を
王子社　古来浦にあり神を
若一王子社　小池村
二尾山　今は入山村にあり
紀伊国小池荘半分幸給二尾山
之由所見其内法也可令存知之旨
[illegible]

正平十年五月十二日　光中[illegible]

地頭小山一族[illegible]

入山古城址　入山村の山下にあり
文保十一年二月[illegible]
[illegible]
豊臣氏に仕へ紀伊守を設むとす
女郎墓　城址の西一町にあり
文字[illegible]
財部郷　今後して故郷村存せり建長文書にて宗と書せり
財部郷　日本紀大宝元年六月令記伊国河内摂津高年郡三郡[illegible]
[illegible]
王子社　財部村
寶永山清光院　日村にあり
春日社　[illegible]村の小宮
若宮寺淵　日村の若宮もとは[illegible]
[illegible]
[illegible]